

# 基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	研究科の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホウジン キョウトセイカダイガク 学校法人 京都精華大学									
フリガナ大学院の名称	キョウトセイカダイガクダイガクイン 京都精華大学大学院 (Kyoto Seika University, Graduate School)									
大学本部の位置	京都市左京区岩倉木野町137番地									
大学院の目的	<p>学術の理論と応用を研究・教授し、専門領域にとらわれない多角的視点と柔軟な創造力を養い、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。</p>									
新設研究科の目的	<p><b>【デザイン研究科】</b>                      広い視野と高い見識を備え、実践的に社会に貢献できる高度な専門技能を有した、次世代の表現者となり得る高度専門的職業人、および深い学識と独創的な視点を有した新しい文化の発信に貢献できる研究者を養成する。</p> <p><b>【マンガ研究科】</b>                      広い視野と高い見識を備え、実践的に社会に貢献できる高度な専門技能を有した、次世代の表現者となり得る高度専門的職業人、および深い学識と独創的な視点を有した新しい文化の発信に貢献できる研究者を養成する。</p>									
新設研究科の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	デザイン研究科 [Graduate School of Design] デザイン専攻 [Department of Design] 建築専攻 [Department of Architecture]	2	10	—	20	修士（芸術）	平成22年4月 第1年次	京都市左京区岩倉木野町137番地		
	マンガ研究科 [Graduate School of Manga] マンガ専攻 [Department of Manga]	2	20	—	40	修士（芸術）	平成22年4月 第1年次			
	計		35		70					
	同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	芸術研究科 芸術専攻（博士前期課程） [入学定員減] (△5)								
教育課程	新設研究科の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
	デザイン研究科 デザイン専攻	9科目	12科目	0科目	21科目	30単位				
	デザイン研究科 建築専攻	12科目	11科目	4科目	27科目	30単位				
マンガ研究科 マンガ専攻	9科目	12科目	0科目	21科目	30単位					
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員		
			教授	准教授	講師	助教	計			助手
	新設分	デザイン研究科 デザイン専攻		4 (4)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	7 (7)
		建築専攻		5 (5)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	9 (9)
		マンガ研究科 マンガ専攻		6 (6)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	3 (3)
		計		15 (15)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	23 (23)	0 (0)	13 (13)
	既設分	芸術研究科 芸術専攻（博士前期課程）		19 (19)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	7 (7)
		芸術研究科 芸術専攻（博士後期課程）		18 (18)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	0 (0)
		人文学研究科 人文学専攻		10 (10)	7 (7)	2 (2)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	7 (7)
		計		29 (29)	11 (11)	3 (3)	0 (0)	43 (43)	0 (0)	11 (11)
合計		44 (44)	18 (18)	4 (4)	0 (0)	66 (66)	0 (0)	21 (21)		

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	大学全体				
	事 務 職 員		125 (125)	30 (30)	155 (158)					
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	図 書 館 専 門 職 員		5 (5)	15 (15)	20 (20)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
計		130 (130)	45 (45)	175 (178)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 借用面積： 2,774㎡ 借用期間：27年 (平成40年1月迄) 貸与者： 京阪電気鉄道(株)				
	校 舎 敷 地	107,911 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	107,911 ㎡					
	運 動 場 用 地	92,562 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	92,562 ㎡					
	小 計	200,473 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	200,473 ㎡					
	そ の 他	39,466 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	39,466 ㎡					
合 計	239,939 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	239,939 ㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体				
		66,494 ㎡ ( 66,494 ㎡)	0 ㎡ ( 0 ㎡)	0 ㎡ ( 0 ㎡)	66,494 ㎡ ( 66,494 ㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	43 室	23 室	148 室	13 室 (補助職員 0人)	3 室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数		大学全体での共用分				
		デザイン研究科 デザイン専攻		6 室						
		デザイン研究科 建築専攻		6 室						
		マンガ研究科 マンガ専攻		9 室						
図 書 ・ 設 備	新設研究科の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分 図書 225,050冊 〔52,940冊〕 学術雑誌 508冊〔406冊〕 電子ジャーナル 28冊〔28冊〕 視聴覚資料 7,883点 機械・器具 2,343点 標本 8,965点		
	デザイン研究科 デザイン専攻	5,000〔2,000〕 (4,426〔1,551〕)	109〔50〕 (89〔41〕)	0〔0〕 (0〔0〕)	170 (146)	10 (8)	10 (7)			
	デザイン研究科 建築専攻	4,500〔1,500〕 (3,725〔1,124〕)	50〔15〕 (47〔12〕)	0〔0〕 (0〔0〕)	130 (107)	20 (17)	0 (0)			
	マンガ研究科 マンガ専攻	4,500〔450〕 (3,980〔388〕)	130〔5〕 (119〔0〕)	0〔0〕 (0〔0〕)	1,000 (795)	10 (1)	150 (141)			
	計	14,000〔3,950〕 (12,131〔3,063〕)	290〔70〕 (256〔53〕)	0〔0〕 (0〔0〕)	1,300 (1,048)	40 (26)	160 (148)			
図 書 館		面積		閲覧座席数		取 納 可 能 冊 数		大学全体		
		7,405 ㎡		697 席		250,000 冊				
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		3,106 ㎡		テニスコート5面、サブアリーナ、アスレチック・ジム						
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。 ※学生納付金は上から、修了要件を、修士作品を以って充たそうとする者、修士論文を以って充たそうとする者の順。
		教員1人当り研究費等		500千円	500千円	－千円	－千円	－千円	－千円	
		共同研究費等	68,545千円	69,000千円	69,000千円	－千円	－千円	－千円	－千円	
		図書購入費	23,000千円	23,000千円	23,000千円	－千円	－千円	－千円	－千円	
	設備購入費	68,966千円	69,000千円	69,000千円	－千円	－千円	－千円	－千円		
学生1人当り納付金	第1年次		第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,381千円		1,281千円	－千円	－千円	－千円	－千円			
		1,013千円		913千円	－千円	－千円	－千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			資産運用収入、寄附金などの自己資金、国庫補助金等で充当する							

大 学 の 名 称	京都精華大学								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
既設大学等の状況	芸術学部						1.00		
	造形学科	4	112	2年次 4 3年次 4	468	学士(芸術)	1.06	昭和54年度	平成18年度より定員を変更
	素材表現学科	4	64	2年次 3 3年次 3	271	学士(芸術)	0.90	平成18年度	
	メディア造形学科	4	64	2年次 3 3年次 3	271	学士(芸術)	0.99	平成18年度	
	デザイン学科	4	—	—	—	学士(芸術)	—	昭和54年度	平成18年度より学生募集停止
	マンガ学科	4	—	—	—	学士(芸術)	—	平成12年度	平成18年度より学生募集停止
	デザイン学部						1.05		
	ビジュアルデザイン学科	4	96	2年次 4 3年次 4	404	学士(芸術)	1.09	平成18年度	
	プロダクトデザイン学科	4	64	2年次 3 3年次 3	271	学士(芸術)	1.06	平成18年度	
	建築学科	4	48	2年次 2 3年次 2	202	学士(芸術)	0.95	平成18年度	
	マンガ学部						1.06		京都市左京区岩倉木野町137番地
	マンガ学科	4	96	2年次 3 3年次 3	399	学士(芸術)	1.07	平成18年度	
	マンガプロデュース学科	4	40	2年次 2 3年次 2	170	学士(芸術)	1.03	平成18年度	
	アニメーション学科	4	64	2年次 2 3年次 2	266	学士(芸術)	1.07	平成18年度	
	人文学部						0.73		
	環境社会学科	4	—	—	—	学士(人文)	—	平成12年度	平成21年度より学生募集停止
	社会メディア学科	4	—	—	—	学士(人文)	—	平成15年度	平成21年度より学生募集停止
	文化表現学科	4	—	—	—	学士(人文)	—	平成15年度	平成21年度より学生募集停止
	人文学科	4	—	—	—	学士(人文)	—	平成元年度	平成15年度より学生募集停止
	総合人文学科	4	450	—	450	学士(人文)	0.73	平成21年度	
	芸術研究科						1.33		
	芸術専攻 博士前期課程	2	25	—	50	修士(芸術)	1.40	平成16年度	
	芸術専攻 博士後期課程	3	5	—	15	博士(芸術)	1.00	平成15年度	
人文学研究科						0.62			
人文学専攻	2	10	—	20	修士(人文学)	0.62	平成5年度		
附属施設の概要	該当なし								

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(デザイン研究科 デザイン専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通基盤科目	表現特論	1前	2			○										兼1
	知的創造特論	1後	2			○										兼1
	プロジェクト企画演習	1後	1							1						兼1
	プロジェクトワーク演習1	1・2前		2				○								兼1
	プロジェクトワーク演習2	1・2後		2				○								兼1
	プロジェクトワーク演習3	1・2前		2				○								兼1
	プロジェクトワーク演習4	1・2後		2				○								兼1
	英語プレゼンテーション演習	1前		1				○								兼1
	学術論文演習1	1・2前		2				○								兼1
	学術論文演習2	1・2後		2				○								兼1
	原書講読1	1・2前		2			○									兼1
	原書講読2	1・2後		2			○									兼1
小計 (12科目)	—	—	5	17	0	—	—	—	0	1	0	0	0	0	兼12	—
専門特講科目	デザイン理論特講	1前	2			○				1						兼1
	創造領域特講1	1・2前		2		○										兼1
	創造領域特講2	1・2後		2		○										兼1
	創造領域特講3	1・2前		2		○										兼1
	創造領域特講4	1・2後		2		○										兼1
小計 (5科目)	—	—	2	8	0	—	—	—	0	1	0	0	0	0	兼5	—
専門研究科目	デザイン研究1	1前	4					○			2					
	デザイン研究2	1後	4					○			1	2				
	デザイン研究3	2前	4					○			1	2				
	デザイン研究4	2後	4					○			2	1				
	小計 (4科目)	—	—	16	0	0	—	—	—	4	3	0	0	0	0	0
合計 (21科目)		—	23	25	0	—	—	—	4	3	0	0	0	0	兼16	—
学位又は称号		修士 (芸術)		学位又は学科の分野				美術関係								
修了要件及び履修方法								授業期間等								
共通基盤科目から必修5単位を含め6単位以上、専門特講科目は自研究科から4単位以上および他研究科から2単位以上の計8単位以上、専門研究科目から必修16単位、計30単位以上修得および修士作品または修士論文の提出								1 学年の学期区分			2 学期					
								1 学期の授業期間			1 5 週					
								1 時限の授業時間			9 0 分					

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(デザイン研究科 建築専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通基盤科目	表現特論	1前	2			○										兼1
	知的創造特論	1後	2			○										兼1
	プロジェクト企画演習	1後	1					○								兼2
	プロジェクトワーク演習1	1・2前		2				○								兼1
	プロジェクトワーク演習2	1・2後		2				○		1						
	プロジェクトワーク演習3	1・2前		2				○		1						
	プロジェクトワーク演習4	1・2後		2				○								兼1
	英語プレゼンテーション演習	1前		1				○								兼1
	学術論文演習1	1・2前		2				○								兼1
	学術論文演習2	1・2後		2				○								兼1
	原書講読1	1・2前		2			○									兼1
	原書講読2	1・2後		2			○									兼1
小計 (12科目)	—	—	5	17	0	—	—	—	2	0	0	0	0	0	兼11	—
専門特講科目	デザイン理論特講	1前	2			○			1							兼1
	創造領域特講1	1・2前		2		○										兼1
	創造領域特講2	1・2後		2		○										兼1
	創造領域特講3	1・2前		2		○										兼1
	創造領域特講4	1・2後		2		○										兼1
小計 (5科目)	—	—	2	8	0	—	—	1	0	0	0	0	0	兼5	—	
専門研究科目	建築研究1	1前	4					○	1							
	建築研究2	1後	4					○	1							
	建築研究3	2前	4					○	1	1						
	建築研究4	2後	4					○	1	1						
	建築設計特講	1・2前		2		○			1							
	先端建築技術特講	1・2後		2		○			1							
	建築家倫理特講	1・2前		2		○			1							
	建築構造演習	1・2後		2				○								兼1
	建築設備演習	1・2前		2				○								兼1
	建築設計監理演習	1・2後		4				○		2						
小計 (10科目)	—	—	16	14	0	—	—	4	2	0	0	0	0	兼2	—	
合計 (27科目)		—	23	39	0	—	—	5	2	0	0	0	0	兼17	—	
学位又は称号		修士 (芸術)		学位又は学科の分野			美術関係									
修 了 要 件 及 び 履 修 方 法							授 業 期 間 等									
共通基盤科目から必修5単位を含め6単位以上、専門特講科目は自研究科から4単位以上および他研究科から2単位以上の計8単位以上、専門研究科目から必修16単位、計30単位以上修得および修士作品または修士論文の提出							1 学年の学期区分			2 学期						
							1 学期の授業期間			1 5 週						
							1 時限の授業時間			9 0 分						

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(マンガ研究科 マンガ専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通基盤科目	表現特論	1前	2			○										兼1
	知的創造特論	1後	2			○										兼1
	プロジェクト企画演習	1後	1													兼2
	プロジェクトワーク演習1	1・2前		2				○								兼1
	プロジェクトワーク演習2	1・2後		2				○								兼1
	プロジェクトワーク演習3	1・2前		2				○								兼1
	プロジェクトワーク演習4	1・2後		2				○								兼1
	英語プレゼンテーション演習	1前		1				○								兼1
	学術論文演習1	1・2前		2				○								兼1
	学術論文演習2	1・2後		2				○								兼1
	原書講読1	1・2前		2			○									兼1
	原書講読2	1・2後		2			○									兼1
小計 (12科目)	—	—	5	17	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼13	—
専門特講科目	マンガ理論特講	1前	2			○			1							
	マンガ領域特講1	1・2前		2		○			1		1					
	マンガ領域特講2	1・2後		2		○										
	マンガ領域特講3	1・2前		2		○			1							
	マンガ領域特講4	1・2後		2		○					1					
小計 (5科目)	—	—	2	8	0	—	—	2	1	1	0	0	0	0	—	
専門研究科目	マンガ研究1	1前	4					○	5	1						
	マンガ研究2	1後	4					○	5	1						
	マンガ研究3	2前	4					○	5	1						
	マンガ研究4	2後	4					○	5	1						
	小計 (4科目)	—	—	16	0	0	—	—	5	1	0	0	0	0	0	—
合計 (21科目)		—	23	25	0	—	—	—	6	2	1	0	0	0	兼13	—
学位又は称号		修士 (芸術)		学位又は学科の分野			美術関係									
修 了 要 件 及 び 履 修 方 法							授 業 期 間 等									
共通基盤科目から必修5単位を含め6単位以上、専門特講科目は自研究科から4単位以上および他研究科から2単位以上の計8単位以上、専門研究科目から必修16単位、計30単位以上修得および修士作品または修士論文の提出							1 学年の学期区分			2 学期						
							1 学期の授業期間			1 5 週						
							1 時限の授業時間			9 0 分						

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(芸術研究科 博士前期課程 芸術専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通基盤科目	表現特論	1前	2			○			1						兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1
	知的創造特論	1後	2			○									
	プロジェクト企画演習	1後	1						1		1				
	プロジェクトワーク演習1	1・2前		2				○							
	プロジェクトワーク演習2	1・2後		2				○							
	プロジェクトワーク演習3	1・2前		2				○							
	プロジェクトワーク演習4	1・2後		2				○							
	英語プレゼンテーション演習	1前		1				○							
	学術論文演習1	1・2前		2				○		1					
	学術論文演習2	1・2後		2				○							
	原書講読1	1・2前		2			○								
	原書講読2	1・2後		2			○								
小計 (12科目)	—	—	5	17	0	—	—	—	3	0	1	0	0	兼9	
専門特講科目	芸術理論特講	1前	2			○			1						
	表現領域特講1	1・2前		2		○								兼1	
	表現領域特講2	1・2後		2		○								兼1	
	表現領域特講3	1・2前		2		○								兼1	
	表現領域特講4	1・2後		2		○								兼1	
小計 (5科目)	—	—	2	8	0	—	—	—	1	0	0	0	0	兼4	
専門研究科目	芸術研究1	1前	4					○	10	3					
	芸術研究2	1後	4					○	11	2					
	芸術研究3	2前	4					○	13	2					
	芸術研究4	2後	4					○	13	2					
	小計 (4科目)	—	—	16	0	0	—	—	—	18	4	0	0	0	0
合計 (21科目)		—	23	25	0	—	—	—	19	4	1	0	0	兼14	
学位又は称号		修士 (芸術)		学位又は学科の分野				美術関係							
修了要件及び履修方法								授業期間等							
共通基盤科目から必修5単位を含め6単位以上、専門特講科目は自研究科から4単位以上および他研究科から2単位以上の計8単位以上、専門研究科目から必修16単位、計30単位以上修得および修士作品または修士論文の提出								1 学年の学期区分			2 学期				
								1 学期の授業期間			1 5 週				
								1 時限の授業時間			9 0 分				

## 授 業 科 目 の 概 要

(デザイン研究科 デザイン専攻)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 基盤 科目	表現特論	表現とは何か?を文明論的な視点から考える。具体的には、三つの観点から表現の問題を考察する。ひとつは、表現の概念史である。古代から現代までの表現を概観しつつ、現代における表現の概念を抽出する。二つ目は、造形、言語、音楽、身体等の表現領域での作品を分析する。いわば表現のフィールドワークである。三つ目は、表現の美的政治学である。ある作品(群)の社会的受容と効果の構図を考察する。	
	知的創造特論	芸術、デザイン、マンガ、身体や音楽など、どのような分野においても、豊かな表現には、ことばに対する豊穡な感性が必要となる。文学を含めた、広い意味での詩的言語の可能性と広がりに触れる。ここでは、ことばが多様なイメージと結びついていること、またそれが新たな表現を生み出す創造的な足場となることを知り、表現者として感受性を高めることを目的とする。	
	プロジェクト企画演習	各自の専攻領域における制作作品・研究内容を広く社会へ提案するために、どのような方策が可能であるか、グループディスカッションを中心に意見交換を行い、他研究科学生の研究内容・プロジェクトテーマとの協同の可能性を探りつつ、プロジェクトの立案を行う。シンポジウムの開催、イベントの企画運営、産学官連携事業、商品開発、中高生向け教育プログラムの立案等、社会へ発信する内容として企画を作成する。テーマは学生と担当教員との協議によって決定する。	
	プロジェクトワーク演習1	社会を変動させる「表現」を企画・提案し、遂行する能力を身につける。あるテーマを持つ現実社会のプロジェクトを組み立て、異なる専攻領域の学生達が制作へ向けて思想・手法・技法をクロスさせて企画立案し、具体的な制作物やプログラムとして社会へ新しい提案を行う。プロジェクトの遂行にあたっては、公共団体、民間企業、他大学等の外部団体とのコラボレーションを基軸とする。プロジェクトの内容は学生と担当教員との協議により決定する。	
	プロジェクトワーク演習2	社会を変動させる「表現」を企画・提案し、遂行する能力を身につける。あるテーマを持つ現実社会のプロジェクトを組み立て、異なる専攻領域の学生達が制作へ向けて思想・手法・技法をクロスさせて企画立案し、具体的な制作物やプログラムとして社会へ新しい提案を行う。プロジェクトの遂行にあたっては、公共団体、民間企業、他大学等の外部団体とのコラボレーションを基軸とする。プロジェクトの内容は学生と担当教員との協議により決定する。	
	プロジェクトワーク演習3	社会を変動させる「表現」を企画・提案し、遂行する能力を身につける。あるテーマを持つ現実社会のプロジェクトを組み立て、異なる専攻領域の学生達が制作へ向けて思想・手法・技法をクロスさせて企画立案し、具体的な制作物やプログラムとして社会へ新しい提案を行う。プロジェクトの遂行にあたっては、公共団体、民間企業、他大学等の外部団体とのコラボレーションを基軸とする。プロジェクトの内容は学生と担当教員との協議により決定する。	
	プロジェクトワーク演習4	社会を変動させる「表現」を企画・提案し、遂行する能力を身につける。あるテーマを持つ現実社会のプロジェクトを組み立て、異なる専攻領域の学生達が制作へ向けて思想・手法・技法をクロスさせて企画立案し、具体的な制作物やプログラムとして社会へ新しい提案を行う。プロジェクトの遂行にあたっては、公共団体、民間企業、他大学等の外部団体とのコラボレーションを基軸とする。プロジェクトの内容は学生と担当教員との協議により決定する。	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通基盤科目	英語プレゼンテーション演習	ますますグローバル化する今日の社会においては、日本語のみならず英語でのプレゼンテーションが求められる機会も多い。そうした社会の要求に備えて、表現に関わる者が自らの作品についての言語的説明能力を磨いておくことは重要である。本講義は芸術・表現に関わる者を対象に、論理的で当を得た英語の原稿作成と口頭発表による総合的プレゼンテーション能力を養うことを目的とする。	
	学術論文演習1	学術論文作成のために必要な基礎を学ぶ。論文作成に要する資料の調査方法、参考文献、キャプションおよび図版などの扱い方の留意点、学術論文の構成や書式、文法など、学術的な論文の書き方を学ぶことを通して、学術的・論理的な思考回路を形成することを同時にめざす。また、参考論文を用い、学術論文に対する内容理解の向上や正確な読解力を身につけるための実践的な論文作成演習を行う。	
	学術論文演習2	学術論文演習1に引き続いて、学術論文作成の基礎を学び、より高度な論文作成能力を修得する。論文作成に要する資料の調査方法、参考文献、キャプションおよび図版などの扱い方の留意点、学術論文の構成や書式、文法など、学術的な論文の書き方を学ぶことを通して、学術的・論理的な思考回路を形成することも同時にめざす。また、参考論文を用いて、学術論文に対する内容理解の向上や正確な読解力も身につける。	
	原書講読1	どの領域を学ぶかにかかわらず、学生が自らの研究を進めるにあたって必要とする専門分野の原典および資料などを英語で読むための能力形成を目的とする。様々な手段を用いて、講読のなかで英文読解力、翻訳力を総合的に向上させることにはかる。読解、翻訳の過程において、語学力の向上と論理展開の方法や、英語を背景とする思考形態への理解も深めていくことを同時におこなう。	
	原書講読2	原書講読1に引き続き、どの領域の如何を問わず、学生が研究を進めるにあたって必要とする専門分野の原典および資料などを英語で読むための、さらに高い能力を形成することを目的とする。様々な手段を用いて、講読のなかで英文読解力、翻訳力を総合的に向上させることにはかる。さらに、読解、翻訳の過程において、語学力の向上のみならず、研究を行う上での論理展開の方法や、英語を背景とする思考形態への理解も深めていくことを同時におこなう。	
専門特講科目	デザイン理論特講	この講義では、「デザイン」が社会においてどのような役割を果たすのかを、様々な角度から追究する。人間生活や産業などにおける様々なデザイン理論を学ぶことによって、高度な知識を深める。また一方では、ヴィジュアルカルチャー論やマテリアル・カルチャー論の視座から、芸術やマンガなどの隣接諸文化＝制度との関わりはどのようなものであるか、デザインがどのように流通し受容されるかなど、さまざまな問題から近現代デザインの歴史や理論を考察する。	
	創造領域特講1	クリエイターとしての基盤を形成するために、『表現する自分』を掘り下げていくことを主眼に置く。社会で活躍する優秀な表現者が実際に展開している、さまざまなアプローチをベースに「問題点の模索・発見」「ユニークポイントの確立・検証」「客観化」「定着」「社会とのつながり」など、制作プロセスにおける必須な思考を学ぶ。全体講義と個別指導（作品批評、プレゼンテーションなど）の双方を行い、受講者が自らの表現の基礎や手法を高めていくことをめざす。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門特講科目	創造領域特講2	製品開発の初め、デザインコンセプトを練る段階から、障害のある人や高齢者をリードユーザとしてデザインプロセスに巻き込む手法であるインクルーシブデザイン。多様なユーザニーズを容易に一般化するのではなく、ただ一人の個人に徹底的に向き合うことからデザインを始め、段階的にシナリオを拡張していく点が特徴的をもつこの講義では、生活者個人の視点から「気づき」をユーザとデザイナーの対話の中に顕在化する手法を学ぶ。	
	創造領域特講3	ジャンルにとらわれないさまざまな実例をもとに、「プロデュース」という観点から、表現や創造についての考察を深める。自身がプロデューサーとして活動する場合の能力を獲得するばかりでなく、作家、クリエイターを志向する者においてもセルフ・プロデュース能力を培う。「プロデュース」という視点を導入することで、自己表現された作品を社会／他者との関係でどのように位置づけていくかを追究し、表現活動の立脚点を形成することを学べる。	
	創造領域特講4	出版、広告、テレビ、映像、WEBなど、デザインの現場となるあらゆるメディアにおいて通底する、ビジネス展開のアプローチ、企画立案、プレゼンテーション、マネージメントなど、作品やプロジェクトの形成過程を豊富な実践例を通じて学ぶ。また、それらを単にビジネス・モデルとしてではなく、現代におけるメディアとカルチャーへの総合的な理解を深めるための媒介としてとらえ、新しいカルチャーを創造する表現者としてのクリエイティビティを獲得する。	
専門研究科目	デザイン研究1	<p>(概要) 各自の研究テーマに沿って、作品制作または論文作成を行い、それに対して担当指導教員が適宜指導を行う。作品制作または論文作成を段階的に指導し、発表や討論などを通じ、修士作品制作または修士論文作成のテーマと構想を深化させる。</p> <p>(坪内成晃) 視覚伝達デザインの領域において、多様な表現方法および現代社会におけるデザインプロセス等を考慮し、それらに基づいた作品制作を通じて実践的な研究指導を行う。</p> <p>(井上斌策) プロダクトデザインの領域において、多様な表現方法および現代社会におけるデザインプロセス等を考慮し、それらに基づいた作品制作を通じて実践的な研究指導を行う。</p> <p>(佐藤敬之) デザイン理論研究の領域において、現代社会におけるデザイン手法、デザイン史、デザインを通じた人間や社会のあり方などのテーマについて論文を作成するための研究指導を行う。</p>	
	デザイン研究2	<p>(概要) 各自の研究テーマに沿って、作品制作または論文作成を行い、それに対して担当指導教員が適宜指導を行う。作品制作または論文作成を段階的に指導し、発表や討論などを通じ、修士作品制作または修士論文作成のテーマと構想を深化させる。</p> <p>(坪内成晃) 視覚伝達デザインの領域において、多様な表現方法および現代社会におけるデザインプロセス等を考慮し、それらに基づいた作品制作を通じて実践的な研究指導を行う。</p> <p>(大迫克全) プロダクトデザインの領域において、多様な表現方法および現代社会におけるデザインプロセス等を考慮し、それらに基づいた作品制作を通じて実践的な研究指導を行う。</p> <p>(佐藤守弘) デザイン理論研究の領域において、現代社会におけるデザイン手法、デザイン史、デザインを通じた人間や社会のあり方などのテーマについて論文を作成するための研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門研究科目	デザイン研究3	<p>(概要) 各自の研究テーマに沿って修士作品制作または修士論文作成を行い、それに対して担当指導教員が適宜指導を行う。中間成果を段階的に発表する学生間の相互批評の場や、指導教員以外の教員から助言を受ける場を設けるなど、テーマや表現が固着しないような指導体制にて、修士作品または修士論文の完成を目指す。</p> <p>(松谷昌順) 視覚伝達デザインの領域において、多様な表現方法および現代社会におけるデザインプロセス等を考慮し、それらに基づいた作品制作を通じて実践的な研究指導を行う。</p> <p>(中田希佳) プロダクトデザインの領域において、多様な表現方法および現代社会におけるデザインプロセス等を考慮し、それらに基づいた作品制作を通じて実践的な研究指導を行う。</p> <p>(佐藤守弘) デザイン理論研究の領域において、現代社会におけるデザイン手法、デザイン史、またデザインを通じた人間や社会のあり方などのテーマについて論文を作成するための研究指導を行う。</p> <p>(佐藤敬之) デザイン理論研究の領域において、現代社会におけるデザイン手法、デザイン史、またデザインを通じた人間や社会のあり方などのテーマについて論文を作成するための研究指導を行う。</p>	
	デザイン研究4	<p>(概要) 各自の研究テーマに沿って修士作品制作または修士論文作成を行い、それに対して担当指導教員が適宜指導を行う。中間成果を段階的に発表する学生間の相互批評の場や、指導教員以外の教員から助言を受ける場を設けるなど、テーマや表現が固着しないような指導体制にて、修士作品または修士論文の完成を目指す。</p> <p>(松谷昌順) 視覚伝達デザインの領域において、多様な表現方法および現代社会におけるデザインプロセス等を考慮し、それらに基づいた作品制作を通じて実践的な研究指導を行う。</p> <p>(丸谷彰) プロダクトデザインの領域において、多様な表現方法および現代社会におけるデザインプロセス等を考慮し、それらに基づいた作品制作を通じて実践的な研究指導を行う。</p> <p>(佐藤守弘) デザイン理論研究の領域において、現代社会におけるデザイン手法、デザイン史、またデザインを通じた人間や社会のあり方などのテーマについて論文を作成するための研究指導を行う。</p> <p>(佐藤敬之) デザイン理論研究の領域において、現代社会におけるデザイン手法、デザイン史、またデザインを通じた人間や社会のあり方などのテーマについて論文を作成するための研究指導を行う。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(デザイン研究科 建築専攻)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 基盤 科目	表現特論	表現とは何か?を文明論的な視点から考える。具体的には、三つの観点から表現の問題を考察する。ひとつは、表現の概念史である。古代から現代までの表現を概観しつつ、現代における表現の概念を抽出する。二つ目は、造形、言語、音楽、身体等の表現領域での作品を分析する。いわば表現のフィールドワークである。三つ目は、表現の美的政治学である。ある作品(群)の社会的受容と効果の構図を考察する。	
	知的創造特論	芸術、デザイン、マンガ、身体や音楽など、どのような分野においても、豊かな表現には、ことばに対する豊かな感性が必要となる。文学を含めた、広い意味での詩的言語の可能性と広がりに触れる。ここでは、ことばが多様なイメージと結びついていること、またそれが新たな表現を生み出す創造的な足場となることを知り、表現者として感受性を高めることを目的とする。	
	プロジェクト企画演習	各自の専攻領域における制作作品・研究内容を広く社会へ提案するために、どのような方策が可能であるか、グループディスカッションを中心に意見交換を行い、他研究科学生の研究内容・プロジェクトテーマとの協同の可能性を探りつつ、プロジェクトの立案を行う。シンポジウムの開催、イベントの企画運営、産学官連携事業、商品開発、中高生向け教育プログラムの立案等、社会へ発信する内容として企画を作成する。テーマは学生と担当教員との協議によって決定する。	
	プロジェクトワーク演習1	社会を変動させる「表現」を企画・提案し、遂行する能力を身につける。あるテーマを持つ現実社会のプロジェクトを組み立て、異なる専攻領域の学生達が制作へ向けて思想・手法・技法をクロスさせて企画立案し、具体的な制作物やプログラムとして社会へ新しい提案を行う。プロジェクトの遂行にあたっては、公共団体、民間企業、他大学等の外部団体とのコラボレーションを基軸とする。プロジェクトの内容は学生と担当教員との協議により決定する。	
	プロジェクトワーク演習2	社会を変動させる「表現」を企画・提案し、遂行する能力を身につける。あるテーマを持つ現実社会のプロジェクトを組み立て、異なる専攻領域の学生達が制作へ向けて思想・手法・技法をクロスさせて企画立案し、具体的な制作物やプログラムとして社会へ新しい提案を行う。プロジェクトの遂行にあたっては、公共団体、民間企業、他大学等の外部団体とのコラボレーションを基軸とする。プロジェクトの内容は学生と担当教員との協議により決定する。	
	プロジェクトワーク演習3	社会を変動させる「表現」を企画・提案し、遂行する能力を身につける。あるテーマを持つ現実社会のプロジェクトを組み立て、異なる専攻領域の学生達が制作へ向けて思想・手法・技法をクロスさせて企画立案し、具体的な制作物やプログラムとして社会へ新しい提案を行う。プロジェクトの遂行にあたっては、公共団体、民間企業、他大学等の外部団体とのコラボレーションを基軸とする。プロジェクトの内容は学生と担当教員との協議により決定する。	
	プロジェクトワーク演習4	社会を変動させる「表現」を企画・提案し、遂行する能力を身につける。あるテーマを持つ現実社会のプロジェクトを組み立て、異なる専攻領域の学生達が制作へ向けて思想・手法・技法をクロスさせて企画立案し、具体的な制作物やプログラムとして社会へ新しい提案を行う。プロジェクトの遂行にあたっては、公共団体、民間企業、他大学等の外部団体とのコラボレーションを基軸とする。プロジェクトの内容は学生と担当教員との協議により決定する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通基盤科目	英語プレゼンテーション演習	ますますグローバル化する今日の社会においては、日本語のみならず英語でのプレゼンテーションが求められる機会も多い。そうした社会の要求に備えて、表現に関わる者が自らの作品についての言語的説明能力を磨いておくことは重要である。本講義は芸術・表現に関わる者を対象に、論理的で当を得た英語の原稿作成と口頭発表による総合的プレゼンテーション能力を養うことを目的とする。	
	学術論文演習1	学術論文作成のために必要な基礎を学ぶ。論文作成に要する資料の調査方法、参考文献、キャプションおよび図版などの扱い方の留意点、学術論文の構成や書式、文法など、学術的な論文の書き方を学ぶことを通して、学術的・論理的な思考回路を形成することを同時にめざす。また、参考論文を用い、学術論文に対する内容理解の向上や正確な読解力を身につけるための実践的な論文作成演習を行う。	
	学術論文演習2	学術論文演習1に引き続いて、学術論文作成の基礎を学び、より高度な論文作成能力を修得する。論文作成に要する資料の調査方法、参考文献、キャプションおよび図版などの扱い方の留意点、学術論文の構成や書式、文法など、学術的な論文の書き方を学ぶことを通して、学術的で論理的な思考回路を形成することも同時にめざす。また、参考論文を用いて、学術論文に対する内容理解の向上や正確な読解力も身につける。	
	原書講読1	どの領域を学ぶかにかかわらず、学生が自らの研究を進めるにあたって必要とする専門分野の原典および資料などを英語で読むための能力形成を目的とする。様々な手段を用いて、講読のなかで英文読解力、翻訳力を総合的に向上させることにはかる。読解、翻訳の過程において、語学力の向上と論理展開の方法や、英語を背景とする思考形態への理解も深めていくことを同時におこなう。	
	原書講読2	原書講読1に引き続き、どの領域の如何を問わず、学生が研究を進めるにあたって必要とする専門分野の原典および資料などを英語で読むための、さらに高い能力を形成することを目的とする。様々な手段を用いて、講読のなかで英文読解力、翻訳力を総合的に向上させることにはかる。さらに、読解、翻訳の過程において、語学力の向上のみならず、研究を行う上での論理展開の方法や、英語を背景とする思考形態への理解も深めていくことを同時におこなう。	
専門特講科目	デザイン理論特講	この講義では、「デザイン」が社会においてどのような役割を果たすのかを、様々な角度から追究する。人間生活や産業などにおける様々なデザイン理論を学ぶことによって、高度な知識を深める。また一方では、ヴィジュアルカルチャー論やマテリアル・カルチャー論の視座から、芸術やマンガなどの隣接諸文化＝制度との関わりはどのようなものであるか、デザインがどのように流通し受容されるかなど、さまざまな問題から近現代デザインの歴史や理論を考察する。	
	創造領域特講1	クリエイターとしての基盤を形成するために、『表現する自分』を掘り下げていくことを主眼に置く。社会で活躍する優秀な表現者が実際に展開している、さまざまなアプローチをベースに「問題点の模索・発見」「ユニークポイントの確立・検証」「客観化」「定着」「社会とのつながり」など、制作プロセスにおける必須な思考を学ぶ。全体講義と個別指導（作品批評、プレゼンテーションなど）の双方を行い、受講者が自らの表現の基礎や手法を高めていくことをめざす。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門特講科目	創造領域特講2	製品開発の初め、デザインコンセプトを練る段階から、障害のある人や高齢者をリードユーザとしてデザインプロセスに巻き込む手法であるインクルーシブデザイン。多様なユーザニーズを容易に一般化するのではなく、ただ一人の個人に徹底的に向き合うことからデザインを始め、段階的にシナリオを拡張していく点が特徴的である。この講義では、生活者個人の視点から「気づき」をユーザとデザイナーの対話の中に顕在化する手法を学ぶ。	
	創造領域特講3	ジャンルにとらわれないさまざまな実例をもとに、「プロデュース」という観点から、表現や創造についての考察を深める。自身がプロデューサーとして活動する場合の能力を獲得するばかりでなく、作家、クリエイターを志向する者においてもセルフ・プロデュース能力を培う。「プロデュース」という視点を導入することで、自己表現された作品を社会／他者との関係でどのように位置づけていくかを追究し、表現活動の立脚点を形成することを学ばせる。	
	創造領域特講4	出版、広告、テレビ、映像、WEBなど、デザインの現場となるあらゆるメディアにおいて通底するところの、ビジネス展開のアプローチ、企画立案、プレゼンテーション、マネージメントなど、作品やプロジェクトの形成過程を豊富な実践例を通じて学ぶ。また、それらを単にビジネス・モデルとしてではなく、現代におけるメディアとカルチャーへの総合的な理解を深めるための媒介としてとらえ、新しいカルチャーを創造する表現者としてのクリエイティビティを獲得する。	
	専門研究科目	建築研究1	建築および空間デザインの領域において、各自の研究テーマに沿って、作品制作を行い、それに対して担当指導教員が適宜指導を行う。作品制作やプロジェクトを通じて段階的に指導し、発表や質疑を通じて、修士作品制作のテーマと構想を深化させる。
建築研究2		建築および空間デザインの領域において、各自の研究テーマに沿って、作品制作を行い、それに対して担当指導教員が適宜指導を行う。作品制作やプロジェクトを通じて段階的に指導し、発表や質疑を通じて、修士作品制作のテーマと構想を深化させる。	
建築研究3		<p>(概要) 各自の研究テーマに沿って修士作品制作を行い、それに対して担当指導教員が適宜指導を行う。中間成果を段階的に発表する学生間の相互批評の場や、指導教員以外の教員から助言を受ける場を設けるなど、テーマや表現が固着しないような指導体制にて、修士作品の完成を目指す。</p> <p>(田中充子) 建築および空間デザインの領域において、関連諸領域についての幅広い知識や技能を考慮し、都市・環境計画や、デザインの要素からの空間構築等、個々のテーマに基づいた作品制作を通じて実践的な研究指導を行う。</p> <p>(Thomas Daniell) 建築および空間デザインの領域において、関連諸領域についての幅広い知識や技能を考慮し、都市・環境計画や、デザインの要素からの空間構築等、個々のテーマに基づいた作品制作を通じて実践的な研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門研究科目	建築研究4	<p>(概要) 各自の研究テーマに沿って修士作品制作を行い、それに対して担当指導教員が適宜指導を行う。中間成果を段階的に発表する学生間の相互批評の場や、指導教員以外の教員から助言を受ける場を設けるなど、テーマや表現が固着しないような指導体制にて、修士作品の完成を目指す。</p> <p>(鈴木隆之) 建築および空間デザインの領域において、関連諸領域についての幅広い知識や技能を考慮し、都市・環境計画や、デザインの要素からの空間構築等、個々のテーマに基づいた作品制作を通じて実践的な研究指導を行う。</p> <p>(片木孝治) 建築および空間デザインの領域において、関連諸領域についての幅広い知識や技能を考慮し、都市・環境計画や、デザインの要素からの空間構築等、個々のテーマに基づいた作品制作を通じて実践的な研究指導を行う。</p>	
	建築設計特講	<p>建築作品の創造という動機が、いかにして現実の建築設計に結びつくかを講じる。建築の理念が社会的資産としての責任に転換されるプロセスを実証的に検討する。その過程で、実施設計の詳細について教授する。学部課程において学んだ設計行為が、いかにして社会的責任と結びつくかを理解した上で、インターンシップを実施する必要がある。</p>	
	先端建築技術特講	<p>他のあらゆる科学や工業と同様に、建築にかかわる技術も日進月歩である。こうした技術の修得なくして、時代を代表し社会的問題を正しく解決する建築は生み出せない。本講では、そのための技術を紹介し講じる。最先端の技術への理解を深めることは、現在の、そしてこれからの社会が要請する建築の姿をいち早く把握することにつながる。例えば耐震の最新技術がそうである。そうしたことを理解した上で最前線の経験を積ませることは有意義である。</p>	
	建築家倫理特講	<p>芸術家にとってE t h i cとは何か？これは極めて根源的な問題である。芸術と現実の両方に向かい合わなければならない建築家ならばなおさらである。建築家にとっての倫理と道徳の問題を講じる。建築家にコンプライアンスが求められるのは当然のことであるが、実はそこにはとどまらない。建築家には、成文法順守以上の高い倫理性が期待されている。この大きな責任への理解が実務経験とともになされることを目的とする。</p>	
	建築構造演習	<p>建築家が具体的に考えなければならない構造の問題とその解決法について演習方式で教授する。具体的には、インターンシップのプロジェクトに参加している構造設計者が課題を課し、それを解く演習を実施する。建築構造の諸問題とその解決法について、インターンシップにおいて関わることになるプロジェクトを実例に演習方式で実感し理解を深めることが必要である。</p>	
	建築設備演習	<p>環境問題の深刻化に伴い建築設備技術への関心は社会的に高まっている。それに応えるべく、ここでは建築設備の諸問題と解決法をインターンシップのプロジェクトを例にとり演習方式で教授する。地球環境と屋内環境をいかにして整備して共生させていくのか、これを考えることは建築家に課せられた極めて大きな責任である。インターンシップのプロジェクトと結びつけてこの責任と習得すべき技術について演習方式で習得し認識を高める。</p>	
	建築設計監理演習	<p>過去に日本や他国で実際に生じた設計監理のトラブルについて発題し、それに対しての解決法や対策を演習方式で教授する。インターンシップが訓練として有効なのは論をまたないが、限られてた期間での経験には限界もある。より多くの問題事例とその対応策を知ることが重要であり、広範な問題の存在を知った上でこそインターンシップはさらに有効になる。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(マンガ研究科 マンガ専攻)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通基盤科目	表現特論	表現とは何か？を文明論的な視点から考える。具体的には、三つの観点から表現の問題を考察する。ひとつは、表現の概念史である。古代から現代までの表現を概観しつつ、現代における表現の概念を抽出する。二つ目は、造形、言語、音楽、身体等の表現領域での作品を分析する。いわば表現のフィールドワークである。三つ目は、表現の美的政治学である。ある作品（群）の社会的受容と効果の構図を考察する。	
	知的創造特論	芸術、デザイン、マンガ、身体や音楽など、どのような分野においても、豊かな表現には、ことばに対する豊穡な感性が必要となる。文学を含めた、広い意味での詩的言語の可能性と広がりに触れる。ここでは、ことばが多様なイメージと結びついていること、またそれが新たな表現を生み出す創造的な足場となることを知り、表現者として感受性を高めることを目的とする。	
	プロジェクト企画演習	各自の専攻領域における制作作品・研究内容を広く社会へ提案するために、どのような方策が可能であるか、グループディスカッションを中心に意見交換を行い、他研究科学生の研究内容・プロジェクトテーマとの協同の可能性を探りつつ、プロジェクトの立案を行う。シンポジウムの開催、イベントの企画運営、産学官連携事業、商品開発、中高生向け教育プログラムの立案等、社会へ発信する内容として企画を作成する。テーマは学生と担当教員との協議によって決定する。	
	プロジェクトワーク演習1	社会を変動させる「表現」を企画・提案し、遂行する能力を身につける。あるテーマを持つ現実社会のプロジェクトを組み立て、異なる専攻領域の学生達が制作へ向けて思想・手法・技法をクロスさせて企画立案し、具体的な制作物やプログラムとして社会へ新しい提案を行う。プロジェクトの遂行にあたっては、公共団体、民間企業、他大学等の外部団体とのコラボレーションを基軸とする。プロジェクトの内容は学生と担当教員との協議により決定する。	
	プロジェクトワーク演習2	社会を変動させる「表現」を企画・提案し、遂行する能力を身につける。あるテーマを持つ現実社会のプロジェクトを組み立て、異なる専攻領域の学生達が制作へ向けて思想・手法・技法をクロスさせて企画立案し、具体的な制作物やプログラムとして社会へ新しい提案を行う。プロジェクトの遂行にあたっては、公共団体、民間企業、他大学等の外部団体とのコラボレーションを基軸とする。プロジェクトの内容は学生と担当教員との協議により決定する。	
	プロジェクトワーク演習3	社会を変動させる「表現」を企画・提案し、遂行する能力を身につける。あるテーマを持つ現実社会のプロジェクトを組み立て、異なる専攻領域の学生達が制作へ向けて思想・手法・技法をクロスさせて企画立案し、具体的な制作物やプログラムとして社会へ新しい提案を行う。プロジェクトの遂行にあたっては、公共団体、民間企業、他大学等の外部団体とのコラボレーションを基軸とする。プロジェクトの内容は学生と担当教員との協議により決定する。	
	プロジェクトワーク演習4	社会を変動させる「表現」を企画・提案し、遂行する能力を身につける。あるテーマを持つ現実社会のプロジェクトを組み立て、異なる専攻領域の学生達が制作へ向けて思想・手法・技法をクロスさせて企画立案し、具体的な制作物やプログラムとして社会へ新しい提案を行う。プロジェクトの遂行にあたっては、公共団体、民間企業、他大学等の外部団体とのコラボレーションを基軸とする。プロジェクトの内容は学生と担当教員との協議により決定する。	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通基盤科目	英語プレゼンテーション演習	ますますグローバル化する今日の社会においては、日本語のみならず英語でのプレゼンテーションが求められる機会も多い。そうした社会の要求に備えて、表現に関わる者が自らの作品についての言語的説明能力を磨いておくことは重要である。本講義は芸術・表現に関わる者を対象に、論理的で当を得た英語の原稿作成と口頭発表による総合的プレゼンテーション能力を養うことを目的とする。	
	学術論文演習1	学術論文作成のために必要な基礎を学ぶ。論文作成に要する資料の調査方法、参考文献、キャプションおよび図版などの扱い方の留意点、学術論文の構成や書式、文法など、学術的な論文の書き方を学ぶことを通して、学術的・論理的な思考回路を形成することを同時にめざす。また、参考論文を用い、学術論文に対する内容理解の向上や正確な読解力を身につけるための実践的な論文作成演習を行う。	
	学術論文演習2	学術論文演習1に引き続いて、学術論文作成の基礎を学び、より高度な論文作成能力を修得する。論文作成に要する資料の調査方法、参考文献、キャプションおよび図版などの扱い方の留意点、学術論文の構成や書式、文法など、学術的な論文の書き方を学ぶことを通して、学術的で論理的な思考回路を形成することも同時にめざす。また、参考論文を用いて、学術論文に対する内容理解の向上や正確な読解力も身につける。	
	原書講読1	どの領域を学ぶかにかかわらず、学生が自らの研究を進めるにあたって必要とする専門分野の原典および資料などを英語で読むための能力形成を目的とする。様々な手段を用いて、講読のなかで英文読解力、翻訳力を総合的に向上させることをはかる。読解、翻訳の過程において、語学力の向上と論理展開の方法や、英語を背景とする思考形態への理解も深めていくことを同時におこなう。	
	原書講読2	原書講読1に引き続き、どの領域の如何を問わず、学生が研究を進めるにあたって必要とする専門分野の原典および資料などを英語で読むための、さらに高い能力を形成することを目的とする。様々な手段を用いて、講読のなかで英文読解力、翻訳力を総合的に向上させることをはかる。さらに、読解、翻訳の過程において、語学力の向上のみならず、研究を行う上での論理展開の方法や、英語を背景とする思考形態への理解も深めていくことを同時におこなう。	
専門特講科目	マンガ理論特講	今日マンガは、社会学や文化政策論などの資料として採用されつつあるが、マンガ特有の性質がもたらす可能性と限界を無視される場合が多い。本講義では、日本国内外における研究成果を手がかりに、マンガとは何かを追究し、その定義の多面性に対する歴史的知識および方法的考察力を高める。具体的には、記号論から思想史やジェンダー論、さらにファン・カルチャー研究などに至るまでの先行研究を取り上げ、その時代背景や社会的、文化的環境による特性を分析すると同時に、グローバルなマンガ研究への貢献を検討する。	
	マンガ領域特講1	作家論をテーマとする本講義では、近代芸術や文化産業、さらにマスメディアにおける表現者という観点から、主に「マンガ家」を考察する。アーティストと職人との位置づけや自己像、個人的制作とアシスタントや編集者とのチームワーク、制作の想像（創造）源、自己表現と読者へのサービス、同人誌作家との関係、マンガ文化全体の変貌などの問題を理論的に取り上げる。また担当教員の指導下、作家からその制作論や作品論を具体的に聞きとることを受講者自ら準備、実施することで、さらなる研究と理解を深める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門特講科目	マンガ領域特講2	マンガを映像化すること、すなわちマンガを原作としたアニメーション、実写映画、テレビドラマなどは、これまで数多く制作されてきた。特にアニメーションは、その誕生の瞬間から、マンガと密接な関係にあった。しかし、その発展の歴史は一様ではなく、その時代背景との関係性を保ちながら、展開が試みられてきた。本講義では、こうした点を踏まえ、特にマンガを映像化したアニメーションが発展してきた歴史を追うことで、マンガが映像化されるとはどういうことかについて考察する。	
	マンガ領域特講3	表現としてのマンガ、しかも業界領域としてのマンガの未来を開くために、そのメディアとしての多様性を自覚する必要がある。メディアとは、コミュニケーションを媒体する技術と同時に、この技術をめぐる社会的・文化的実践であることを念頭に、本講義は「マンガ・メディア論」を展開する。具体的には、情報化時代以前のマンガとテレビの関係から、マンガとアニメーションを絡み合わせる携帯電話などの電子デバイスおよびデジタル編集、さらに、ユーザへと変わる読者などの使用関係に至るまで、過去・現在・未来に焦点を当てる。	
	マンガ領域特講4	コンテンツ・ビジネスとしてのマンガやアニメが人々の生活や経済に与える影響を理解することを目的とする。コンテンツは従来、雑誌、単行本、映画、テレビなどの個別のメディア毎に流通していたが、パッケージ、インターネット、携帯電話等の技術の進歩や、人々のニーズが「もの」から「楽しみ」に変化したことで人々の生活に与える影響が大きくなった。このためコンテンツが重要なビジネスセクターへと成長している。コンテンツの商品としての特徴は何か、コンテンツ・ビジネスの一般商品のビジネスとの相違点は何かを解説する。	
専門研究科目	マンガ研究1	<p>(概要) 各自の研究テーマに沿って、作品制作または論文作成を行い、それに対して担当指導教員が適宜指導を行う。作品制作または論文作成を段階的に指導し、発表や討論を通じて、修士作品制作または修士論文作成のテーマと構想を深化させる。</p> <p>(Jaqueline Berndt) マンガ理論研究の領域において、作家、作品、またマンガ文化そのものについて、マンガ文化に関連する様々な表現ジャンルや学問分野まで含め、学生個々のテーマ研究に関する論文作成指導を行う。</p> <p>(吉村和真) マンガ理論研究の領域において、作家、作品、またマンガ文化そのものについて、マンガ文化に関連する様々な表現ジャンルや学問分野まで含め、学生個々のテーマ研究に関する論文作成指導を行う。</p> <p>(竹宮恵子) マンガ領域における作品制作に関する表現方法や技法、さらにマンガ表現に関連する様々な諸領域への知識を学びながら、学生個々のテーマに関する作品制作への実践的な研究指導を行う。</p> <p>(板橋秀法) マンガ領域における作品制作に関する表現方法や技法、さらにマンガ表現に関連する様々な諸領域への知識を学びながら、学生個々のテーマに関する作品制作への実践的な研究指導を行う。</p> <p>(篠原幸雄) マンガ領域における作品制作に関する表現方法や技法、さらにマンガ表現に関連する様々な諸領域への知識を学びながら、学生個々のテーマに関する作品制作への実践的な研究指導を行う。</p> <p>(玉田京子) マンガ領域における作品制作に関する表現方法や技法、さらにマンガ表現に関連する様々な諸領域への知識を学びながら、学生個々のテーマに関する作品制作への実践的な研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門研究科目	マンガ研究2	<p>(概要) 各自の研究テーマに沿って、作品制作または論文作成を行い、それに対して担当指導教員が適宜指導を行う。作品制作または論文作成を段階的に指導し、発表や討論を通じて、修士作品制作または修士論文作成のテーマと構想を深化させる。</p> <p>(Jaquiline Berndt) マンガ理論研究の領域において、作家、作品、またマンガ文化そのものについて、マンガ文化に関連する様々な表現ジャンルや学問分野まで含め、学生個々のテーマ研究に関する論文作成指導を行う。</p> <p>(吉村和真) マンガ理論研究の領域において、作家、作品、またマンガ文化そのものについて、マンガ文化に関連する様々な表現ジャンルや学問分野まで含め、学生個々のテーマ研究に関する論文作成指導を行う。</p> <p>(竹宮恵子) マンガ領域における作品制作に関する表現方法や技法、さらにマンガ表現に関連する様々な諸領域への知識を学びながら、学生個々のテーマに関する作品制作への実践的な研究指導を行う。</p> <p>(板橋秀法) マンガ領域における作品制作に関する表現方法や技法、さらにマンガ表現に関連する様々な諸領域への知識を学びながら、学生個々のテーマに関する作品制作への実践的な研究指導を行う。</p> <p>(篠原幸雄) マンガ領域における作品制作に関する表現方法や技法、さらにマンガ表現に関連する様々な諸領域への知識を学びながら、学生個々のテーマに関する作品制作への実践的な研究指導を行う。</p> <p>(玉田京子) マンガ領域における作品制作に関する表現方法や技法、さらにマンガ表現に関連する様々な諸領域への知識を学びながら、学生個々のテーマに関する作品制作への実践的な研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門研究科目	マンガ研究3	<p>(概要) 各自の研究テーマに沿って修士作品制作または修士論文作成を行い、それに対して担当指導教員が適宜指導を行う。中間成果を段階的に発表する学生間の相互批評の場や、指導教員以外の教員から助言を受ける場を設けるなど、テーマや表現が固着しないような指導体制にて、修士作品または修士論文の完成を目指す。</p> <p>(Jaquiline Berndt) マンガ理論研究の領域において、作家、作品、またマンガ文化そのものについて、マンガ文化に関連する様々な表現ジャンルや学問分野まで含め、学生個々のテーマ研究に関する論文作成指導を行う。</p> <p>(吉村和真) マンガ理論研究の領域において、作家、作品、またマンガ文化そのものについて、マンガ文化に関連する様々な表現ジャンルや学問分野まで含め、学生個々のテーマ研究に関する論文作成指導を行う。</p> <p>(竹宮恵子) マンガ領域における作品制作に関する表現方法や技法、さらにマンガ表現に関連する様々な諸領域への知識を学びながら、学生個々のテーマに関する作品制作への実践的な研究指導を行う。</p> <p>(板橋秀法) マンガ領域における作品制作に関する表現方法や技法、さらにマンガ表現に関連する様々な諸領域への知識を学びながら、学生個々のテーマに関する作品制作への実践的な研究指導を行う。</p> <p>(篠原幸雄) マンガ領域における作品制作に関する表現方法や技法、さらにマンガ表現に関連する様々な諸領域への知識を学びながら、学生個々のテーマに関する作品制作への実践的な研究指導を行う。</p> <p>(玉田京子) マンガ領域における作品制作に関する表現方法や技法、さらにマンガ表現に関連する様々な諸領域への知識を学びながら、学生個々のテーマに関する作品制作への実践的な研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門研究科目	マンガ研究4	<p>(概要) 各自の研究テーマに沿って修士作品制作または修士論文作成を行い、それに対して担当指導教員が適宜指導を行う。中間成果を段階的に発表する学生間の相互批評の場や、指導教員以外の教員から助言を受ける場を設けるなど、テーマや表現が固着しないような指導体制にて、修士作品または修士論文の完成を目指す。</p> <p>(Jaquiline Berndt) マンガ理論研究の領域において、作家、作品、またマンガ文化そのものについて、マンガ文化に関連する様々な表現ジャンルや学問分野まで含め、学生個々のテーマ研究に関する論文作成指導を行う。</p> <p>(吉村和真) マンガ理論研究の領域において、作家、作品、またマンガ文化そのものについて、マンガ文化に関連する様々な表現ジャンルや学問分野まで含め、学生個々のテーマ研究に関する論文作成指導を行う。</p> <p>(竹宮恵子) マンガ領域における作品制作に関する表現方法や技法、さらにマンガ表現に関連する様々な諸領域への知識を学びながら、学生個々のテーマに関する作品制作への実践的な研究指導を行う。</p> <p>(板橋秀法) マンガ領域における作品制作に関する表現方法や技法、さらにマンガ表現に関連する様々な諸領域への知識を学びながら、学生個々のテーマに関する作品制作への実践的な研究指導を行う。</p> <p>(篠原幸雄) マンガ領域における作品制作に関する表現方法や技法、さらにマンガ表現に関連する様々な諸領域への知識を学びながら、学生個々のテーマに関する作品制作への実践的な研究指導を行う。</p> <p>(玉田京子) マンガ領域における作品制作に関する表現方法や技法、さらにマンガ表現に関連する様々な諸領域への知識を学びながら、学生個々のテーマに関する作品制作への実践的な研究指導を行う。</p>	

# 設置の趣旨等を記載した書類

## 1. 設置の趣旨及び必要性

### [1] 設置の趣旨

#### (1) 教育・研究上の理念と目的

京都精華大学はその使命を「京都精華大学は、人間を尊重し人間を大切にすることを教育の基本とし、学問・芸術によって、人類社会に尽くそうとする自立した人間の形成を目的とする」と定め、そのなかで「学術の理論および応用を研究・教授し、その深奥を究めて文化の進展に寄与することを目的とする」ものとして大学院美術研究科(修士課程)を1991年4月に設置した(2000年4月に芸術研究科に名称変更、2003年4月に博士課程<前期・後期>に課程変更)。

こうした理念・目的の下に教育・研究を遂行しながら、芸術表現における高度な専門技能・知識を備えた人材を育成してきたが、社会の変容に従い、芸術表現も一層多様化を遂げている。

現代社会の課題に適切に対応し、各領域における教育・研究の専門性をより高度化し、より深く、卓越した学識と能力を培うため、これまで芸術研究科に含まれていた芸術諸領域を、ファッションアート(芸術)、デザイン、マンガという3つの軸のもとに再編し、新たに、デザイン研究科、マンガ研究科を設置することとした。

#### A. デザイン研究科

##### a) デザイン専攻

現代社会においてデザインに求められる役割は、製品の機能や性能を最大限に引き出すことにとどまらず、環境への配慮、グローバル化、ユニバーサル化など社会的課題への対応にまで広がっている。更に、人びとの生活において精神性を豊かにする美を求める傾向も一層高まっている。

デザイン分野の社会動向に広い視野と見識を備え、デザイン受容者の潜在的ニーズの分析・研究を深め、実践的に社会に貢献できる高度な専門的技能を有した職業人並びに研究者の養成を目的とする。

##### b) 建築専攻

住居やオフィスから都市にいたるまで、デザインの本質を踏まえた個性的な空間の創造は、人びとの豊かな生活の発展に寄与するものである。しかし、それは単に美的感性によってのみ実現できるものではないため、確かな知識と技術の裏付けによる機能と安全性もふまえなければならない。

社会動向に広い視野と見識を持ち、建築分野において多様な側面から分析・研究を深め、実践的に社会に貢献できる高度な専門的技能を有した職業人並びに研究者の養成を目的とする。

## B. マンガ研究科

マンガ文化は大衆的に絶大な支持を得ているが、メディアの発達やビジネスモデルの変化、国際化などのなかで大きな転換点を迎えている。このような転換点において、マンガ文化の諸領域では、次のステージへの移行が模索されている。

マンガ文化において、体系的な学術研究を深め、次代を担う新しい文化の発信に貢献できる高度な専門的スキルを有した職業人並びに研究者の養成を目的とする。

### (2) 設置の必要性とその社会的背景

現代社会において人類は、文化、社会、環境、経済など様々な領域において深刻な課題に直面している。

人類が抱える諸課題に対して、グローバル化、情報化、価値観の多様化が一層進展するなかで、広い意味での芸術表現がその解決に貢献することがこれまで以上に要請されている。

このことは中央教育審議会答申『新時代の大学院教育』（2005年9月5日）に「21世紀は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる『知識基盤社会』の時代であると言われている。この『知識基盤社会』においては、個人的人格形成の上でも、社会・経済・文化の発展・振興や国際競争力の確保等の国家戦略の上においても、大学とりわけ大学院は極めて重要な役割を果たす」と述べられている知識基盤社会のあり方と大学院教育の関係にも呼応するものである。

このような認識の上で、複雑かつ多様な現代社会の変容に対応できる芸術表現を展開するためには、芸術表現ジャンルの特性をより明確にすることで、高度で専門的な知識と卓越した能力の修得が一層促進されるものと判断し、芸術研究科を基礎に、新たにデザイン研究科とマンガ研究科を設置するものである。

本学では、造形学科、デザイン学科、マンガ学科の3学科で構成されていた芸術学部を、やはり表現ジャンルの特性を明確にするために改組し、2006年度に新たにデザイン学部とマンガ学部を設置した。今回の新研究科設置計画は、デザイン学部とマンガ学部が2009年度をもって完成年次に達し、はじめての卒業生を輩出することにもない、大学院においても学部の教育内容を継続して発展的に教育研究できるよう、学部構成に対応した研究科体制を準備するという側面も有している。

デザイン学部とマンガ学部の設置にともない、2006年度に学部入学定員を308名増加させており、このうちデザインおよびマンガを学ぶ学生数の純増数は198名である（2005年度芸術学部デザイン学科入学定員150名→2006年度デザイン学部入学定員208名。2005年度芸術学部マンガ学科入学定員60名→2006年度マンガ学部入学定員200名。その余の増加人数は芸術学部における入学定員の増加分）。このため、2010年度のデザインおよびマンガの領域において学内進学者は相当数増えることが予測される。一方、既に芸術研究科の定員超過率は1.4となっている現状があるため、新研究科の設置にあたっては研究科全体の定員増を行わなければ、適切な定員管理が行えないことは明白であると思慮するものである。

さらに、社会的な要請については研究科・専攻毎に別途詳細に述べるが、独立行政法人労働政策研究・研修機構による「産業別・職業別就業者数の将来予測」（2000年）の「職業別就業者数の推移」によれば、「デザイナー 2000年 17.4万人→2010年 20.9万人」「建築技術者 2000年 49万→2010年 56.3万人」と推計されており、デザイン研究科関連における人材需要が増加することが明らかとなっている。マンガ研究科に関連する人材需要については、職業分類が多岐にわたるため明確な数字で示し難いが、内閣に設置される「知的財産戦略本部」などで人材養成の必要性が繰り返し語られている。

このようにデザインおよびマンガに関する社会的重要性は増す一方であるにもかかわらず、これらを専門的に学べる高等教育機関はまだ少なく、美術教育の一環としてデザイン専攻を有する大学院はあっても、デザインに特化したデザイン研究科を設置する大学院は少なく（近年、“組織デザイン”という用例にあらわれているようにデザイン概念の拡大にともなって社会科学系において「デザイン」の名称を冠した研究科の設置が増加しており、芸術・美術関連領域としてのデザイン研究科の設置数が正確に把握しにくい）、マンガ研究科を設置する大学院にいたってはいまだに存在しない。

したがって、新しい研究科の設置にあたり、デザイン研究科デザイン専攻 10名、建築専攻 5名、マンガ研究科マンガ専攻 20名の定員を設定し、それに対して既設の基礎となる芸術研究科の入学定員を5名減じたことにより、入学定員で30名、収容定員で60名の増加することとなるが、学内進学者の進路確保の面からも社会的要請の面からも、また学生間の教育研究の共同・交流のため一定規模の学生数が存在することが教育効果上望ましいという面からも、その必要性和定員確保の見通しを認め、収容定員増加を計画したものである。

## A. デザイン研究科

### a) デザイン専攻

消費が生存に必要な物質的充足を意味する時代はすでに終焉し、商品に求められるものは低価格と高機能性ではなくなった。むしろデザインこそが消費者の選択を主導しており、現代社会においては、デザインの重要性がますます増している。

現在、デザインに対して以下のような社会的要請が存在している。

① 近年は、デザインにおける社会課題の解決に寄与する側面が重視されるようになってきている。

環境問題に対応する「エコロジカル・デザイン」や「サステイナブル・デザイン」、高齢化社会やノーマライゼーションに対応する「ユニバーサル・デザイン」などの用語はすでにデザイン界の外部にも定着しているほどである。

デザインは、文化や社会から人間存在のあり方にまで影響を及ぼす、社会課題解決手法のひとつとして位置づけられている。こうしたデザインに対する期待は、安全性、コミュニケーションの形成、世界平和にまで、広がりを続けている。

② 次に、ライフスタイルの変化によるデザインへの志向の高まりがある。

社会の成熟にともない、価値観の多様化と個性の尊重がすすみ、ファッション、インテリア、住



宅をはじめとして、あらゆる日用品、嗜好品に、自らのライフスタイルや価値観との合致を求め、どのような「お気に入り」に囲まれて生活するか、が個人のアイデンティティの確立にまで結びついている。

財団法人日本産業デザイン振興会「第1回デザインに関する意識調査」(2007年11月実施)では、世代を超え72%がデザインに関心を示しているという結果が示されているほど、もはや多くの人びとにとってデザインを抜きにした生活は成立しなくなっている。

デザインは人間の精神を豊かにし、生活の質を向上させるものとして、多くの人びとにより優れたデザインの開発が常に希求されている。

③ さらに、デザイナーという職業そのものに必要な能力の変化がある。

コンピューター技術の急速な発展と、個人レベルへの普及によって、デザインは人々にとって身近で簡便に行使できる技術になった側面がある。

一方で、社会的・産業的にはより高度で複雑なデザインへの要求が展開されている。

したがって、すぐれた美的感性、高い技術ばかりでなく、デザインへの深い造詣を有した上で、商品の開発から販売・プロモーションまでの工程を設計・管理し、関わるメンバーをマネジメントする、プロデューサー能力の開発が、産業界から強く求められている。

上述のように、社会的諸課題の解決手法、個人のライフスタイル充実、新しい能力開発等の要因からデザインへの社会的要請はますます高まっている。それにともない2002年に制定された「知的財産基本法」においても第2条における「知的財産」の定義のなかに「意匠」(＝デザイン)が含まれ、第7条には「大学等は、その活動が社会全体における知的財産の創造に資するものであることにかんがみ、人材の育成並びに研究及びその成果の普及に自主的かつ積極的に努めるものとする」と定められている。しかしながら、デザインに特化した大学院研究科はまだまだわが国には少なく、社会的要請に応えるべく、デザイン研究科デザイン専攻を設置するものとした。

また、本学は1968年に短期大学として発足時のデザインクラスからはじまり、1979年4年制大学化におけるデザイン学科の設置を経て、2006年デザイン学部の設置に至る歴史を有するとともに1991年に芸術研究科における一領域としてデザイン領域を設け、一貫して社会と地域の要請に応じて教育研究を発展的に充実させてきた。そのなかで、近年においては、2006年には世界31カ国320名(当時)にわたる第一線のグラフィックデザイナーで構成される「国際グラフィック同盟(AGI)」総会の開催、また2008年には40カ国124校(当時)が加盟する世界最大のデザイン関連大学の連合組織クムルス(Cumulus)主催による「京都国際デザイン会議クムルス2008」のホスト校をつとめるなど、国際レベルでデザイン界における教育研究の活性化に対する主導的な役割を果たしているものである。

今回のデザイン研究科デザイン専攻の設置は、これまでの本学のデザイン領域における実績を踏まえた上で、より高度で専門的な教育研究と一層の社会貢献を実現するため計画されたものである。

## b) 建築専攻

人間は生誕から死に至るまで生のプロセス全体を通して、建築と離れて生活するということは

ありえない。建築は人間の生存と生活の基盤そのものである。

したがって、建築は常に人びとの強い関心の対象ではあったが、近年の社会的諸条件・諸課題は、建築に対して以下のような要請を強めている。

① 社会の成熟にともない、健康で快適であることに加え、個性的で美的なライフスタイルを追求する志向が人びとのなかで強まっている。個人住宅からオフィス・商業ビル、都市景観に至るまで、建築デザインが、その美的価値をより高めることが要請されている。

それは単に作品性の高い建造物が求められているだけではなく、近隣の既存建造物や自然環境との調和、歴史性と時代性とのバランスなど、大きな視野と深い認識に立脚してはじめて可能になるものである。

また、建築は短期間に消費されるものでなく、長期間にわたる存続を前提にしているため、新しい文化的伝統の創造を担うという側面を有している。

また、当然、環境への配慮やノーマライゼーションなどへの対応も求められている。

こうした現代社会において建築に課せられている課題は、関連諸領域における幅広い教養を備えながら、一層高度で専門的な知識、技能を有した建築家、空間デザイナーの必要性を示している。

建築デザインとは、つきつめれば、建築物の物理的デザインにとどまらず、個人の住宅にあっては家族の関係やライフスタイル、オフィスや店舗においてはビジネス・スタイルのデザインにまでつながるものである。

現在、建築家は、建築や空間をデザインするにあたって、そこに配置される家具や生活用品に加え、どんな音楽が流れるのかまで想定しなければならないし、場合によっては、実際に楽曲を指定することまでを含めた、空間全体のプロデュースまで求められることもある。

このように近年では建築においては、デザインのアプローチによる空間プロデュース能力の要請が高まっている。

② 阪神大震災の経験や耐震偽装問題を経て、建築物への安全性を求める社会的要請は高まり、2006年には建築士法が改正されている。改正建築士法では、建築士の資質と能力の向上を求め、教育機関における建築教育の在り方も転換を求められている。

より高度な専門能力と高い倫理性をあわせ持った建築家の育成が社会から喫緊の課題として要請されている。

上述のように、建築という人間の生存と生活に密接不可欠な領域において、社会的諸課題の解決手法、ライフスタイルやビジネスの質向上、安全性の確保といった観点からデザインからアプローチする建築への社会的要請はますます高まっている。2005年に全面施行された景観法や各自自治体における景観条例の制定、同じく2005年に策定された国土交通省「ユニバーサルデザイン政策大綱」、2007年の「建築物の安全性の確保を図るための建築基準法等の一部を改正する法律」施行などは、建築デザインの社会的要請を端的に表していえるといえるだろう。こうした社会的要請に応えるべく、デザイン研究科建築専攻を設置するものとした。

また、本学では1987年に美術学部デザイン学科にアーバンリビングデザイン専攻を設置したことから、建築デザイン教育をはじめているが、デザインのアプローチにより建築家が建築家を

育成するコンセプトを明確に打ち出した嚆矢ともいえるものであり、その後 2006 年デザイン学部建築学科の設置に至る歴史を有するとともに 1991 年に芸術研究科における一領域として建築領域を設け、一貫して社会と地域の要請に応じて教育研究を発展的に充実させてきた。さらに、Southern California of Institute of Architecture、The Cooper Union、Ecole Speciale d'Architecture de Parisなど、各国の代表校と学生教員の交換を通じて国際レベルの教育水準の向上に努めてきた。

今回のデザイン研究科建築専攻の設置は、これまでの本学の建築領域における実績を踏まえた上で、より高度で専門的な教育研究と一層の社会貢献を実現するため計画されたものである。

## B. マンガ研究科

日本のマンガ文化（狭義のマンガのみならず、アニメーション、キャラクターなど含む）が、国際的に高い評価を受けていることは広く知られている。

マンガ文化が広範な領域に関連し、強い影響力を有しているなかで、以下のような社会的要請が存在している。

① 現在わが国におけるマンガ作品の出版部数は、ヒット作になると国内だけでの出版部数も『SLAM DUNK』は1億2000万部、『ドラゴン・ボール』1億5000万部、『ONE PIECE』1億7500万部といわれており、世代を超えた国民的支持を得ている表現ジャンルといっても過言ではない。

その一方で、この数年、マンガ出版物の売上げが激減していることを主要な背景に、メディアの変遷や社会の変容もあいまって、既成のマンガ表現の地平を超える、新しいマンガ表現の登場が切望されている。

しかしながら、従来のマンガ界においてマンガ雑誌編集部が中軸となっていた人材育成の場は、このように雑誌の休廃刊が相次ぐなかで衰退に向かっており、新たな人材育成システムの構築がまたれている。

マンガ文化に対する、体系的に組織された高度な専門的教育が喫緊の社会的要請となっている。

② 日本のマンガ文化は国内にとどまらず、海外でも高い評価を得ている。

「5、6年前からパリ大学東洋言語文化学部に入る学生の主な志望動機は『日本語でマンガを読みたいから』」（セシル・サカイ氏〈パリ第7大東洋言語文化学部教授〉、朝日新聞2002年10月29日）と言われるように、海外における日本文化への関心はマンガ文化が圧倒的にその中心を占めていることは、わが国でも広く知られるところである。

海外からも、マンガ文化の世界的中心である日本において、マンガ文化作品の実作者としての高度な専門的技術の修得、またマンガ文化の高度な研究の場を求める声はますます強まっている。

③マンガ文化を取り巻く環境は急速に変化している。

インターネットやモバイル配信、知的財産権を活用したビジネス面の強化など、作家個人の技法探求の域を超えて、コンテンツ産業への理解と分析が不可欠となっている。

自身がこうしたコンテンツ・プロデューサーとしての側面も同時に具備しなければ、作家活動を十分に展開できなくなっている。

一方、コンテンツ産業界としてはマンガ文化の実制作への深い理解と知識を有したコンテンツ・プロデューサーが絶対的に不足しており、産業の振興と活性化のために、その育成が急務となっている。

日本政府も、経済的にはマンガ文化を中核とするコンテンツ産業振興策、外交的にはソフトパワー戦略、文化的には日本固有の文化の形成と発信の支援など、諸要素を踏まえて、高等教育機関における人材育成を求めている（「文化芸術振興基本法」「コンテンツの創造、保護及び活用の促進に関する法律」「知的財産基本法」「第3期知的財産戦略の基本方針」等）。このように、政策的にも強い要請が存在し、広範な社会的要請が国際レベルで存在しているにもかかわらず、マンガ文化の高度な専門的知識・技能を修得するための大学院研究科はほとんど存在しないに等しいため、これらの社会的要請に応えるべく、マンガ研究科を設置することとした。

また、本学は短期大学時における1973年のマンガクラスからはじまり、1979年4年制大学化におけるデザイン学科マンガ専攻分野の設置、2000年日本初のマンガ学科設置を経て、2006年やはり日本初のマンガ学部を設置し、さらに1991年には芸術研究科の一領域としてマンガ領域を設けた。単に時代の趨勢に迎合するものではなく、40年にわたり高等教育におけるマンガ文化の教育研究の厚い実績を蓄積しながら、一貫して社会と地域の要請に応じて教育研究を発展的に充実させてきたものである。

さらに、世界最大級のマンガ関連施設「京都国際マンガミュージアム」を運営し（京都市との共同事業）、国際マンガ研究センターを研究所として設けるなどの活動によっても、海外の日本文化研究者・マンガ文化研究者・コンテンツ産業関係者、各国政府文化担当官等の関心を集め、連携事業も展開され、国際レベルでマンガ文化における教育研究の活性化に対する主導的な役割を果たしている。

今回のマンガ研究科の設置は、これまでの本学のマンガ領域における実績を踏まえた上で、より高度で専門的な教育研究と一層の社会貢献を実現するため計画されたものである。

### （3）人材養成と修了後の進路

#### A. デザイン研究科

##### a) デザイン専攻

デザイン専攻では、現代社会においてデザインに期待される社会的課題を理解しつつ、人間の精神生活をより豊かにする美的価値を創造する、高度で専門的なデザイン感性と技能を有した人材を養成する。

具体的な職業像として以下のものが想定される。

- ・デザイナー（グラフィック、広告、エディトリアル、インダストリアル、プロダクト、インテリア等）
- ・デザイン・プロデューサー
- ・アートディレクター

- ・イラストレーター
- ・大学教員

#### b) 建築専攻

建築専攻では、安全性を保障する知識と技術の裏づけを有した上で、個性的で快適な空間を創造する、高度で専門的なデザイン感性と技能を有した人材を養成する。

具体的な職業像として以下のものが想定される。

- ・建築家
- ・空間プロデューサー
- ・インテリアデザイナー
- ・大学教員

### B. マンガ研究科

マンガ研究科では、国際的にも大衆的なレベルで圧倒的な支持を受けるマンガ文化の現代的到達点を踏まえながら、次世代の新しいマンガ文化の展開に貢献できる高度で専門的な知識と技能を有した人材を養成する。

具体的な職業像として以下のものが想定される。

- ・マンガ家
- ・アニメーション作家
- ・コンテンツ・プロデューサー
- ・原作者
- ・大学教員

尚、以上の各研究科・専攻における進路は、研究科の新設であるため想定事例ではあるが、本学のデザイン教育、マンガ教育の歴史を踏まえた実績でもある。

## [2] 博士課程の設置構想について

### A. デザイン研究科

デザイン研究科は、修士課程として設置するが、現代社会におけるデザインに関する高度で先端的教育と研究の要請に応えるため、今回設置される研究科の完成年次において、博士課程（前期・後期）への課程変更を視野に入れた検討を、入学者の進学希望調査等を踏まえながら、はじめる計画である。尚、当面は、修士課程での教育、研究の充実に傾注するものである。

### B. マンガ研究科

マンガ研究科は、修士課程として設置するが、現代社会におけるマンガ文化に関する高度で先端的教育と研究の要請に応えるため、今回設置される研究科の完成年次において、博士課程（前

期・後期)への課程変更を視野に入れた検討を、入学者の進学希望調査等を踏まえながら、はじめる計画である。尚、当面は、修士課程での教育、研究の充実に傾注するものである。

### [3] 研究科, 専攻等の名称及び学位の名称

#### A. デザイン研究科

(1) 研究科、専攻の名称

デザイン研究科 (英文名称 Graduate School of Design)  
デザイン専攻 (英文名称 Department of Design)  
建築専攻 (英文名称 Department of Architecture)

(2) 授与する学位の名称

修士(芸術) (英文名称 Master of Arts)

#### B. マンガ研究科

(1) 研究科、専攻の名称

マンガ研究科 (英文名称 Graduate School of Manga)  
マンガ専攻 (英文名称 Department of Manga)

(3) 授与する学位の名称

修士(芸術) (英文名称 Master of Arts)

### [4] 教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 教育課程の編成の考え方

#### A. デザイン研究科

デザイン専攻、建築専攻ともに、「共通基盤科目群」「専門特講科目群」「専門研究科目群」の3つの科目区分によって教育課程を編成する。この3つの科目区分から所定の必要単位を履修しながら学修することによって、デザイン分野における基礎的素養と高度な専門的知識・技能を体系的に培うものである。

この教育課程編成方針は、中央教育審議会答申『新時代の大学院教育』(2005年9月5日)における「大学院の教育内容としては、学修課題を複数の科目等を通して体系的に履修するコースワーク等により、関連する分野の基礎的素養の涵養を図り、学際的な分野への対応能力を含めた専門的知識を活用・応用する能力(専門応用能力)を培う教育が重要となる。加えて、高い倫理性や世界の多様な文化・歴史に対する理解力、語学力を含めたコミュニケーション能力などを身

に付けさせることも求められる」との内容を踏まえたものである。

「共通基盤科目群」は、ジャンルに関わらず表現にたずさわることを志向する者に必要とされる表現の特性の根本思想を学ぶとともに、社会における表現の実践的な展開手法、あるいはアカデミックな研究・学習の方法を学ぶ科目群である。

「専門特講科目群」においては、デザイン分野における専門性に関わる知識と思考能力を養う。また、他研究科に開設されている「専門特講科目群」の科目も履修できるようになっており、より広い知見と学識を得ることが可能となっている。

「専門研究科目群」では、学生個々人の研究計画に基づき、修了作品または修士論文の作成に取り組む。

## B. マンガ研究科

マンガ研究科では、「共通基盤科目群」「専門特講科目群」「専門研究科目群」の3つの科目区分によって教育課程を編成する。この3つの科目区分から所定の必要単位を履修しながら学修することによって、マンガ分野における基礎的素養と高度な専門的知識・技能を体系的に培うものである。

この教育課程編成方針は、中央教育審議会答申『新時代の大学院教育』（2005年9月5日）における「大学院の教育内容としては、学修課題を複数の科目等を通して体系的に履修するコースワーク等により、関連する分野の基礎的素養の涵養を図り、学際的な分野への対応能力を含めた専門的知識を活用・応用する能力（専門応用能力）を培う教育が重要となる。加えて、高い倫理性や世界の多様な文化・歴史に対する理解力、語学力を含めたコミュニケーション能力などを身に付けさせることも求められる」との内容を踏まえたものである。

「共通基盤科目群」は、ジャンルに関わらず表現にたずさわることを志向する者に必要とされる表現の特性の根本思想を学ぶとともに、社会における表現の実践的な展開手法、あるいはアカデミックな研究・学習の方法を学ぶ科目群である。

「専門特講科目群」においては、マンガ分野における専門性に関わる知識と思考能力を養う。また、他研究科に開設されている「専門特講科目群」の科目も履修できるようになっており、より広い知見と学識を得ることが可能となっている。

「専門研究科目群」では、学生個々人の研究計画に基づき、修了作品または修士論文の作成に取り組む。

### (2) 教育課程の特色

#### A. デザイン研究科

##### a) デザイン専攻

デザイン専攻の扱う、デザイン的なジャンル区分としては、大きく視覚伝達デザインとプロダクトデザインになるが、現在こうしたジャンルの区分はどこまでも細分化できてしまう多様化を果たしており、教育の柱はこうしたジャンルの区分によらず、社会や産業界との連携においてチームで制作・開発するプロジェクトをマネージメントできるプロデューサー的能力を育成するも

のと、デザインの課題を探求して高度な作品制作や研究能力を育成するデザイン制作者・研究者の能力を育成するものとして設ける（「履修モデル」は資料1参照）。

プロデューサーはもちろんデザイナーにあっても単に職人的技術を有するだけでは高度な専門的職業人とは言えず、また現代社会におけるデザインへの要請に応えることはできない。高度な専門知識と普遍的な哲学の修得の上に、実践性を図るよう科目を構成していることが本専攻の特色である。

「共通基盤科目群」における必修科目は以下の3科目である。「表現特論」によってジャンルに関わらない表現の根本思想・哲学を学び、また「知的創造特論」では表現物の創造過程を学びながら多様なイメージ形成能力の育成をはかる。「プロジェクト企画演習」では、表現・創造のための企画力を養成する。

「共通基盤科目群」における選択科目において、プロデューサー志向の学生は主に「プロジェクトワーク演習」を履修し、実際に社会的に展開するプロジェクトをチームで運営することで実践力を培う。一方、デザイン制作者・研究者を志向する学生は主に「英語プレゼンテーション演習」「学術論文演習」「原書講読」を選択し、アカデミックな知見と思考を醸成する。

「専門特講科目群」では、デザインに関わる高度な学識と視点を獲得するために「デザイン理論特講」を必修とする。加えて、「創造領域特講」では幅広い講義科目を配置し、プロデューサー志向、デザイン制作者・研究者志向に対応した科目を選択する。また“表現の総合大学”を標榜する本学では、他研究科開講科目からも、関連科目を履修できることで、関連領域における基礎的素養を培うための一層幅広い学びが可能となる。

こうした基盤の上に立って、「専門研究科目群」において各自の専門的なテーマ・課題を探求するものである。

## **b) 建築専攻**

“建築”はすべての芸術表現の起源であるともいわれ、特に工学ではなくデザインからのアプローチをする場合には、インテリアや照明設計、その場に流れる音楽までふくめて、空間全体を演出することが、建築家の役割として求められる。つきつめれば、個人の居宅にあっては家族の関係やライフスタイル、オフィスや店舗においてはビジネス・スタイルのプロデュースにまでつながるものである。

したがって、建築専攻における、教育の柱は、複雑・高度な技術を要する建築物を含むすべての施設の設計および工事監理を行うことのできる1級建築士資格を取得するためのものと、必ずしも建築士資格を有せずとも広く独創的な空間を演出する空間デザイナーを育成するものとして設ける（「履修モデル」は資料1参照）。

建築家はもちろん空間デザイナーにあっても単に職人的技術を有するだけでは高度な専門的職業人とは言えず、また現代社会における建築デザインへの要請に応えることはできない。高度な専門知識と普遍的な哲学の修得の上に、実践性を図るよう科目を構成していることが本専攻の特色である。

「共通基盤科目群」における必修科目は以下の3科目である。「表現特論」によってジャンルに関わらない表現の根本思想・哲学を学び、また「知的創造特論」では表現物の創造過程を学びながら多様なイメージ形成能力の育成をはかる。「プロジェクト企画演習」では、表現・創造のための企画力を養成する。



「共通基盤科目群」における選択科目においては、主に「プロジェクトワーク演習」を履修し、実際に社会的に展開するプロジェクトをチームで運営することで実践力を培うか、主に「英語プレゼンテーション演習」「学術論文演習」「原書講読」を選択し、アカデミックな知見と思考を醸成するかを、学生の志向において選択することができる。

「専門特講科目群」では、デザインからアプローチする建築家の養成に関わる高度な学識と視点を獲得するために「デザイン理論特講」を必修とする。加えて、「創造領域特講」では幅広い講義科目を配置し、建築家志向、空間デザイナー志向に対応した科目を選択する。また“表現の総合大学”を標榜する本学では、他研究科開講科目からも、関連科目を履修できることで、関連領域における基礎的素養を培うための一層幅広い学びが可能となる。

こうした基盤に立脚し、「専門研究科目群」における「建築研究」において各自の専門的なテーマ・課題を採求するものである。

さらに1級建築士資格取得をめざす学生は、1級建築士受験資格の要件である実務経験にみな「建築設計特講」「先端建築技術特講」「建築家倫理特講」「建築構造演習」「建築設備演習」「建築設計監理演習」の全ての科目を履修することがさらに求められる。一方、空間デザイナーをめざす学生は上述の科目の履修を必ずしも必要としない。

## B. マンガ研究科

マンガ文化をめぐる環境は現在、劇的に変化を遂げている。そのため、本学では、既存のマンガ学部、芸術研究科マンガ領域においても、マンガを“言語によらず広範にメッセージを伝達できるメディア”と位置づけ、難解な事項を解説したり、啓蒙したりする“実用マンガ”の開発を、企業や自治体との連携の中で取り組んできた。また、一方では商業誌に作家性の高い作品を発表するマンガ家も輩出してきている。

こうしたマンガ文化に対するふたつのとらえ方から、マンガ研究科において、教育の柱は、社会や産業界との連携において作品制作を行えるプロデューサー的能力を育成するものと、自己の作家性にもとづいて高度な作品制作や研究能力を育成するマンガ家・研究者的能力を育成するものとして設ける（「履修モデル」は資料1参照）。

プロデューサーはもちろんマンガ家にあっても単に職人的技術を有するだけでは高度な専門的職業人とは言えず、またマンガ文化の次世代への発展に貢献することはできない。高度な専門知識と普遍的な哲学の修得の上に、実践性を図るよう科目を構成していることが本専攻の特色である。

「共通基盤科目群」における必修科目は以下の3科目である。「表現特論」によってジャンルに関わらない表現の根本思想・哲学を学び、また「知的創造特論」では表現物の創造過程を学びながら多様なイメージ形成能力の育成をはかる。「プロジェクト企画演習」では、表現・創造のための企画力を養成する。

「共通基盤科目群」における選択科目において、プロデューサー志向の学生は主に「プロジェクトワーク演習」を履修し、実際に社会的に展開するプロジェクトをチームで運営することで実践力を培う。一方、作家性の高いマンガ制作・研究者を志向する学生は主に「英語プレゼンテーション演習」「学術論文演習」「原書講読」を選択し、アカデミックな知見と思考を醸成する。

「専門特講科目群」では、マンガに関わる高度な学識と視点を獲得するために「マンガ理論特講」を必修とする。加えて、「マンガ領域特講」では幅広い講義科目を配置し、プロデューサー志

向、作家性の高いマンガ制作・研究者志向に対応した科目を選択する。また“表現の総合大学”を標榜する本学では、他研究科開講科目からも、関連科目を履修できることで、関連領域における基礎的素養を培うための一層幅広い学びが可能となる。

こうした基盤の上に立って、「専門研究科目群」において各自の専門的なテーマ・課題を探究するものである。

## [5] 教員組織の編成の考え方及び特色

### A. デザイン研究科

#### a) デザイン専攻

専任教員 7 名を配置する。

修了制作および修士論文作成の指導にあたる「専門研究科目群」は、豊富な実務経験により高度な専門性を有したデザイナーとして現在も活動中であり、かつ学部、大学院での教歴も有する専任教員 6 名(内修士号所有者 2 名)と兼任教員 1 名、博士号を有する専任教員 1 名が担当する。

「専門特講科目群」は社会で広く活躍する現場の視点を有した兼任教員を中心とするが、必修の中核的科目となる「デザイン理論特講」は博士号を有する専任教員が担当する。

「共通基盤科目群」は、ジャンルに関わらず表現にたずさわることを志向する者に必要とされる表現の特性の根本思想を学ぶとともに、社会における表現の実践的な展開手法、アカデミックな研究・学習の方法を学ぶ科目群である位置づけから、専任教員 1 名と、他研究科所属の兼任教員 9 名、兼任教員 3 名が担当する。

デザインという社会との連動性が高い教育研究領域であることに配慮し、広く専攻に関わる現場的視点を導入しつつも、研究指導の根幹を専任教員が担当するバランスのとれた構成である。

尚、年齢構成は 60 代 4 名と 40 代 3 名であり、現時点では経験豊かな教員と中堅の教員により構成されているが、今後の継続的な教育研究上の維持向上と活性化の観点からは高齢に偏っている面があるため、教育課程や教員組織に関して定期的に点検・評価を行い、年齢構成の是正をはかっていく予定である。

#### b) 建築専攻

専任教員 7 名を配置する。

「専門研究科目群」のうち修了制作の指導にあたる「建築研究」は、豊富な実務経験により高度な専門性を有した建築家として現在も活動中であり、学部や大学院での教歴も有する専任教員 6 名が担当する。うち修士号を有する者 2 名、博士号を有する者 1 名である。

「専門特講科目群」は社会で広く活躍する現場の視点を有した兼任教員を中心とするが、必修の中核的科目となる「デザイン理論特講」は現場での豊かな実務経験に加え多数の研究業績を有する専任教員が担当する。

「共通基盤科目群」は、ジャンルに関わらず表現にたずさわることを志向する者に必要とされる表現の特性の根本思想を学ぶとともに、社会における表現の実践的な展開手法、アカデミック

な研究・学習の方法を学ぶ科目群である位置づけから、専任教員 2 名と、他研究科所属の兼任教員 7 名、兼任教員 3 名が担当する。

建築という社会との連動性が高い教育研究領域であることに配慮し、広く専攻に関わる現場的視点を導入しつつも、研究指導の根幹を専任教員が担当するバランスのとれた構成である。

尚、年齢構成は 60 代 2 名、50 代 1 名、40 代 4 名であり、著しい偏りはなく、教育研究上の維持向上と活性化に支障がないものとする。

## B. マンガ研究科

専任教員 9 名を配置する。

修了制作および修士論文作成の指導にあたる「専門研究科目群」は、豊富な実務経験により高度な専門性を有したマンガ家として現在も活動中であり、学部や大学院での教歴も有する専任教員 4 名と、博士号を有する専任教員 1 名、修士号を有する専任教員 1 名が担当する。実務者であるマンガ家は、マンガ教育を行う高等教育機関が極度に少なかったため必ずしも全員が学位は有していないが、すべて斯界の権威ある賞の受賞者である。

「専門特講科目群」は、博士号を有する専任教員 2 名が担当する他、マンガ文化に関する著書・論文が豊富な専任教員 2 名が担当する。

「共通基盤科目群」は、ジャンルに関わらず表現にたずさわることが志向する者に必要とされる表現の特性の根本思想を学ぶとともに、社会における表現の実践的な展開手法、アカデミックな研究・学習の方法を学ぶ科目群である位置づけから、専任教員 1 名と、他研究科所属の兼任教員 9 名、兼任教員 3 名が担当する。

マンガという高い教育研究領域であることに配慮し、広く専攻に関わる現場的視点を導入しつつも、研究指導の根幹を専任教員が担当するバランスのとれた構成である。

尚、年齢構成は 60 代 2 名、50 代 2 名、40 代 3 名、30 代 2 名であり、著しい偏りはなく、教育研究上の維持向上と活性化に支障がないものとする。

## [6]履修指導、研究指導の方法及び修了要件（資料 2「修了までのスケジュール」参照）

### （1）履修指導

#### A. デザイン研究科

新年度のオリエンテーション期間において、教務部主催の大学院生対象の履修説明会を実施する。

新入生に関しては、講義概要とシラバスを提示し、カリキュラムの特長、履修の流れを解説することに加えて、修了の要件、学位取得までのプロセスについても説明する。さらに、具体的な履修方法については、指導教員からも履修指導を行う。

修了年次である 2 年次に関しても、やはり説明会を開催し、履修指導に加えて、修了までの流れを再確認する。さらに、年次冒頭に成績通知書をもとに、単位取得状況に応じた個別相談会を

実施する。個別相談では、履修指導に加えて、学生の状況把握につとめ、学生に対しても今後の研究計画の見直しなどをはからせる。

## B. マンガ研究科

新年度のオリエンテーション期間において、教務部主催の大学院生対象の履修説明会を実施する。

新入生に関しては、講義概要とシラバスを提示し、カリキュラムの特長、履修の流れを解説することに加えて、修了の要件、学位取得までのプロセスについても説明する。さらに、具体的な履修方法については、指導教員からも履修指導を行う。

修了年次である2年次に関しても、やはり説明会を開催し、履修指導に加えて、修了までの流れを再確認する。さらに、年次冒頭に成績通知書をもとに、単位取得状況に応じた個別相談会を実施する。個別相談では、履修指導に加えて、学生の状況把握につとめ、学生に対しても今後の研究計画の見直しなどをはからせる。

### (2) 研究指導の方法

#### A. デザイン研究科

研究指導教員は学生の研究目的が達成できるよう、指導・助言を行う。修了作品を制作する者に対しては高度で独創的な作品の完成を目標に、修士論文を作成する者に対しては独創的で広い知見にもとづいた論文の完成を目標に、個々のテーマと課題を深化させるよう指導を行う。

1年次では主に修了要件として定められた授業科目の履修を行いつつ、「専門研究科目群」において、修了作品または修士論文のテーマと課題を構想し、かつ深化させる。

1年次終了時には、公開の報告会を催し、プレゼンテーションを行い、それに対する質疑を受ける。

2年次には修了作品制作または修士論文作成が中心となるが、中間的成果を段階的に発表させ、学生間の相互批評の場を形成するとともに、指導教員以外の教員からの助言を受ける場を積極的に設ける。

「専門研究科目群」においては、複数の担当者の指導が得られることが可能となるように科目を編成し、担当者を配置することで、学生の自主的な課題探求を尊重し、単一の発想や技法に固着することがないように、指導教員以外の研究科専任教員からも随時アドバイスをあおげる態勢を準備し、独創性の伸長をはかる。

「修士論文・作品最終題目届」のあったものにもとづいて、研究科委員会は作品または論文ごとに学位審査委員会を設ける。審査委員会は、専門分野の指導教員と研究科委員会の選出した関連分野の教員2名以上で組織される。審査委員会は研究科委員会に審査結果を提案し、研究科委員会の審議において学位授与を決定する。

尚、修了要件は、2年以上在学し、30単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士論文または修士作品についての研究の成果の審査および最終試験に合格した者に対し、研究科委員会の

議を経て、学長が修了を認定する。

学位を授与された修了作品は展覧会およびカタログ、修士論文は記録集のかたちで社会的に公表する。

## B. マンガ研究科

研究指導教員は学生の研究目的が達成できるよう、指導・助言を行う。修了作品を制作する者に対しては高度で独創的な作品の完成を目標に、修士論文を作成する者に対しては独創的で広い知見にもとづいた論文の完成を目標に、個々のテーマと課題を深化させるよう指導を行う。

1年次では主に修了要件として定められた授業科目の履修を行いつつ、「専門研究科目群」において、修了作品または修士論文のテーマと課題を構想し、かつ深化させる。

1年次終了時には、公開の報告会を催し、プレゼンテーションを行い、それに対する質疑を受ける。

2年次には修了作品制作または修士論文作成が中心となるが、中間的成果を段階的に発表させ、学生間の相互批評の場を形成するとともに、指導教員以外の教員からの助言を受ける場を積極的に設ける。

「専門研究科目群」においては、複数の担当者の指導が得られることが可能となるように科目を編成し、担当者を配置することで、学生の自主的な課題探求を尊重し、単一の発想や技法に固着することがないように、指導教員以外の研究科専任教員からも随時アドバイスをあおげる態勢を準備し、独創性の伸長をはかる。

「修士論文・作品最終題目届」のあったものにもとづいて、研究科委員会は作品または論文ごとに学位審査委員会を設ける。審査委員会は、専門分野の指導教員と研究科委員会の選出した関連分野の教員2名以上で組織される。審査委員会は研究科委員会に審査結果を提案し、研究科委員会の審議において学位授与を決定する。

尚、修了要件は、2年以上在学し、30単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士論文または修士作品についての研究の成果の審査および最終試験に合格した者に対し、研究科委員会の議を経て、学長が修了を認定する。

学位を授与された修了作品は展覧会およびカタログ、修士論文は記録集のかたちで社会的に公表する。

## [7]特定の課題についての研究成果の審査を行う場合

大学院設置基準第16条において、「修士課程の修了の要件は、大学院に二年(二年以外の標準修業年限を定める研究科、専攻又は学生の履修上の区分にあつては、当該標準修業年限)以上在学し、三十単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた

上、当該修士課程の目的に応じ、当該大学院の行う修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び試験に合格することとする。(略)」と定められているところにもとづき、高度な専門的職業人の養成も研究科の目的としているところから、デザイン研究科およびマンガ研究科では修士論文のみならず、修士作品を提出し、その審査に合格することによって修了できるものとする。

修士作品は、作品ごとに設けられる学位審査委員会において審査を受ける。審査委員会は、専門分野の指導教員と研究科委員会の選出した関連分野の教員2名以上で組織されるものである。

また、最終審査結果をとりまとめるにあたっては、展覧会等の公開の発表会を催し、指導教員以外の教員や他の学生、さらには学外者も含んだ開かれた批評を受けることで、教育研究の水準を担保する。

審査委員会はそれらを踏まえた上で、研究科委員会に審査結果を提案し、研究科委員会の審議において学位授与を決定する。

## [8]施設・設備等の整備計画（参照：別添「校地校舎等の図面」）

### (1) 教室等

本学では、本館の建替工事をを行い、2008年度末に竣工している。旧本館の延床面積1,903㎡に対して、新本館の延床面積は6,455㎡であり、4,492㎡の増床となっている。デザインとマンガのふたつの新研究科は、既設の芸術研究科の教育内容を発展的に独立させたものであるため、既に専用として使用できる施設・設備を備えていたものであるが、大学院収容定員の増加に対応して、新本館内にさらに大学院専用施設を新たに設けることとした。施設の内容は以下のとおりである。

#### ① 講義室

大学院専用の講義室として、流溪館に1室（84.1㎡）、本館に1室（262.0㎡）を設ける。必要な場合は学部の施設および設備も使用する。

#### ② 共同演習室

大学院専用の共同演習室として、流溪館に1室（39.0㎡）、本館に2室（151.0㎡、73.6㎡）を設ける。

#### ③ 各研究科専用演習室、実習室

デザイン研究科デザイン専攻および建築専攻、マンガ研究科マンガ専攻において、修了作品制作の学生には、制作作業スペースとして以下の演習・実習室を与える。

- i) デザイン研究科デザイン専攻では、対峰館と風光館に合わせて2室（31.5㎡、21.5㎡）の演習室を設ける。
- ii) デザイン研究科建築専攻は風光館に1室（52.2㎡）の実習室を設ける。
- iii) マンガ研究科マンガ専攻では、自在館と対峰館に合わせて3室（52.6㎡、52.2㎡、28.9㎡）の演習室を設ける。

#### ④ 共同研究室

本館に1室（151.0㎡）大学院生共同研究室を設ける。研究に必要な情報収集等のため、LAN配線によるインターネット環境を整備し、その他、共同利用書籍等を配架するための書架を設置する。

### （2）図書等の資料の整備計画

本学には図書資料、視聴覚資料、博物資料の所蔵、またデジタル機材の充実をはかる方針によって、全学共用の施設である情報館を設置している。

4階構造約4,700㎡の延べ床面積を持ち、その内閲覧スペースは約1,900㎡、閲覧席数約679席であり、視聴覚および情報末端スペースは約1,100㎡が確保されている。書庫および事務スペースは約1,000㎡である。

図書資料の収蔵冊数は約230,000冊となり、その内、デザイン関連図書は約8,000冊、マンガ関連図書は約4,500冊である。

毎年定期的に図書・視聴覚資料の追加等整備を行っているため、関連図書は一層充実される方向にある。今後、デザイン研究科デザイン専攻および建築専攻、マンガ研究科マンガ専攻の設置に伴い、担当予定教員と学生のニーズを想定しさらに充実した図書・視聴覚資料等の準備を進める予定である。

ただし、マンガ研究がアカデミズムの世界に認知されたのは比較的新しく、日本マンガ学会が設立されたのも2001年である。マンガがその長い歴史のなかで多くの人びとや、社会的・学問的諸領域においても多大な影響を与えてきたことから、マンガに関する研究論文そのものはかなり以前から相当数発表され続けているものの、美学や社会学、文化史などの様々な学問領域の学術雑誌のなかに散在するかたちとなっており、“マンガ学”の学術雑誌と呼び得るものは、ほとんど存在しないといえる現状である。そのため本学では、マンガの教育研究に資する研究資料として、活字によるマンガ論、マンガ作家論、マンガ史などの図書収集につとめていることはもちろん、日本マンガ学会発行学会誌「マンガ研究」に加え、118種にわたるマンガ誌を継続収集し、更に300,000点にわたる世界最大級のマンガ資料を所蔵する京都国際マンガミュージアム（京都市と本学との共同運営施設）も在学生は無料で随時利用できるという、十分な研究環境を整備しているものである。このような経緯に鑑みて、マンガ誌をマンガ研究の学術雑誌として取り扱うこととする。その一覧を資料3として掲載しておく。

同様にデザイン研究も、デザインに特化したいいわゆる学術雑誌が必ずしも多くはないことと、本学のデザイン教育が実践的なデザイナーの育成を主軸としてきたところから、デザイン誌を中心に研究資料として整備してきたところであり、いわゆる研究論文が掲載されている雑誌ではないが、デザイン誌を学術雑誌と取り扱うこととする。これらを資料4として掲載しておく。もちろん活字図書によるデザイン論、デザイン史、さらにデザインと関連の深い美術・芸術関連図書や雑誌、展覧会図録などを豊富に備えている。

上記以外に電子ジャーナル28種、デジタルデータベースが18種利用できる（一覧は資料5）。

図書資料の他、約8,000点の視聴覚資料を所蔵し、その他の施設として、デジタル機器での制作支援、機器貸出を行うメディアセンター、撮影用スタジオや上映用機材を備えたメディアホールといった施設を館内に設置している。

## [ 9 ] 既設の学部との関係

### A. デザイン研究科

デザイン研究科デザイン専攻、建築専攻の基礎となる学部はデザイン学部である。デザイン学部はビジュアルデザイン学科、プロダクトデザイン学科、建築学科で構成され、ビジュアルデザイン、プロダクトデザインの領域はデザイン専攻に、建築学科の領域は建築専攻に発展的につながるものである。

デザイン学部では、作品制作を基軸にしながらも、それを支える理論、応用としての社会実践を3要素として、バランスよく教育を行っている。

デザイン研究科デザイン専攻では、ビジュアルデザイン、プロダクトデザインの領域を対象とすることはもちろんであるが、教育の柱としては、それら二つの領域を対象としながらも、高度な専門性を備えたデザイナーや研究者の育成と、より高い社会的実践力を有したプロデューサーの養成という二つの方向性を設けることとした。

建築専攻においては、社会での実践的な活動に際して一級建築士資格の有無が大きなポイントになるため、一級建築士の受験資格を得ることができるカリキュラムも準備し、建築士資格取得をめざす場合と、それにこだわらず空間デザイナーをめざす場合の二つの方向性を教育の柱とする。

デザイン研究科とデザイン学部との関係の図示は資料6のとおりである。

### B. マンガ研究科

マンガ研究科の基礎となる学部はマンガ学部である。マンガ学部はマンガ学科、マンガプロデュース学科、アニメーション学科で構成され、その領域はマンガ研究科に発展的につながるものである。

マンガ学部では、作品制作を基軸にしながらも、それを支える理論、応用としての社会実践を3要素として、バランスよく教育を行っている。

マンガ研究科では、マンガ、マンガプロデュース、アニメーションの領域を対象とすることはもちろんであるが、教育の柱としては、それら二つの領域を対象としながらも、高度な専門性を備えたデザイナーや研究者の育成と、より高い社会的実践力を有したプロデューサーの養成という二つの方向性を設けることとした。

マンガ研究科とマンガ学部との関係の図示は資料6のとおりである。

## [ 10 ] 入学者選抜の概要

デザイン研究科とマンガ研究科の入学者の選抜については、研究目的を作品制作とする者と、論文作成とする2種別での入学試験を実施する。選抜判定に関する事項は各研究科委員会にて行う。



受験資格は以下のとおりとする。

- (1) 学校教育法第 52 条に定める大学を卒業した者
- (2) 学校教育法第 68 条の 2 第 3 項の規定により、学士の学位を授与された者
- (3) 外国において学校教育における 16 年の課程を修了した者
- (4) 文部科学大臣の指定した者
- (5) 大学に 3 年以上在学し、または外国において学校教育における 15 年の課程を修了し、本大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
- (6) 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22 歳に達した者
- (7) その他本大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

## A. デザイン研究科

### a) デザイン専攻

デザイン研究科デザイン研究において研究目的を作品制作とするものの入学試験では、書類審査、小論文および作品審査・面接を実施する。

研究目的を論文作成とするものの入学試験では、書類審査、論述試験、英語試験および口述試問を実施する。

外国人留学生については、日本語での就学能力を判定するため、先の試験と併せて日本語試験を実施する。

種別	試験概要	入学定員	入試時期
研究目的を作品制作とするもの	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 書類審査</li><li>・ 小論文</li><li>・ 作品審査・面接</li><li>・ 日本語試験 (※外国人留学生のみ)</li></ul>	10 名	11 月
研究目的を論文制作とするもの	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 書類審査</li><li>・ 論述試験</li><li>・ 口述試問</li><li>・ 英語試験</li><li>・ 日本語試験 (※外国人留学生のみ)</li></ul>		

### b) 建築専攻

デザイン研究科建築専攻の入学試験では、書類審査、小論文、英語試験および作品審査・面接を実施する。

外国人留学生については、日本語での就学能力を判定するため、先の試験と併せて日本語試験を実施する。

種別	試験概要	入学定員	入試時期
研究目的を作品制作とするもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>書類審査</li> <li>小論文</li> <li>作品審査・面接</li> <li>英語試験</li> <li>日本語試験（※外国人留学生のみ）</li> </ul>	5名	11月

## B. マンガ研究科

マンガ研究科マンガ専攻において研究目的を作品制作とするものの入学試験では、書類審査、小論文および作品審査・面接を実施する。

研究目的を論文作成とするものの入学試験では、書類審査時に「卒業論文に相当する論文」の提出を求め、提出論文についての事項および志望動機等の面接を含む口述試験を実施する。外国人留学生については、日本語での就学能力を判定するため、先の試験と併せて日本語試験を実施する。

種別	試験概要	入学定員	入試時期
研究目的を作品制作とするもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>書類審査</li> <li>小論文</li> <li>作品審査・面接</li> <li>日本語試験（※外国人留学生のみ）</li> </ul>	20名	2月
研究目的を論文制作とするもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>書類審査</li> <li>口述試験</li> <li>日本語試験（※外国人留学生のみ）</li> </ul>		

## [ 1 1 ] 管理運営

本学の大学院では、教育研究活動の事項を審議するために、芸術研究科、デザイン研究科、マンガ研究科、人文学研究科のそれぞれに研究科委員会を設ける。研究科委員会は研究科長を中心とし、授業担当となる専任教員、准教授、講師および助教をもって構成する。

研究科委員会は研究科長の招集により、原則として毎月1回開催する。ただし研究科長が開催の必要性を認めた場合、研究科委員会構成員の4分の1以上からの委員会開催要求がある場合は随時開催する。

研究科委員会では以下に掲げる事項を審議する。

- (1) 教授および研究に関する事項
- (2) 教育課程および履修方法に関する事項
- (3) 学生指導に関する事項
- (4) 学生の入学、再入学、休学、退学、転学、除籍および賞罰に関する事項

- (5) 学生の試験および課程の修了に関する事項
- (6) 学位の審査に関する事項
- (7) 教員の人事に関する事項
- (8) 大学院担当教員の資格審査に関する事項
- (9) 学長の諮問した事項
- (10) その他研究科の運営に際し、重要と認められる事項

研究科委員会での議事の採決は、原則として無記名による出席構成員の過半数投票で決議される。

また4研究科にて構成される本学大学院全体の管理運営事項、および共通基盤科目群に代表される共通授業科目に関する事項を審議決定するため、芸術研究科、デザイン研究科、マンガ研究科、人文学研究科の4研究科からなる共同の委員会を設け、教育研究水準の向上を図る。

各研究科に関する事務については、教務部教務課がこれを行う。

## [12]自己点検・評価

本学では1996年以来「京都精華大学自己点検・自己評価規程」にもとづき自己点検・評価委員会を設け、自己点検・評価活動に取り組んできた。

2005年度までの主な活動方針としては、年度ごとに特定の部署や教学プログラムをとりあげ、集中的に点検・評価を加えるものであった。この間の点検・評価結果はこれまで4冊の報告書として刊行されている。

2006年度からは各学部・研究科から1名、また教務部、総務部、企画室、学長室といった教学と組織運営の要となる部署から委員を選出して、自己点検・評価委員会を組織した。このように全学の体制をとるとともに、事務局を学長室がつとめ、学長直轄の組織とした。また、それまでの年度毎に特定の部署や教学プログラムをとりあげる方式をあらため、大学基準協会の点検・評価項目(A群・B群)すべてにおける点検・評価に取り組むこととした。また、全開講科目を対象とした授業評価アンケートにも取り組んだ。

2007年度は引き続き自己点検・評価に取り組み、この結果にもとづいて、2008年度には財団法人大学基準協会での審査を受け認証評価された。

2009年に「自己点検評価報告書」および「大学基礎データ」と大学基準協会による「京都精華大学に対する相互評価結果ならびに認証評価結果」をまとめた自己点検・評価報告書を刊行、本学ウェブサイトにおいても公開している。

さらに2009年度より自己点検・評価に関する専門部局として教学推進センターを設立した。新たに設置するデザイン研究科、マンガ研究科においても、教学推進センターを中心とし、自己点検・評価を実施しながら、継続的な改善を進めていく。

## [13]情報提供

本学では広報紙、ウェブサイト等のメディアを通じて、広く社会への情報公開を行っている。現在ウェブサイトでは、建学の理念、学則、法人組織の概要、事業報告書（入学定員数、在 student 数、事業および財務の概要を含む）、財務諸表、自己点検・評価報告書、授業評価アンケート結果報告などを公開している。

また学部・大学院のシラバスについてはウェブサイト上にて全て検索・閲覧でき、教員プロフィールについても各学部・大学院のページにて閲覧可能である。それ以外にも卒業・修了制作作品や学生による報告書など教育活動の成果も出版物の刊行、およびウェブサイトにて公開している。

新たに設置するデザイン研究科、マンガ研究科についても、各研究科の教育目的、教育課程や担当教員など、教育研究活動の状況を積極的にウェブサイトにて公開していく計画である。

#### [14] 教員の資質の維持向上の方策

本学には、教員の資質の維持向上を恒常的かつ組織的に推進する組織として、全学的なFD委員会が設置されている。FD委員会は現在各学部・研究科などの各部門ごとに設けられており、新たに設置されるデザイン研究科、マンガ研究科にも設置される。

2009年度より各部門のFD活動を統括する専門部局である教学推進センターを設立し、FD活動の一層の推進をはかっている。

FD委員会の目的は、各部門のFDマネジメントサイクル（PCDA）を回すこと、そして各部門間の情報交換により、全学的なFDを活性化させること、さらに年次ごとに活動の全体目標を設定することなどがある。その他にも全学的に必要とされる教育改善・開発に関しては、FD委員会が中心となり、様々な研修会等が催されることとなっている。

本学のFD活動の特徴として、活動展開をよりスムーズに行うことと、SDの効果を見込み、組織メンバーの構成に職員を参加させている。

年度末に、次年度のFD活動の目標が設定され、その目標を各部門に持ち帰り、それぞれの部門の目標を作成する。FDのPCDAサイクルをまわすことを第一義にするFD委員会の目的は、日常的な教育開発・改善活動をもその活動の対象にできるだけでなく、自己点検・評価活動のPCDAとも連動し、全学の教学研究組織を活性化させる方途になっている。

上記以外にも、個人レベルでの教員の資質を向上させる制度として、各セメスターの後半に授業アンケートを実施している。授業アンケートは全科目を対象に行われ、集計結果を担当教員に提示する。当該教員はアンケート結果を踏まえ、今後の改善点を所定様式で提出しなければならない。

このように、本学では教員の資質の維持向上を目指すべく、組織的に機能するFD委員会と個人的に機能する授業アンケートの制度を整え、今後さらに継続的な向上を進める。

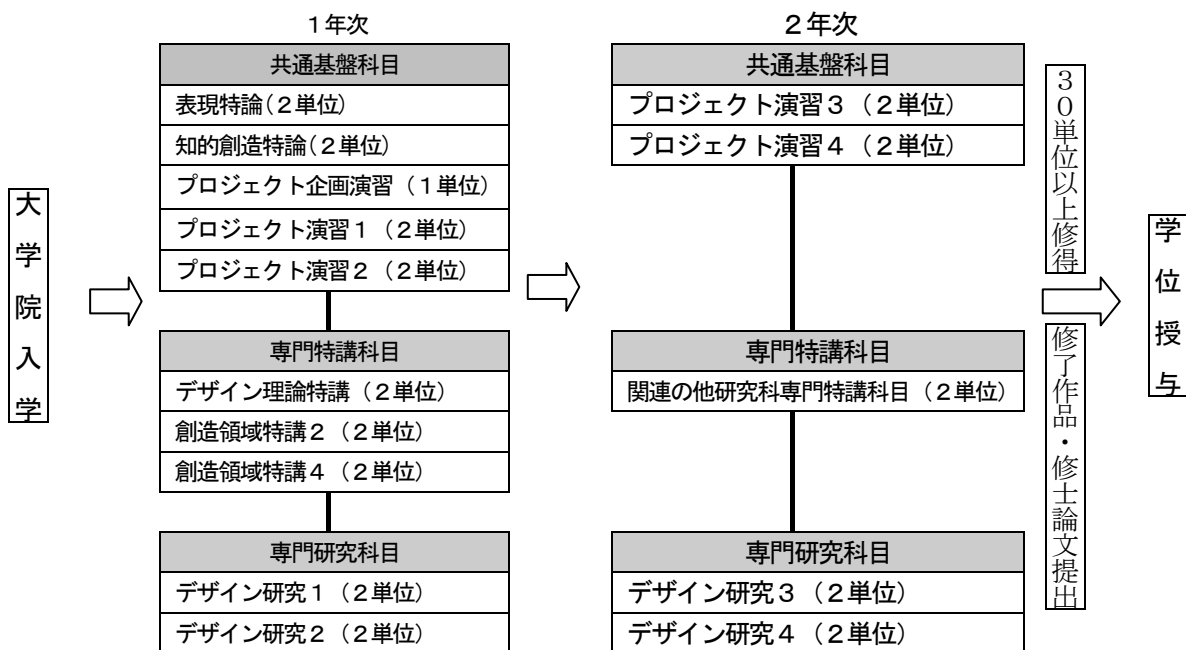
資料1 「P.9 [4] 教育課程の編成の考え方及び特色」関連

履修モデル

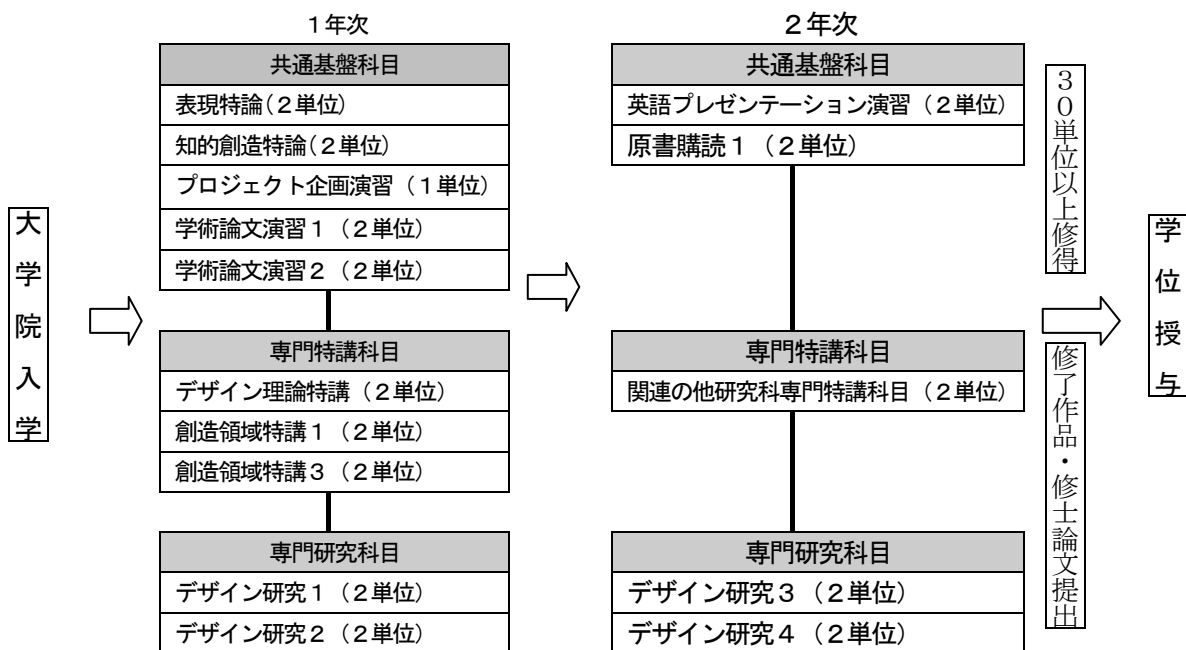
A. デザイン研究科

a) デザイン専攻

◎履修モデル1 (プロデューサー志向)

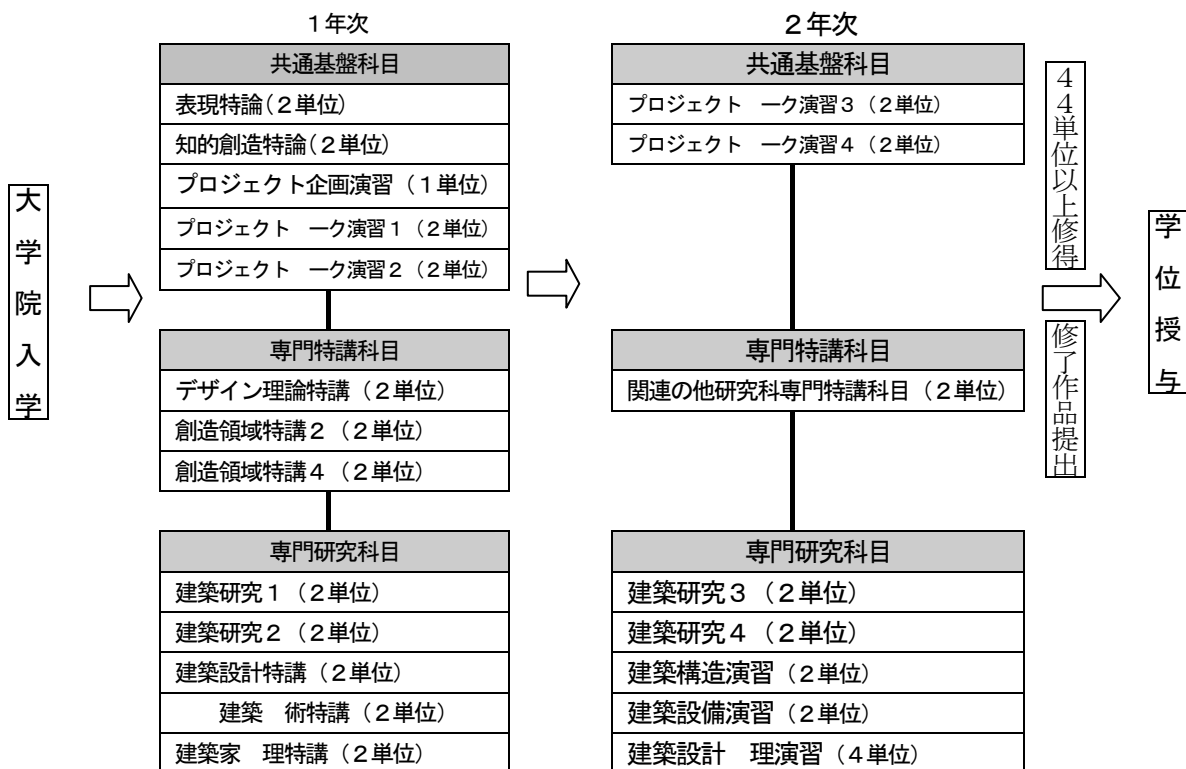


◎履修モデル2 (作家・研究者志向)

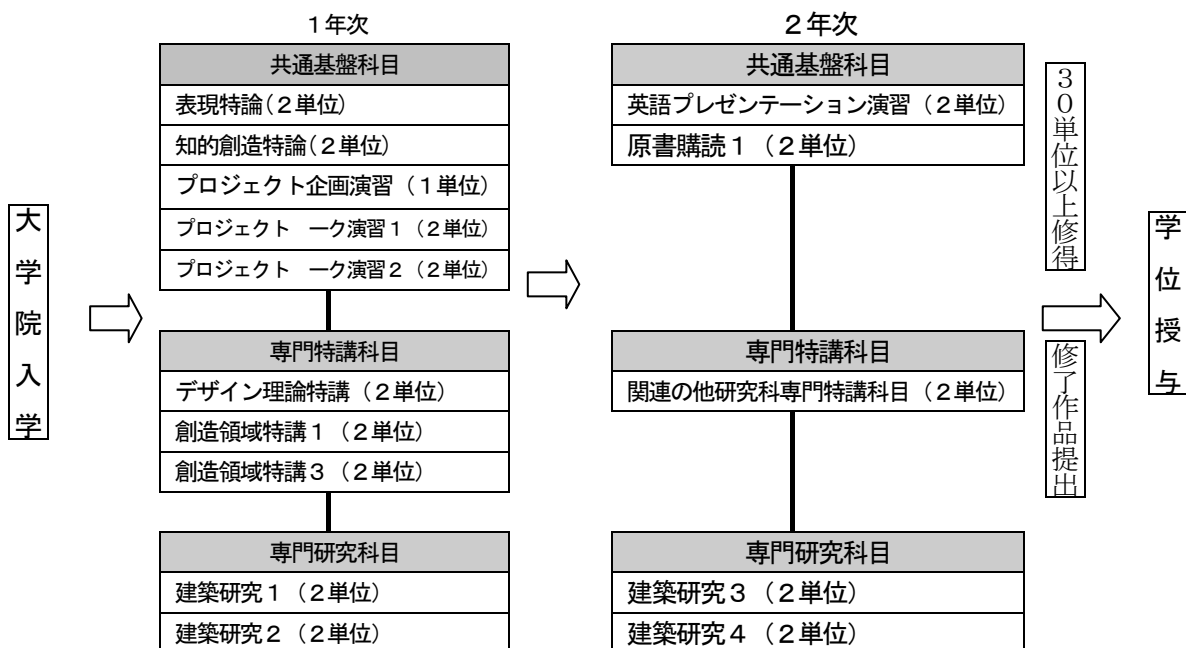


b) 建築専攻

◎履修モデル1 (建築士資 志向)

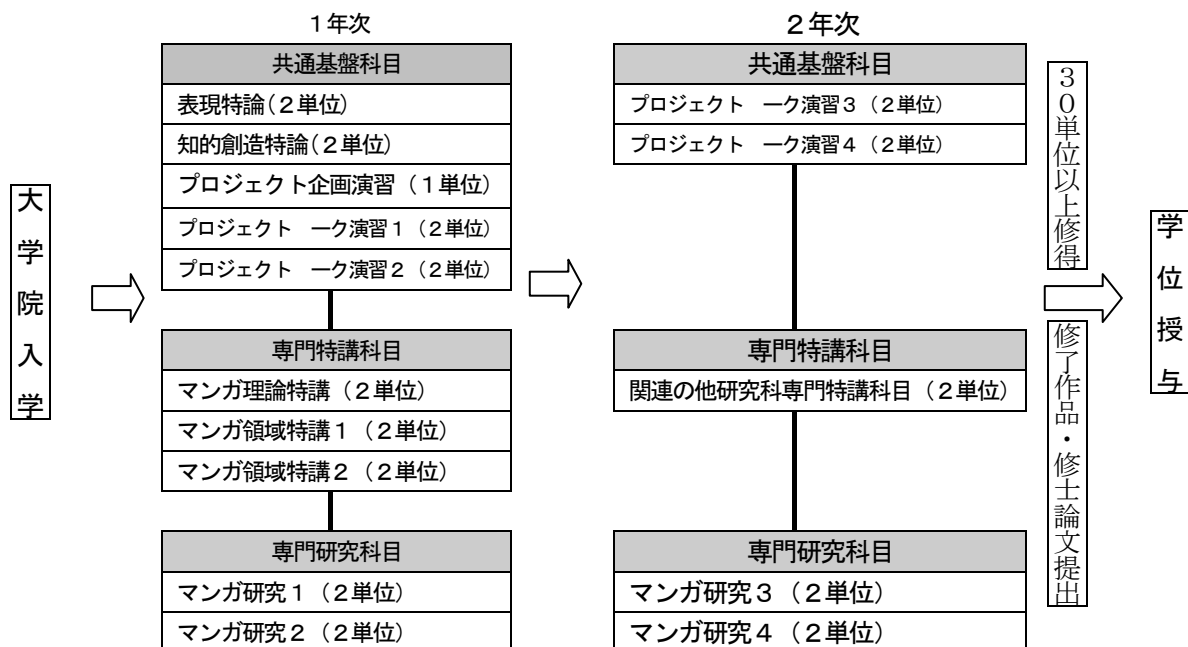


◎履修モデル2 (デザイン 志向)

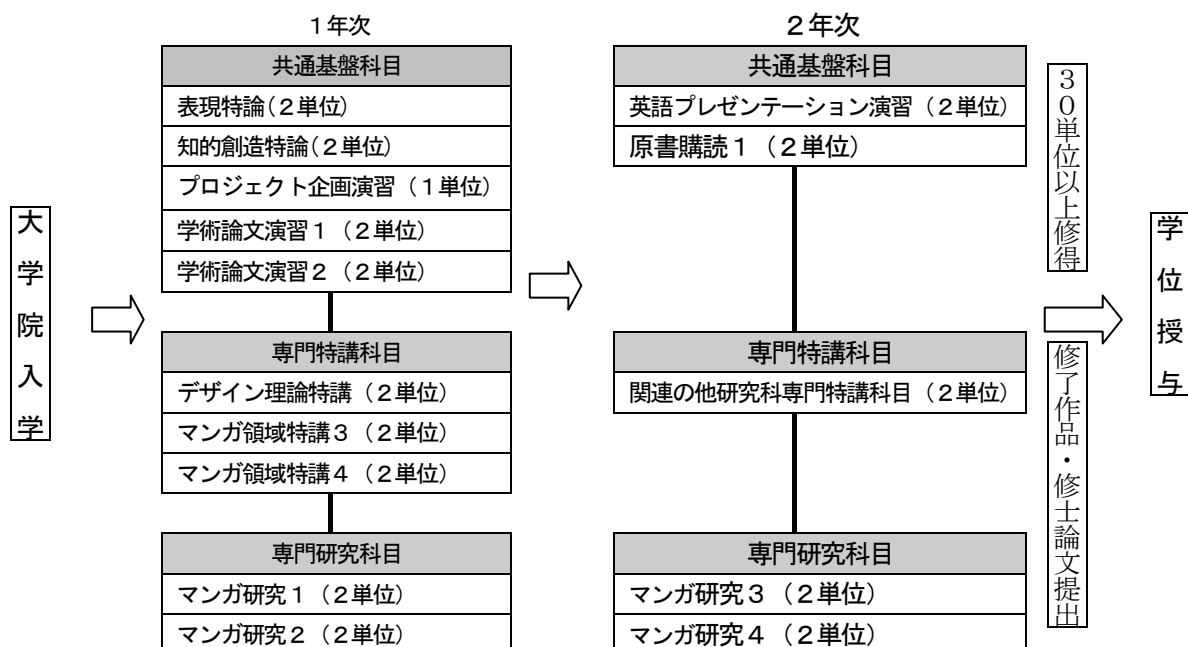


## B. マンガ研究科

### ◎履修モデル1（プロデューサー志向）



### ◎履修モデル2（作家・研究者志向）



## 修了までのスケジュール表

1年次	<p>4月 履修説明会 個別ガイダンス 履修登録</p> <p>7月 前期定期考査</p> <p>9月 前期成績書配布 履修説明会 個別ガイダンス 履修登録</p> <p>1月 修士課程1年次報告会（プレゼンテーションと質疑）</p> <p>2月 後期定期考査</p>
2年次	<p>4月 1年次成績書配布 履修説明会 個別ガイダンス 履修登録 修士論文・作品題目届出</p> <p>7月 前期定期考査</p> <p>9月 前期成績書配布 履修説明会 個別ガイダンス 履修登録</p> <p>10月 修士論文・作品最終題目届出</p> <p>1月 修士論文・作品提出 修了発表会（プレゼンテーションと質疑） 審査及び口頭試問</p> <p>2月 後期定期考査</p> <p>3月 学位記授与 修士論文および修士作品写真の図書館への所蔵 修士論文および修士作品写真の記録の公刊</p>



### 資料3 「P.17 [8] 施設・設備等の整備計画」関連

#### マンガ関連の雑誌一覧

1	マンガ研究/Japan Society for Studies in Cartoon and Comics (日本マンガ学会)
2	Comickers (美術出版社)
3	アニメディア (学習研究社)
4	アニメージュ (徳間書店)
5	ガロ (青林堂)
6	マンガ研究 (ゆまに書房)
7	ASUKA (角川書店)
8	アックス (青林工藝舎)
9	アフタヌーン (講談社)
10	IKKI (小学館)
11	イブニング (講談社)
12	ウルトラジャンプ (集英社)
13	Elegance イブ (秋田書店)
14	office YOU (集英社)
15	Kiss (講談社)
16	Cookie (集英社)
17	COMIC ガム (ワニブックス)
18	コミックバーズ (幻冬舎)
19	コミックバンチ (新潮社)
20	コミックピアニッシモ (ポプラ社)
21	コミックビーム (エンターブレイン)
22	コミックフラッパー (メディアファクトリー)
23	コミックブレイド (マッグガーデン)
24	コミックブンブン (ポプラ社)
25	コミック乱 (リイド社)
26	コミックリュウ (徳間書店)
27	コーラス (集英社)
28	コロコロコミック (小学館)
29	サスペリアミステリー (秋田書店)
30	サンデーGX (小学館)
31	ジャンプSQ[スクエア] (集英社)
32	少女コミック (小学館)
33	少女コミック Cheese! (小学館)
34	少年エース (角川書店)
35	少年ガンガン (スクウェア・エニックス)
36	ガンガンJOKER (スクウェア・エニックス)
37	週刊少年サンデー (小学館)
38	月刊少年サンデー (小学館)
39	週刊少年ジャンプ (集英社)
40	月刊少年シリウス (講談社)
41	週刊少年チャンピオン (秋田書店)
42	月刊少年チャンピオン (秋田書店)
43	チャンピオンRED (秋田書店)
44	週刊少年マガジン (講談社)
45	月刊少年マガジン (講談社)
46	マガジンイーノ[月刊少年マガジン増刊] (講談社)
47	マガジンSPECIAL (講談社)
48	マガジンZ (講談社)
49	Silky (白泉社)

50	ザ・スニーカー (角川書店)
51	スーパージャンプ (集英社)
52	ちゃお (小学館)
53	デザート (講談社)
54	ザ・デザート (講談社)
55	デジール (秋田書店)
56	なかよし (講談社)
57	ネムキ (朝日新聞出版)
58	夢幻館[ネムキ増刊] (朝日新聞出版)
59	パチスロパニック 7 (白夜書房)
60	パチスロパニック 7 別冊 (白夜書房)
61	パチスロパニック 7 ゴールド (白夜書房)
62	花音 (芳文社)
63	花とゆめ (白泉社)
64	別冊花とゆめ (白泉社)
65	ビジネスジャンプ (集英社)
66	ビッグコミック (小学館)
67	ビッグコミックオリジナル (小学館)
68	ビッグコミックスピリッツ (小学館)
69	ビッグコミックスペリオール (小学館)
70	BE・LOVE (講談社)
71	Vジャンプ (集英社)
72	プチコミック (小学館)
73	フラワーズ (小学館)
74	プリンセス (秋田書店)
75	プリンセス GOLD (秋田書店)
76	別冊フレンド (講談社)
77	マーガレット (集英社)
78	別冊マーガレット (集英社)
79	ザ・マーガレット (集英社)
80	アクション (双葉社)
81	まんがくらぶ (四齣堂)
82	まんがくらぶオリジナル (四齣堂)
83	漫画ゴラク (日本文芸社)
84	週刊漫画サンデー (実業之日本社)
85	週刊漫画 Times (芳文社)
86	まんがタイム (芳文社)
87	まんがタイムオリジナル (芳文社)
88	まんがタイムきらら (芳文社)
89	まんがタイムジャンボ (芳文社)
90	まんがタイムスペシャル (芳文社)
91	まんがタイムファミリー (芳文社)
92	まんがタイムラブリー (芳文社)
93	まんがタウン (双葉社)
94	まんがホーム (芳文社)
95	まんがライフ (四齣堂)
96	まんがライフオリジナル (四齣堂)
97	ミステリーボニータ (秋田書店)
98	メロディ (白泉社)
99	モーニング (講談社)
100	モーニング 2 (講談社)
101	ヤングアニマル (白泉社)
102	ヤングガンガン (スクウェア・エニックス)

103	ヤングキング (少年画報社)
104	月刊ヤングキング (少年画報社)
105	ヤングキングアワーズ (少年画報社)
106	ヤングジャンプ (集英社)
107	ヤングチャンピオン (秋田書店)
108	ヤングマガジン (講談社)
109	YOU (集英社)
110	月刊ライバル (講談社)
111	LaLa (白泉社)
112	LaLa DX (白泉社)
113	りぼん (集英社)
114	アニメディア (学習研究社)
115	アニメージュ (徳間書店)
116	コミッカーズアートスタイル (美術出版社)
117	ぱふ (雑草社)
118	月刊 ニュータイプ (角川書店)
119	月刊 MOE (白泉社)

## 資料4 「P.17 [8] 施設・設備等の整備計画」関連

デザイン関連の雑誌一覧

1	10+1 : ten plus one (INAX/図書出版社)
2	AD flash monthly : special selection of advertizements in magazines, newspapers and posters (アド出版)
3	AD select monthly (リブラ出版)
4	Advertising (電通)
5	Axis : アクシス (アクシス)
6	CAD & CG magazine(建築知識)
7	Casa brutus : life design magazine (マガジンハウス)
8	CG world & digital video (ワークスコーポレーション)
9	Confort (東京 : 建築資料研究社, 1990.7-)
10	D/sign (つくば : 筑波出版会)
11	Design news (東京 : 日本産業デザイン振興会)
12	+designing (河出書房新社)
13	Detail Japan : review of architecture (リード・ビジネス・インフォメーション)
14	Director's magazine (クリーク・アンド・リバー社)
15	DTP world (ワークスコーポレーション)
16	GA Japan (エーディーエー・エディタ・トーキョー)
17	Gq : a quarterly review of the graphic work (ジイキュウ出版社)
18	JA : the Japan architect (新建築社)
19	Landscape design (マルモ出版)
20	MdN (エムディエヌコーポレーション)
21	Portfolio (誠文堂新光社)
22	SD : スペースデザイン (鹿島研究所出版会)
23	SD. 別冊 (鹿島研究所出版会)
24	Web designing (毎日コミュニケーションズ)
25	アイデア : デザイン・宣伝・販売 (誠文堂新光社)
26	アイデア. 別冊 (誠文堂新光社)
27	イラストレーション (玄光社)
28	印刷雑誌 (印刷学会出版部)
29	インテリア (学芸書林)
30	学術講演会プログラム (日本建築学会)
31	季刊装飾デザイン (学習研究社)
32	季刊デザイン (美術出版社)
33	[紀要] 岡山県立大学デザイン学部紀要 (岡山県立大学デザイン学部)
34	[紀要] 沖縄県立芸術大学美術工芸学部紀要 (沖縄県立芸術大学美術工芸学部)
35	[紀要] 芸術工学研究 (九州芸術工科大学「芸術工学研究」編集委員会)
36	[紀要] 芸術学研究 (筑波大学芸術学研究科)
37	[紀要] 女子美術大学研究紀要 (女子美術大学)
38	[紀要] 成安造形短期大学紀要 (成安造形短期大学総合芸術研究所)
39	[紀要] 東北芸術工科大学紀要 (東北芸術工科大学)
40	[紀要] Artes : bulletin of Takarazuka University of Art and Design (宝塚造形芸術大学)
41	グラフィック・デザイン (芸美出版社)
42	建築ジャーナル : architectural journal (企業組合建築ジャーナル)
43	建築と社会. (日本建築協会)
44	A + U 建築と都市 (エー・アンド・ユー)
45	建築文化 (彰国社)
46	国際建築(国際建築協会)
47	広告 (博報堂)
48	広告批評 (マドラ)

49	コマーシャルフォト (玄光社)
50	室内 (工作社)
51	住宅建築 : the housing journal for builders and designers (建築思潮研究所)
52	商店建築 (商店建築社)
53	新建築 (新建築社)
54	造景 : まちづくりと地域おこしのための総合専門誌 (建築資料研究社)
55	デザイン (美術出版社)
56	デザインの現場 (美術出版社)
57	別冊 デザインの現場 (美術出版社)
58	日経アーキテクチュア (日経マグローヒル社)
59	日経デザイン (日経 BP 社)
60	につけいでざいん (日経マグローヒル社)
61	日本色彩学会誌 (日本色彩学会)
62	日本建築学会学術講演会プログラム (日本建築学会)
63	日本建築学会学術講演梗概集. A-1, 材料施工 (日本建築学会)
64	日本建築学会学術講演梗概集. A-2, 防火, 海洋, 情報システム技術 (日本建築学会)
65	日本建築学会学術講演梗概集. B-1, 構造 I, 荷重・信頼性, 応用力学・構造解析, 基礎構造, シェル・立体構造・膜構造 (日本建築学会)
66	日本建築学会学術講演梗概集. B-2, 構造 II, 振動, 原子力プラント (日本建築学会)
67	日本建築学会学術講演梗概集. C-1, 構造 III, 木質構造, 鉄骨構造, 鉄骨鉄筋コンクリート構造 (日本建築学会)
68	日本建築学会学術講演梗概集. C-2, 構造 IV, 鉄筋コンクリート構造, プレストレストコンクリート構造, 壁構造・組積構造 (日本建築学会)
69	日本建築学会学術講演梗概集. D-1, 環境工学 I, 室内音響・音環境, 騒音・固体音, 環境振動, 光・色, 給排水・水環境, 都市設備・環境管理, 環境心理生理, 環境設計, 電磁環境 (日本建築学会)
70	日本建築学会学術講演梗概集. D-2, 環境工学 II, 熱, 湿気, 温熱感, 自然エネルギー, 気流・換気・排煙, 数値流体, 空気清浄, 暖冷房・空調, 熱源設備, 設備応用 (日本建築学会)
71	日本建築学会学術講演梗概集. E-1, 建築計画 I, 各種建物・地域施設, 設計方法, 構法計画, 人間工学, 計画基礎 (日本建築学会)
72	日本建築学会学術講演梗概集. E-2, 建築計画 II, 住居・住宅地, 農村計画, 教育 (日本建築学会)
73	学術講演梗概集. F-1, 都市計画, 建築経済・住宅問題 (日本建築学会)
74	学術講演梗概集. F-2, 建築歴史・意匠 (日本建築学会)
75	建築雑誌 (日本建築学会)
76	日本建築学会環境系論文集 (日本建築学会)
77	日本建築学会計画系論文集 (日本建築学会)
78	日本建築学会構造系論文集 (日本建築学会)
79	美育文化 (美育文化協会)
80	ブレーン : 広告とマーケティング (誠文堂新光社)
81	ハイファッション (文化服装学院出版局)
82	ファッションカラー. 別冊 (日本色研事業)
83	Fashion lab (日本色研事業)

洋書	
1	AA files : annals of the Architectural Association, School of Architecture ([London] : The Association)
2	Abitare (Milano : [Editrice Segesta])
3	Architectural design (London : A. Papadakis )
4	Architectural digest (Los Angeles, Calif.)
5	Architectural record (New York)
6	The Architectural review (London : Emap Construct)
7	Art & design : A.D (London : AD Editions)
8	Art in America : an illustrated magazine (New York)

9	Art, Das kunstmagazin (Hamburg : Gruner + Jahr)
10	Art monthly Australia (Canberra, ACT : Art Monthly, Australia)
11	ARTnews (New York : The Art Foundation)
12	L'Arca : the international magazine of architecture, design and visual communication (Milano : L'Arca Edizioni)
13	L'Architecture d'aujourd'hui (Boulogne, France : Jean-Michel Place)
14	Architecture intérieure C.R.E.E (Paris)
15	Art press ([Paris])
16	Beaux arts magazine (Levallois, [France] : Publications Nuit et jour)
17	Blueprint : the leading magazine of architecture and design (London : [Wordsearch] )
18	Casa vogue (Edizioni Condé Nast Milano)
19	Casabella : international architectural review (Milano : Gruppo Electa)
20	Cimaise : art et architecture actuels (Paris : Cimaise)
21	Communication arts (Palo Alto, Calif. : Coyne & Blanchard)
22	Connaissance des arts (Paris)
23	Daidalos : Berlin architectural journal ([Berlin] : [Bertelsmann])
24	Design Council of Industrial Design (London : Design Council)
25	Design from Scandinavia (Copenhagen : World Pictures)
26	Domus Editoriale Domus (Milano : Casa ed. Domus)
27	Eye : the international review of graphic design (London, England : Wordsearch )
28	Elle decor : lo stile dell'Estate (Milano : Federazione Italiana)
29	Form Diskurs : Zeitschrift für Design und Theorie (Frankfurt am Main : Verlag Form)
30	Form function Finland No.83 2001 Interior Design. Furniture (Helsinki : Finnish Society of Crafts and Design)
31	Frame (Amsterdam : BIS Publishers)
32	Garden design (Louisville, Ky. : Publication Board of the American Society of Landscape Architects)
33	Graphic arts monthly : the magazine of the printing industry (Newton : Cahners)
34	Graphis : international journal for graphic and applied art (Zurich : Amstutz & Herdeg 'Graphis' Press)
35	How : ideas & technique in graphic design (Bethesda, Md. : R.C. Publications )
36	ID : magazine of international design ([New York] : [Design Publications])
37	Interior design (New York : Interior Design Division of Whitney Communications)
38	Interni. Nuova serie : la rivista dell'arredamento (Milano : Electa)
39	Living architecture : Scandinavian design (Living Architecture ApS Denmark : Living Architecture ApS)
40	Lotus international (Milano, Italy)
41	Lürzer's int'l archive : ads, TV and posters world-wide (Düsseldorf : Handelsblatt )
42	MD : moebel interior design (Stuttgart : Konradin-Verlag Robert Kohlhammer )
43	Millennium film journal (New York : Millennium Film Workshop)
44	Novum : das Forum für Kommunikations-Design 4 Apr. 2002 Delicatessen. Ikon Graphics. Typografski. (München : Bruckmann) Form : Zeitschrift für Gestaltung No.189 Mar. 2003 Graphic Design (Köln : Westdeutscher Verlag)
45	Novum gebrauchsgraphik (München : Bruckmann)
46	Ottagono : rivista trimestrale di architettura arredamento industrial design (Milano)
47	Packaging digest (Chicago : Cahners Publication)
48	Parkett : Kunstzeitschrift/Art Magazine (Zürich : Parkett)
49	Progressive architecture (New York : Reinhold)
50	Surface design journal (Halsey, OR : Surface Design Association)
51	Techniques & architecture (Paris : Regirex-France)
52	Werk, Bauen + Wohnen (Zürich : Verlegergemeinschaft Werk, Bauen + Wohnen )
53	World architecture (London : Grosvenor Press International, Ltd)

## 資料5 「P.17 [8] 施設・設備等の整備計画」関連

電子ジャーナル一覧

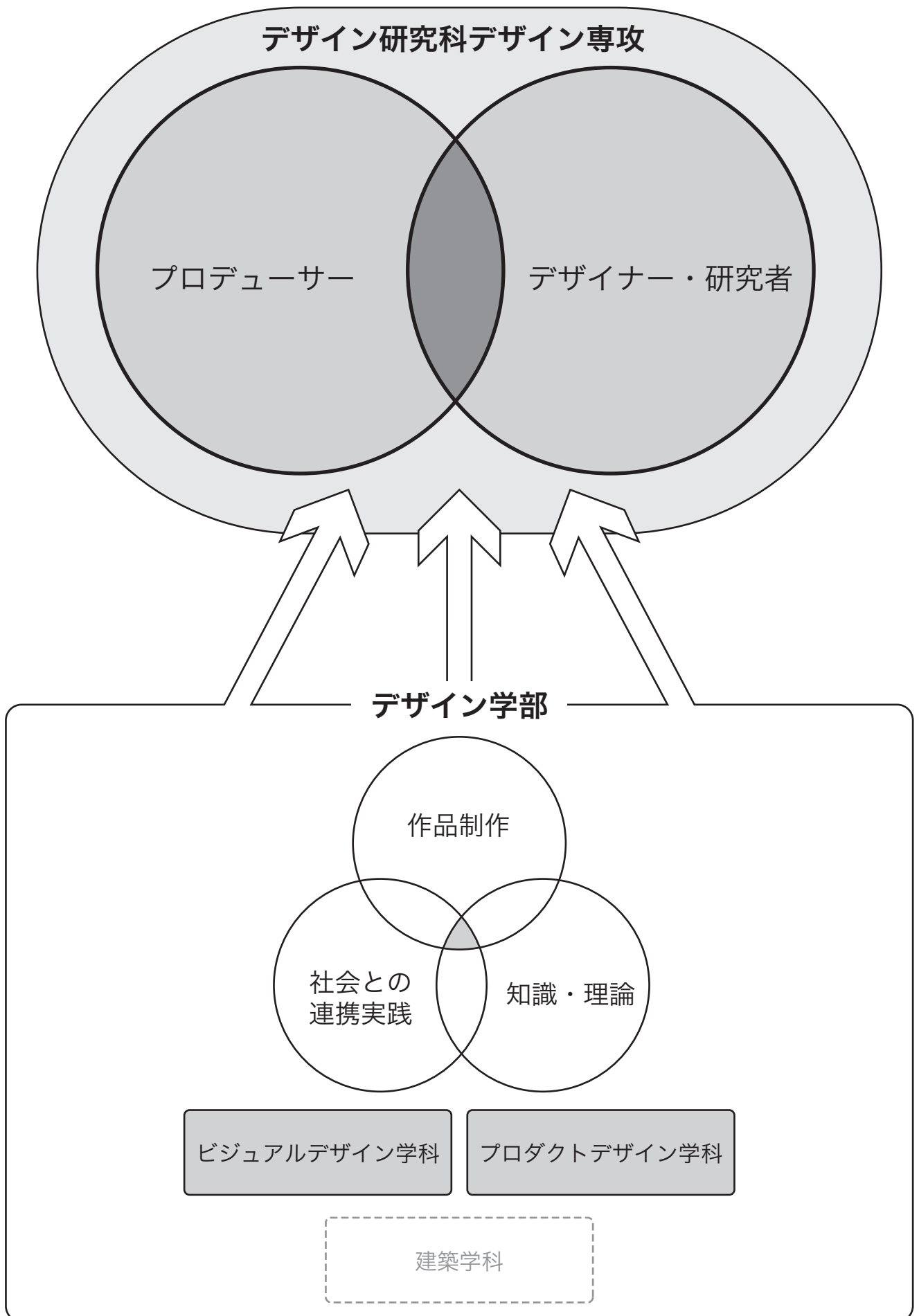
1	American Sociological Review (出版社 : American Sociological Association)
2	Camera Obscura (出版社 : Duke University Press)
3	China Quarterly (出版社 : Cambridge University Press)
4	College English (出版社 : National Council of Teachers of English)
5	Critical Studies in Education (出版社 : Taylor & Francis Limited)
6	Cultural Studies (出版社 : Taylor & Francis Limited)
7	Environment and Planning D:Society and Space (出版社 : Pion Limited)
8	Environmental History (出版社 : Environmental History)
9	Environmental Values (出版社 : White Horse Press)
10	Foreign Affairs (出版社 : Foreign Affairs)
11	Frieze (出版社 : Frieze Subscriptions)
12	Gender & Society (出版社 : Publications Inc.)
13	Gloval Governance : Review of Multilateralism and International Organizations (出版社 : Lynne Rienner Publishers)
14	Holocene (出版社 : Sage Publications Inc.)
15	International Journal of Sustainable Development and World Ecology (出版社 : Taylor & Francis Limited)
16	International Organization (出版社 : Cambridge University Press)
17	International Review of Education (出版社 : Springer-Verlag GmbH & CO)
18	Japan Forum (出版社 : Taylor & Francis Limited)
19	Journal of American Studies (出版社 : Cambridge University Press)
20	Journal of Modern African Studies (出版社 : Cambridge University Press)
21	Journal of Sociology (出版社 : Sage Publications Inc)
22	Library Journal (出版社 : Library Journal)
23	Positions:East Asia Cultures Critique (出版社 : Duke University Press)
24	Renaissance Quarterly (出版社 : The University of Chicago Press)
25	Social Text(ST) (出版社 : Duke University Press)
26	Society and Natural Resources (出版社 : Taylor & Francis Limited)
27	Time:Asian Edition (出版社 : Time)
28	Women:A Cultural Review (出版社 : Taylor & Francis Limited)

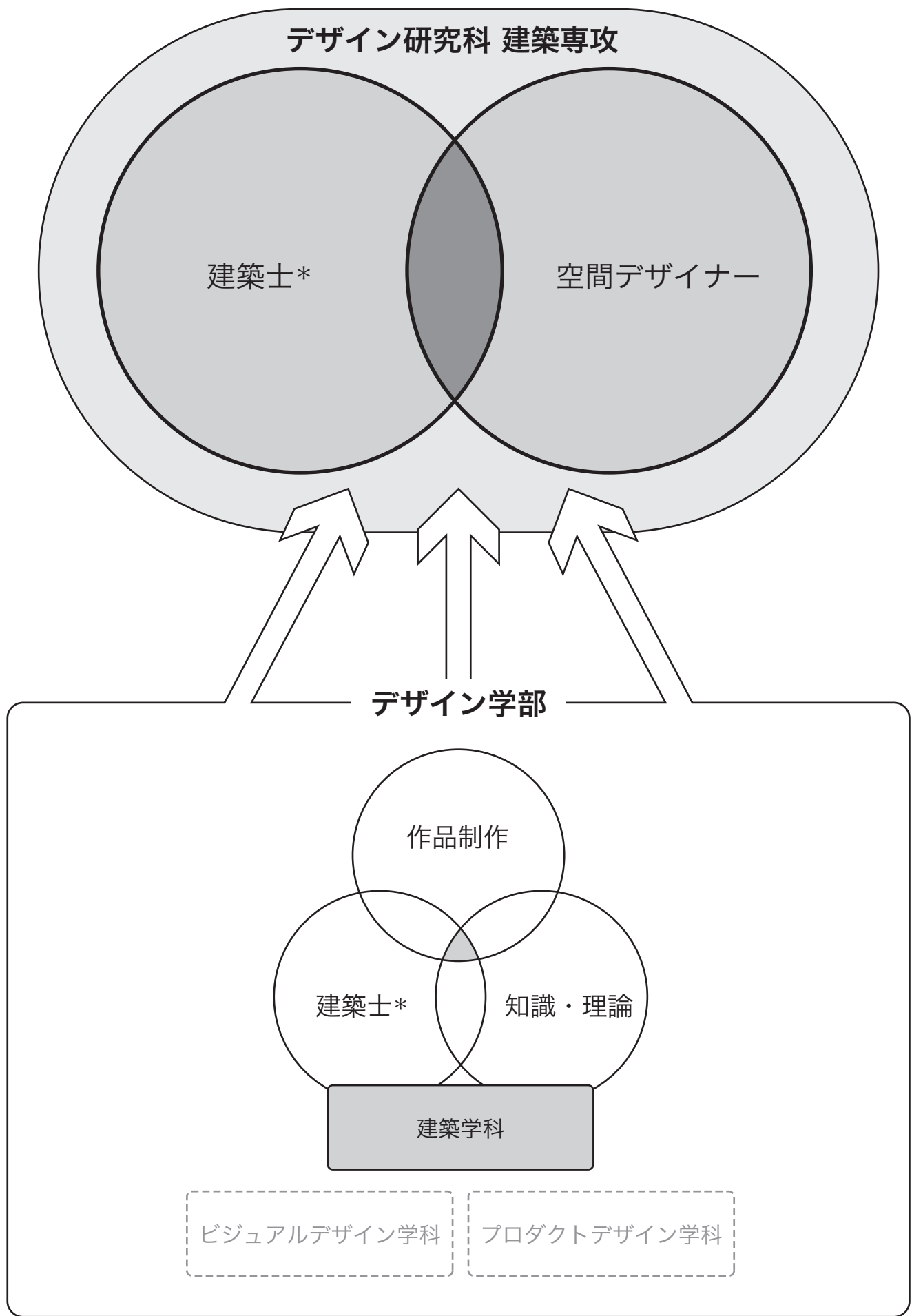
## デジタルデータベース一覧

1	JAPAN KNOWLEDGE (ネットアドバンス社提供)
2	Magazine Plus (日外アソシエーツ提供)
3	日経 BP 記事検索サービス (日経 BP 社提供)
4	聞蔵 II ビジュアル (朝日新聞社提供)
5	明治・大正・昭和の読売新聞 (読売新聞社提供)
6	K・O・D 研究社オンラインディクショナリー (研究社提供)
7	日国オンライン (ネットアドバンス社提供)
8	O. E. D 2nd ed(日外アソシエーツ提供)
9	ルーラル電子図書館 (農山漁村文化協会提供)
10	アジア動向データベース (アジア経済研究所提供)
11	Oxford Art Online (Oxford University Press 提供)
12	First Search (OCLC 提供)
13	Net Library (提供タイトル 『現代史資料:1-30,別巻』 東京, みすず書房)
14	Ci Nii 論文情報ナビゲータ (国立情報学研究所提供)
15	日経テレコン 21 (日本経済新聞社提供)
16	DIALOG (ダイアログ社提供)
17	G-Search (ジー・サーチ社提供)
18	官報情報検索サービス (国立印刷局提供)



資料6 「[9] 既設の学部との関係」 関連  
デザイン研究科デザイン専攻

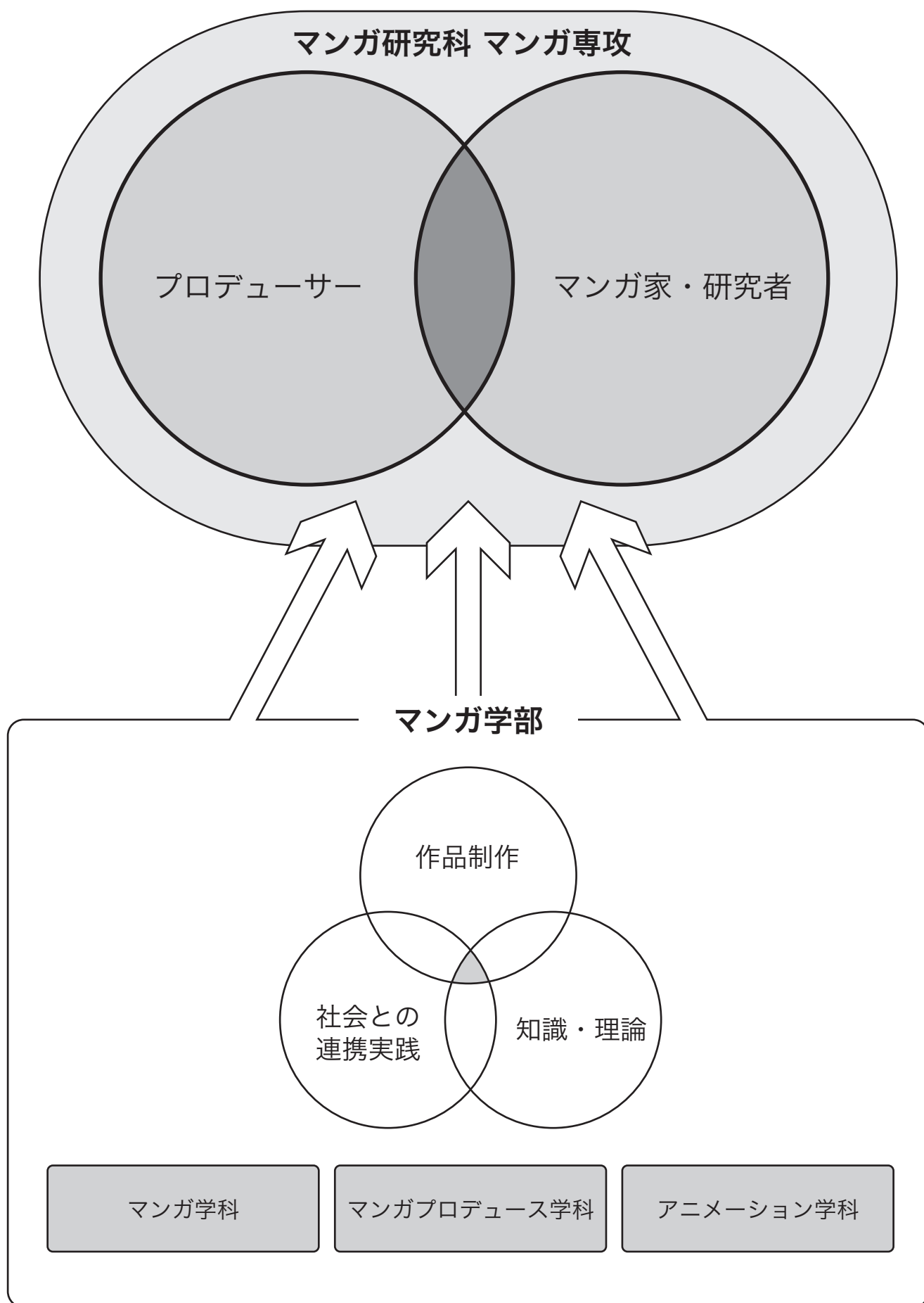




\* = 学部および研究科の授業実務換算にて建築士受験資格を取得

資料6 「[9] 既設の学部との関係」 関連

マンガ研究科 マンガ専攻



京 都 精 華 大 学 大 学 院 学 则

2010年4月1日施行

## 第 1 章 総 則

### (目的)

第 1 条 京都精華大学大学院（以下「本大学院」という。）は、学術の理論および応用を研究・教授し、その深奥を究めて文化の進展に寄与することを目的とする。

### (自己評価等)

第 2 条 本大学院は、教育研究水準の向上を図り、本大学院の目的および社会的使命を達成するため、本大学院における教育研究活動等の状況について自ら点検および評価を行い、その結果を公表するものとする。

- 2 前項の点検および評価を行うため、委員会を設ける。
- 3 委員会に関する規程は、これを別に定める。
- 4 点検、評価の項目等については、別にこれを定める。
- 5 本大学院は、第 1 項の点検および評価の結果について、本大学の教職員以外の者による検証を行うものとする。

### (研究科)

第 3 条 本大学院に次の研究科をおく。

芸 術 研 究 科  
デザイン研究科  
マンガ研究科  
人文学研究科

### (課程)

第 4 条 本大学院に、博士課程および修士課程をおく。

- 2 博士課程は、前期 2 年の課程（以下「博士前期課程」という。）および後期 3 年の課程（以下「博士後期課程」という。）に区分する。
- 3 博士前期課程は、修士課程として取り扱うものとする。
- 4 博士前期課程および修士課程は、広い視野にたつて精新な学識を修め、専攻分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うものとする。
- 5 博士後期課程は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、またはその高度な専門的な業務に従事するに必要な研究能力およびその基礎となる豊かな学識を養うものとする。

### (専攻および収容定員)

第 5 条 研究科の専攻ならびにその入学定員および収容定員は、別表第 1 のとおりとする。

(人材の育成に関する目的その他の教育研究上の目的)

第 5 条の 2 本大学院の研究科・専攻の人材の育成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

芸術研究科 芸術専攻 博士前期課程

専門領域にとらわれない多角的視点と柔軟な創造力を養い、芸術表現のさらなる探究を目的とし、新しい芸術文化の発信と高度な専門的技能を有した人材の養成を目的とする。

芸術研究科 芸術専攻 博士後期課程

多種多様な芸術表現のジャンルを整理・融合させながら専門応用能力を養い、制作と理論との調和を軸に、高度に洗練された芸術表現手法と芸術理論の探究を目的とし、新しい芸術文化の発信と活性化に貢献できる人材の養成を目的とする。

デザイン研究科 デザイン専攻 修士課程

デザイン分野の社会動向に広い視野と見識を備え、デザイン受容者の潜在的ニーズの分析・研究を深め、実践的に社会に貢献できる高度な専門的技能を有した人材の養成を目的とする。

デザイン研究科 建築専攻 修士課程

社会動向に広い視野と見識を持ち、建築分野において多様な側面から分析・研究を深め、実践的に社会に貢献できる高度な専門的技能を有した人材の養成を目的とする。

マンガ研究科 マンガ専攻 修士課程

国際的にも注目されるマンガ・アニメーション分野において、体系的な学術研究を深め、次代を担う新しい文化の発信に貢献できる高度な専門的技能を有した人材の養成を目的とする。

人文学研究科 人文学専攻 修士課程

人文諸科学を総合する学際的なアプローチにて、現代社会が直面する現実課題の探求を体系化し、実践的に社会に貢献できる高度な専門的技能を有した人材の養成を目的とする。

(研究科委員会および博士後期課程委員会)

第 6 条 本大学院に研究科委員会および博士後期課程委員会をおく。

- 2 研究科委員会は、研究科の授業を担当する教授、准教授、講師および助教をもって組織し、研究科長がこれを招集し、その議長となる。
- 3 研究科の責任者を研究科長とする。ただし、学部長との兼任を妨げない。
- 4 博士後期課程委員会は、当該研究科博士後期課程の担当教員をもって組織し、研究科長がこれを招集し、その議長となる。

(研究科委員会および博士後期課程委員会の審議事項)

第 7 条 研究科委員会は、博士前期課程および修士課程に関する次の各号に掲げる事項を審議し、博士後期課程委員会は、博士後期課程に関する次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 大学院担当教員の資格審査に関する事項
- (2) 学位の審査に関する事項
- (3) 授業科目ならびに研究指導に関する事項
- (4) 学生の入学、再入学、休学、退学、転学、除籍、復学および賞罰に関する事項
- (5) その他研究科に関する事項

(入学検定料、入学金および授業料等)

第 8 条 入学検定料、入学金および授業料等の学費は、別表第 2 の通りとする。

- 2 前項に規定する既納の入学検定料、入学金および授業料等の学費は、原則として返還しない。
- 3 前項の規定にかかわらず、入学許可を得た者で、指定の期日までに入学手続の取り消しを願い出た者については、入学金またはこれに相当する金額を除く学費を返還する。
- 4 学費納入に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

## 第 2 章 学年・学期・休業日・修業年限等

(学年、学期、授業日数および休業日)

第 9 条 大学院の学年、学期、授業日数、休業日については、京都精華大学学則第 6 条より第 8 条までの規定を準用する。

(修業年限)

第 10 条 博士前期課程および修士課程の標準修業年限は、2 年とする。

- 2 博士後期課程の標準修業年限は、3 年とする。

(在学年限)

第 11 条 博士前期課程および修士課程の学生は、4 年を超えて在学することができない。

- 2 博士後期課程の学生は、6 年を超えて在学することができない。
- 3 研究科委員会が有益と認めるときは、他の大学院研究科等における修学期間を修業年限に算入することができる。ただし、他の大学院研究科等における修学期間については 1 年を超えて算入することはできない。

## 第 3 章 入学・休学・退学等

(入学の時期)

第 12 条 入学の時期は、学年の始めとする。

(入学資格)

第 13 条 博士前期課程および修士課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。

- (1) 学校教育法第 52 条に定める大学を卒業した者
  - (2) 学校教育法第 68 条の 2 第 3 項の規定により、学士の学位を授与された者
  - (3) 外国において学校教育における 16 年の課程を修了した者
  - (4) 文部科学大臣の指定した者
  - (5) 大学に 3 年以上在学し、または外国において学校教育における 15 年の課程を修了し、本大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
  - (6) 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22 歳に達した者
  - (7) その他本大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者
- 2 博士後期課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。
- (1) 修士の学位を有する者
  - (2) 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者
  - (3) 文部科学大臣の指定した者
  - (4) 本大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24 歳に達した者
  - (5) その他本大学院において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
  - (6) 大学を卒業した後、大学、研究所等において 2 年以上研究に従事した者で、大学院において当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると本大学院が認めた者

(入学者の選考)

第 14 条 入学志願者に対しては、入学試験を行う。

2 入学試験に関し必要な事項は、別にこれを定める。

(入学許可等)

第 15 条 入学試験に合格した者は、学長が指定する期日までに所定の納付金を納入し、かつ必要書類を提出しなければならない。

2 学長は、前項の規定により所定の納付金を納入し、かつ必要書類を提出した者に対し、入学を許可する。

(再入学)



第 16 条 退学した者または除籍となった者が、保証人連署のうえ、所定の様式により再入学を願い出たときは、研究科委員会または博士後期課程委員会の議を経て、学長はこれを許可することができる。

- 2 再入学を願い出ることのできる期間は、退学の日または除籍の日より 2 年以内とする。
- 3 再入学の時期は学期の始めからとする。
- 4 再入学に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

(転入学)

第 17 条 他の大学院に 1 年以上在籍した後、本大学院の研究科に転入学しようとする者については、選考のうえ、既に在学した大学院において履修した授業科目の内容と成績等を考慮し、学長は入学を許可することができる。

(休学)

第 18 条 学生が疾病その他の事由によって 3 月以上就学できないときは、保証人連署のうえ、所定の様式により願い出て、学長の許可を得て休学することができる。

- 2 休学の期間は 1 年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は 1 年を限度として、休学期間の延長を認めることができる。
- 3 休学期間は通算して博士前期課程および修士課程にあつては 2 年、博士後期課程にあつては 3 年を超えることができない。
- 4 休学期間は、第 10 条および第 11 条に定める修業年限および在学年限に算入しない。
- 5 休学期間中の学費は、半期 10,000 円、通年 20,000 円とし、納入等に関する規定は第 8 条による。
- 6 休学に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

(復学)

第 19 条 休学者が復学しようとするときは、保証人連署のうえ、所定の様式により願い出て、学長の許可を得て復学することができる。

- 2 復学の時期は学期の始めからとする。
- 3 復学に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

(退学)

第 20 条 疾病、その他の事由によって退学または転学しようとする者は、保証人連署のうえ、所定の様式により願い出て、学長の許可を得なければならない。

- 2 退学および転学に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

(除籍)

第 21 条 学長は、学生が次の各号のいずれかに該当するときは、研究科委員会または博士後期課程

- (1) 第 11 条に規定する在学年限を超えた者
  - (2) 第 18 条第 2 項および第 3 項に規定する休学年限を超えた者
  - (3) 所定の授業料等学費の納付を怠り、その督促を受けてもこれを納入しない者
  - (4) 第 19 条に規定する復学手続きのない者
  - (5) 本大学院での就学の意思のない者
  - (6) 本人が死亡したとき
  - (7) その他、学長が相当の理由を認めたとき
- 2 除籍に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

## 第 4 章 授 業

(授業科目および単位数)

- 第 22 条 本大学院の芸術研究科において開設する授業科目および単位数は、別表第 3-1 に定める。
- 2 本大学院のデザイン研究科において開設する授業科目および単位数は、別表第 3-2 に定める。
  - 3 本大学院のマンガ研究科において開設する授業科目および単位数は、別表第 3-3 に定める
  - 4 本大学院の人文学研究科において開設する授業科目および単位数は、別表第 3-4 に定める。

(学部開設科目等の履修)

- 第 22 条の 2 研究科委員会は、教育研究上の必要に応じて、学生に授業科目を指定して、学部、本大学院の他研究科、他専攻および他課程が開設する授業科目を履修させることができる。

(単位の認定)

- 第 23 条 学長は、授業科目を履修した学生に対して、当該授業科目の試験および研究報告の成績を審査し、その結果に基づき、研究科委員会の議を経て、相当する数の単位を与える。

(他の大学院との交流)

- 第 24 条 本大学院は、教育上有益と認めるときは、他の大学院との協定に基づき、その大学院（以下「交流協定校」という。）との間に学生を交流し、学生に必要な授業科目を履修させ、または研究指導を受けさせることができる。
- 2 前項の規定に基づいて学生が履修した単位は、10 単位を超えない範囲で、本大学院で履修したものとみなすことができる。
  - 3 交流協定校の認定、交流協定校における学生の履修した授業科目の単位の認定、その他、他の大学院との交流に関する重要事項については、研究科委員会の議を経て学長が決定する。
  - 4 本条第 2 項の規定は、外国の大学院において授業科目を履修した場合においても準用する。
  - 5 他の大学院との交流に関して実施上必要とされる具体的措置については、別にこれを定める。

(研究指導)

第 25 条 本大学院に在学する学生は、担当教員による研究指導を受けなければならない。

- 2 研究科委員会が教育上有益と認めるときは、学生は他の大学院または研究所等において必要な研究指導を受けることができる。ただし、当該研究指導を受ける期間は、博士前期課程および修士課程の学生にあつては1年を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

第 26 条 研究科委員会が教育上有益と認めるときは、学生が本大学院入学前に他大学院において履修した授業科目について修得した単位を本大学院で修得したものとみなすことができる。ただし、学部学生として履修した科目については認めない。

- 2 前項の規定により修得したものとみなし、博士前期課程および修士課程の修了要件である単位数に算入することのできる単位数は、第 24 条第 2 項に定めるものとは別に、10 単位を超えないものとする。

## 第 5 章 課程の修了および学位

(博士前期課程および修士課程の修了)

第 27 条 博士前期課程および修士課程に2年以上在学し、修了の要件となる単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士論文または修士作品についての研究の成果の審査および最終試験に合格した者に対し、研究科委員会の議を経て、学長が修了を認定する。

- 2 前項の審査および最終試験については、別にこれを定める。
- 3 在学期間については、優れた研究業績をあげた者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

(博士後期課程の修了)

第 27 条の 2 博士後期課程に3年以上在学し、修了の要件となる単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査および最終試験に合格した者に対し、博士後期課程委員会の議を経て、学長が修了を認定する。

- 2 前項の審査および最終試験については、別にこれを定める。
- 3 在学期間については、優れた研究業績をあげた者については、博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した場合にあつては、博士後期課程に1年以上、前条第 3 項の規定による在学期間をもって修了した場合にあつては、博士課程に3年(当該在学期間を含む。)以上在学すれば足りるものとする。
- 4 前項の規定にかかわらず、第 12 条第 2 項第 2 号から第 4 号までの規定により、大学院への入学資格に関し修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で優れた研究業績をあげた

5 博士論文は、博士後期課程を満期退学した後、5年以内に提出するものとする。

(学位の授与)

第 28 条 学長は、博士前期課程および修士課程の修了を認定した者に対して、修士の学位を授与する。

2 学長は、博士後期課程の修了を認定した者に対して、博士の学位を授与する。

3 博士の学位は、本大学院の博士後期課程を経ない者であっても、本大学院の行う博士論文の審査に合格し、かつ当該課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認した者に対しても授与することができる。

4 修士および博士の学位の授与については、学長が定める。

5 本大学院が授与する学位の種類および専攻分野の名称は、次の通りとする。

芸術研究科	博士前期課程	修士（芸術）
	博士後期課程	博士（芸術）
デザイン研究科	修士課程	修士（芸術）
マンガ研究科	修士課程	修士（芸術）
人文学研究科	修士課程	修士（人文学）

6 学位に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

## 第 6 章 委託生・研究生・特別交流学生・科目等履修生および外国人留学生

(委託生)

第 29 条 本大学院において研修することについて、国・地方公共団体または他の教育機関から委託された者（外国人留学生を除く。）があるときは、本大学院における教授および研究に支障のない場合に限り、選考のうえ、研究科委員会の議を経て、委託生として学長が入学を許可することができる。

2 委託生の委託料は、別表第 2 の①に規定する一般学生の授業料相当額とする。

(研究生)

第 30 条 本大学院の専任教員のもとで研究しようとする者があるときは、研究科委員会の議を経て、学長がこれを許可することがある。

2 研究生の授業料等の学費は、別表第 2 の②に定めるところによる。

3 研究生に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

(特別交流学生)

第 31 条 第 24 条に規定する交流協定校の大学院学生が、特別交流学生として特定の授業科目の履

2 特別交流学生に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

(科目等履修生)

第 32 条 本大学院以外の者で 1 または複数の授業科目を履修することを希望する者があるときは、本大学院における教育および研究に支障がなく、また、本大学院が指定する科目に限り、学長がこれを許可することがある。

2 履修を許可する授業科目の単位数は、1 年度につき 8 単位以内とし、在学年限は 1 年以内とする。

3 科目等履修料等の納付金については、別表第 2 の③に定めるところによる。

4 科目等履修生に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

(外国人留学生)

第 33 条 勉学の目的を持った外国人で、第 13 条の要件を充足する者が、本大学院への入学を志願するときは、選考のうえ、学長が入学を許可することがある。

2 外国人留学生に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

(教育免許状の取得・種類)

第 34 条 中学校教諭 1 種免許状 (美術) および高等学校教諭 1 種免許状 (美術) 授与の所要資格を有する者で、当該免許状に係る中学校教諭専修免許状および高等学校教諭専修免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法および教育職員免許法施行規則に定める所要の単位を修得しなければならない。

2 本大学院において当該所要資格を取得できる中学校教諭専修免許状および高等学校教諭専修免許状の免許教科の種類は、芸術研究科博士前期課程芸術専攻にあつては、中学校教諭専修免許状 (美術) および高等学校教諭専修免許状 (美術) とする。

(学芸員資格の取得)

第 35 条 博物館学芸員の資格を取得しようとする者は、博物館法および同法施行規則に定めるところにより、学部において開設する博物館学芸員に関する科目を履修し、その単位を修得しなければならない。

## 第 7 章 賞 罰

(表彰)

第 36 条 学長は、人物、学業ともに優秀な学生に対して、これを表彰する。

(懲戒)

第 37 条 学長は、本大学院の学則または規程に違反し、その他学生としての本分に反した者で、研究科委員会または博士後期課程委員会において懲戒を要すると認められたときは、けん責、停学または退学の処分をすることができる。

## 第 8 章 補 則

(補則)

第 38 条 この大学院学則の施行に関して必要な細則は、研究科委員会の議を経て学長が定める。

### 附 則

第1項 この学則は、平成 3 年 4 月 1 日より施行する。

第2項 この学則は、平成 4 年 4 月 1 日より施行する。

第3項 この学則は、平成 5 年 4 月 1 日より施行する。

第4項 この学則は、平成 6 年 4 月 1 日より施行する。

第5項 この学則は、平成 8 年 4 月 1 日より施行する。

第6項 この学則は、平成 12 年 4 月 1 日より施行する。

第7項 この学則は、平成 15 年 4 月 1 日より施行する。

第8項 この学則は、平成 16 年 4 月 1 日より施行する。

第9項 この学則は、平成 18 年 4 月 1 日より施行する。

第10項 この学則は、平成 19 年 4 月 1 日より施行する。

第11項 この学則は、平成 20 年 4 月 1 日より施行する。

ただし、第 18 条第 5 項に規定する休学期間中の学費は、平成 20 年 4 月 1 日より在籍学生に一斉適用する。

第12項 この学則は、平成 21 年 4 月 1 日より施行する。

第13項 この学則は、平成 22 年 4 月 1 日より施行する。

別表第1 (第5条関係)

研究科名	専攻	博士前期課程 および修士課程		博士後期課程	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
芸術研究科	芸術専攻	—	—	5人	15人
	芸術専攻	20人	40人	—	—
デザイン研究科	デザイン専攻	10人	20人	—	—
	建築専攻	5人	10人	—	—
マンガ研究科	マンガ専攻	20人	40人	—	—
人文学研究科	人文学専攻	10人	20人	—	—
計		65人	130人	5人	15人

別表第2 (第8条関係)

## ① 正規の学生の授業料等

## 1. 入学検定料

費目	金額
入学検定料	35,000円

## 2. 芸術研究科

## (1) 一般学生

	前期	後期
入学金	100,000円	0円
授業料	469,000円	469,000円
実験実習料	5,000円	5,000円
教育充実費	166,500円	166,500円
合計	740,500円	640,500円

## (2) 本学卒業生

- a. 本学学部を卒業し、芸術研究科博士前期課程に入学した学生
- b. 本学研究科博士前期課程を修了し、博士後期課程に入学した学生
- c. 本学学部を卒業し、他大学博士前期課程を終了後、本学研究科博士後期課程に入学した学生

	前期	後期
入学金	0円	0円

授 業 料	469,000 円	469,000 円
実 験 実 習 料	5,000 円	5,000 円
教 育 充 実 費	83,500 円	83,500 円
合 計	557,500 円	557,500 円

ただし別表第 3-1 の修了要件を修士論文をもって充たそうとするものは、別表第 2 の 6 に定める授業料等を適用する。

### 3. デザイン研究科

#### (1) 一般学生

	前 期	後 期
入 学 金	100,000 円	0 円
授 業 料	469,000 円	469,000 円
実 験 実 習 料	5,000 円	5,000 円
教 育 充 実 費	166,500 円	166,500 円
合 計	740,500 円	640,500 円

#### (2) 本学卒業生

	前 期	後 期
入 学 金	0 円	0 円
授 業 料	469,000 円	469,000 円
実 験 実 習 料	5,000 円	5,000 円
教 育 充 実 費	83,500 円	83,500 円
合 計	557,500 円	557,500 円

ただし別表第 3-2 の修了要件を修士論文をもって充たそうとするものは、別表第 2 の 6 に定める授業料等を適用する。

### 4. マンガ研究科

#### (1) 一般学生

	前 期	後 期
入 学 金	100,000 円	0 円
授 業 料	469,000 円	469,000 円
実 験 実 習 料	5,000 円	5,000 円
教 育 充 実 費	166,500 円	166,500 円
合 計	740,500 円	640,500 円

#### (2) 本学卒業生



	前 期	後 期
入 学 金	0 円	0 円
授 業 料	469,000 円	469,000 円
実 験 実 習 料	5,000 円	5,000 円
教 育 充 実 費	83,500 円	83,500 円
合 計	557,500 円	557,500 円

ただし別表第 3-3 の修了要件を修士論文をもって充たそうとするものは、別表第 2 の 6 に定める授業料等を適用する。

## 5. 人文学研究科

### (1) 一般学生

	一 般 学 生	
	前 期	後 期
入 学 金	100,000 円	0 円
授 業 料	345,500 円	345,500 円
実 験 実 習 料	5,000 円	5,000 円
教 育 充 実 費	106,000 円	106,000 円
合 計	556,500 円	456,500 円

### (2) 本学卒業生

	本 学 卒 業 生	
	前 期	後 期
入 学 金	0 円	0 円
授 業 料	345,500 円	345,500 円
実 験 実 習 料	5,000 円	5,000 円
教 育 充 実 費	53,000 円	53,000 円
合 計	403,500 円	403,500 円

注 1 授業料等は次により算出した額とする。(1,000 円未満は四捨五入)

- (1) 入学検定料は学部と同額
- (2) 入学金は基礎となる学部の入学生に適用される額の 0.5 倍 (ただし、本学卒業者は免除)
- (3) 授業料は基礎となる学部の 2007 年度入学生に適用される額の 0.8 倍
- (4) 実験実習料は基礎となる学部の 2007 年度入学生に適用される額と同額
- (5) 教育充実費は基礎となる学部の 2007 年度入学生に適用される額と同額 (ただし、本学卒業者は 0.5 倍)

6. 芸術研究科、デザイン研究科、マンガ研究科（修了要件を修士論文をもって充たそうとするもの）

(1) 一般学生

	一 般 学 生	
	前 期	後 期
入 学 金	100,000 円	0 円
授 業 料	345,500 円	345,500 円
実 験 実 習 料	5,000 円	5,000 円
教 育 充 実 費	106,000 円	106,000 円
合 計	556,500 円	456,500 円

(2) 本学卒業生

	本 学 卒 業 生	
	前 期	後 期
入 学 金	0 円	0 円
授 業 料	345,500 円	345,500 円
実 験 実 習 料	5,000 円	5,000 円
教 育 充 実 費	53,000 円	53,000 円
合 計	403,500 円	403,500 円

② 研究生学費

	前 期	後 期	年 額
芸 術 研 究 科	230,000 円	230,000 円	460,000 円
デ ザ イン 研 究 科	230,000 円	230,000 円	460,000 円
マ ン ガ 研 究 科	230,000 円	230,000 円	460,000 円
人 文 学 研 究 科	169,000 円	169,000 円	338,000 円

京都精華大学大学院研究生学費算出基準

- (1) 研究生出願手数料＝大学院入学検定料×1/3
- (2) 研究生授業料＝（大学院入学金＋大学院（一般学生）授業料＋大学院（一般学生）教育充実費＋大学院（一般学生）実験実習料）×1/3
- (3) ただし、1,000 円未満は四捨五入とする。

③ 科目等履修料

登録料（1年度につき）	15,000円
履修料（1単位につき）	15,000円

別表第 3-1 (第 22 条関係)

## 芸術研究科

研究科	専攻	授業科目	単位数			備考	修了要件
			必修	選択	計		
芸術研究科 博士前期課程	芸術	<b>【共通基盤科目】</b>					
		表現特論	2		2		
		知的創造特論	2		2		
		プロジェクト企画演習	1		1		
		プロジェクトワーク演習 1		2	2		
		プロジェクトワーク演習 2		2	2	必修 5 単位 を含め 6 単位以上	
		プロジェクトワーク演習 3		2	2		
		プロジェクトワーク演習 4		2	2		
		英語プレゼンテーション演習		1	1		
		学術論文演習 1		2	2		
		学術論文演習 2		2	2		
		原書講読	1	2	2		
		原書講読	2	2	2		
	専攻	<b>【専門特講科目】</b>					
		芸術理論特講	2		2	自研究科 から 4 単 位以上お よび他研 究科から 2 単位以 上、計 8 単 位以上	
		表現領域特講 1	1	2	2		
		表現領域特講 2	2	2	2		
表現領域特講 3		3	2	2			
表現領域特講 4	4	2	2				
	<b>【専門研究科目】</b>						
	芸術研究 1	4		4	必修 16 単 位		
	芸術研究 2	4		4			
	芸術研究 3	4		4			
芸術研究 4	4		4				
博士後期課程 芸術研究科	芸術専攻	表現研究計画演習	2		2		
		表現総合研究 1	4		4		14 単位必 修および 博士論文
		表現総合研究 2	4		4		
		表現総合研究 3	4		4		

別表第 3-2 (第 22 条関係)

## デザイン研究科 デザイン専攻

研究科	専攻	授業科目	単位数			備考	修了要件
			必修	選択	計		
デザイン 研究科 修士課程	デザイン 専攻	<b>【共通基盤科目】</b>				必修 5 単位 を含め 6 単位以上	30 単位以上 修得および 修士論文 また は 修士論文
		表現特論	2		2		
		知的創造特論	2		2		
		プロジェクト企画演習	1		1		
		プロジェクトワーク演習 1		2	2		
		プロジェクトワーク演習 2		2	2		
		プロジェクトワーク演習 3		2	2		
		プロジェクトワーク演習 4		2	2		
		英語プレゼンテーション演習		1	1		
		学術論文演習 1		2	2		
		学術論文演習 2		2	2		
		原書講読 1		2	2		
		原書講読 2		2	2		
		<b>【専門特講科目】</b>				自研究科 から 4 単 位以上お よび他研 究科から 2 単位以 上、計 8 単 位以上	
		デザイン理論特講	2		2		
		創造領域特講 1		2	2		
		創造領域特講 2		2	2		
		創造領域特講 3		2	2		
		創造領域特講 4		2	2		
		<b>【専門研究科目】</b>				必修 16 単 位	
デザイン研究 1	4		4				
デザイン研究 2	4		4				
デザイン研究 3	4		4				
デザイン研究 4	4		4				

デザイン研究科 建築専攻

研究科	専攻	授業科目	単位数			備考	修了要件
			必修	選択	計		
デザイン 研究科 修士 課程	建築	<b>【共通基盤科目】</b>					
		表現特論	2		2		
		知的創造特論	2		2		
		プロジェクト企画演習	1		1		
		プロジェクトワーク演習 1		2	2		
		プロジェクトワーク演習 2		2	2	必修 5 単 位を含め 6 単位以 上	
		プロジェクトワーク演習 3		2	2		
		プロジェクトワーク演習 4		2	2		
		英語プレゼンテーション演習		1	1		
		学術論文演習 1		2	2		
		学術論文演習 2		2	2		
		原書講読 1		2	2		
		原書講読 2		2	2		
		<b>【専門特講科目】</b>					
	デザイン理論特講	2		2	自研究科 から 4 単 位以上お よび他研 究科から 2 単位以 上、計 8 単 位以上		30 単位以 上修得お よび修士 論文
	創造領域特講 1	1	2	2			
	創造領域特講 2	2	2	2			
	創造領域特講 3	3	2	2			
	創造領域特講 4	4	2	2			
	<b>【専門研究科目】</b>						
	建築研究 1	4		4	必修 16 単 位		
建築研究 2	4		4				
建築研究 3	4		4				
建築研究 4	4		4				
建築設計特講		2	2				
先端建築技術特講		2	2				
建築家倫理特講		2	2				
建築構造演習		2	2				
建築設備演習		2	2				
建築設計監理演習		4	4				

別表第 3-3 (第 22 条関係)

## マンガ研究科 マンガ専攻

研究科	専攻	授業科目	単位数			備考	修了要件
			必修	選択	計		
マンガ研究科 修士課程	マンガン	<b>【共通基盤科目】</b>				必修 5 単位を含め 6 単位以上	30 単位以上修得および修士論文
		表現特論	2		2		
		知的創造特論	2		2		
		プロジェクト企画演習	1		1		
		プロジェクトワーク演習 1		2	2		
		プロジェクトワーク演習 2		2	2		
		プロジェクトワーク演習 3		2	2		
		プロジェクトワーク演習 4		2	2		
		英語プレゼンテーション演習		1	1		
		学術論文演習 1		2	2		
	学術論文演習 2		2	2			
	原書講読 1		2	2			
	原書講読 2		2	2			
	マンガ専攻	<b>【専門特講科目】</b>				自研究科から 4 単位以上および他研究科から 2 単位以上、計 8 単位以上	
		マンガ理論特講	2		2		
		マンガ領域特講 1		2	2		
		マンガ領域特講 2		2	2		
		マンガ領域特講 3		2	2		
		マンガ領域特講 4		2	2		
		<b>【専門研究科目】</b>	マンガ研究 1	4			
マンガ研究 2			4		4		
マンガ研究 3			4		4		
マンガ研究 4			4		4		
					必修 16 単位		

別表第 3-4 (第 22 条関係)

人文学研究科

研究科	専攻	授業科目	単位数			備考	修了要件	
			必修	選択	計			
人文学研究科 修士課程	人文学	<b>【共通基盤科目】</b>						
		表現特論	2		2			
		知的創造特論	2		2			
		プロジェクト企画演習	1		1			
		プロジェクトワーク演習 1		2	2			
		プロジェクトワーク演習 2		2	2	必修 5 単位を含め 6 単位以上		
		プロジェクトワーク演習 3		2	2			
		プロジェクトワーク演習 4		2	2			
		英語プレゼンテーション演習		1	1			
		学術論文演習 1		2	2			
		学術論文演習 2		2	2			
		原書講読	1	2	2			
		原書講読	2	2	2			
		<b>【専門特講科目】</b>					自研究科から 4 単位以上および他研究科から 2 単位以上、計 8 単位以上	30 単位以上修得および修士作品または修士論文
	表象領域特講	1	2	2				
	表象領域特講	2	2	2				
	表象領域特講	3	2	2				
	表象領域特講	4	2	2				
	<b>【専門研究科目】</b>					必修 16 単位		
	人文学特講義	1	2	2				
	人文学特講義	2	2	2				
	人文学特講義	3	2	2				
	人文学特講義	4	2	2				
	人文学合同演習	2		2				
	人文学基礎演習	2		2				
	人文学演習	1	2	2				
	人文学演習	2	2	2				



# 京都精華大学大学院デザイン研究科委員会規程(案)

## (目的)

第1条 この規程は、「京都精華大学大学院学則」の規定により、本大学院のデザイン研究科委員会の運営について定めたものである。

## (構成)

第2条 研究科委員会は、デザイン研究科の授業を担当する教授、准教授、講師をもって組織する。

## (研究科長)

第3条 研究科にデザイン研究科長を置く。ただし、デザイン学部長との兼任を妨げない。

## (議長)

第4条 研究科長は、研究科委員会を招集し、議長となる。

2 研究科長は、あらかじめ代理の議長を指名することができる。

## (運営)

第5条 研究科委員会は、原則として毎月1回これを開く。

2 研究科長が必要と認めたときは、随時、これを開くことができる。

3 研究科委員会構成員の4分の1以上から要求があるときは、これを開かなければならない。

## (成立)

第6条 研究科委員会は、その構成員の3分の2以上の出席をもって成立するものとする。ただし、4週間以上の出張者、欠勤者、休職者および学外研究員は定足数の計算から除外するものとする。

## (所管事項)

第7条 研究科委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教授および研究に関すること
- (2) 教育課程および履修方法に関すること
- (3) 学生指導に関すること
- (4) 学生の入学、再入学、休学、退学、転学、除籍および賞罰に関すること
- (5) 学生の試験および課程の修了に関すること
- (6) 学位に関すること
- (7) 教員の人事に関すること
- (8) 学長の諮問した事項
- (9) その他研究科の運営に関し、重要と認められること

(議決)

第8条 研究科委員会の議事の裁決は、原則として無記名投票により、出席構成員の過半数で決するものとする。

2 研究科委員会において重要と認められる事項は、出席構成員の3分の2以上で決するものとする。

(審査委員会)

第9条 研究科委員会は、修士論文、修士作品を審査するため、審査委員会を設ける。

2 審査委員会の運営については、別にこれを定める。

(改廃)

第10条 本規程の改廃は、研究科委員会において、出席構成員の3分の2以上で決するものとする。

附 則

この規程は、2010年4月1日より施行する。

## 京都精華大学大学院マンガ研究科委員会規程(案)

### (目的)

第1条 この規程は、「京都精華大学大学院学則」の規定により、本大学院のマンガ研究科委員会の運営について定めたものである。

### (構成)

第2条 研究科委員会は、マンガ研究科の授業を担当する教授、准教授、講師をもって組織する。

### (研究科長)

第3条 研究科にマンガ研究科長を置く。ただし、マンガ学部長との兼任を妨げない。

### (議長)

第4条 研究科長は、研究科委員会を招集し、議長となる。

2 研究科長は、あらかじめ代理の議長を指名することができる。

### (運営)

第5条 研究科委員会は、原則として毎月1回これを開く。

2 研究科長が必要と認めたときは、随時、これを開くことができる。

3 研究科委員会構成員の4分の1以上から要求があるときは、これを開かなければならない。

### (成立)

第6条 研究科委員会は、その構成員の3分の2以上の出席をもって成立するものとする。ただし、4週間以上の出張者、欠勤者、休職者および学外研究員は定足数の計算から除外するものとする。

### (所管事項)

第7条 研究科委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教授および研究に関すること
- (2) 教育課程および履修方法に関すること
- (3) 学生指導に関すること
- (4) 学生の入学、再入学、休学、退学、転学、除籍および賞罰に関すること
- (5) 学生の試験および課程の修了に関すること
- (6) 学位に関すること
- (7) 教員の人事に関すること
- (8) 学長の諮問した事項
- (9) その他研究科の運営に関し、重要と認められること

(議決)

第8条 研究科委員会の議事の裁決は、原則として無記名投票により、出席構成員の過半数で決するものとする。

2 研究科委員会において重要と認められる事項は、出席構成員の3分の2以上で決するものとする。

(審査委員会)

第9条 研究科委員会は、修士論文、修士作品を審査するため、審査委員会を設ける。

2 審査委員会の運営については、別にこれを定める。

(改廃)

第10条 本規程の改廃は、研究科委員会において、出席構成員の3分の2以上で決するものとする。

附 則

この規程は、2010年4月1日より施行する。

# ① 京都精華大学 都道府県内位置図



## ②京都精華大学 交通機関図



### 京都精華大学

- ・ JR 京都駅または阪急烏丸駅から地下鉄に乗り換え、国際会館駅下車。スクールバスに乗り換え約 5 分。
- ・ 京阪出町柳駅より叡山電鉄鞍馬行き（または二軒茶屋行き・市原行き）に乗り換え、京都精華大学前駅下車すぐ。

### 京都精華大学 田中校地

- ・ 京阪出町柳駅より叡山電鉄鞍馬行き（または二軒茶屋行き・市原行き）に乗り換え、元田中駅下車徒歩 5 分。



③京都精華大学校地 197,522.89m<sup>2</sup>  
所在地 京都市左京区岩倉木野町137番地





# 教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
-	学長	シマモト カン 島本 澣 <平成18年5月>		博士 (文学)		京都精華大学 学長 (平18.5) 京都精華大学芸術研究科 教授 (平16.4)

## 教 員 の 氏 名 等

(デザイン研究科 デザイン専攻)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 〈就任(予定)年月〉	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	担 単 位	当 数	年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
1	専任	教授 (研究 科長)	イノウエ シンサク 井上 斌策 〈平成22年4月〉		芸術学士		デザイン研究1	1前	4		1	京都精華大学 デザイン学部 教授 (平18.4)	4日
2	専任	教授	ツボウチ シゲアキ 坪内 成晃 〈平成22年4月〉		芸術学士		デザイン研究1 デザイン研究2	1前 1後	4 4		1 1	京都精華大学 副学長 (平21.4) 京都精華大学 芸術研究科 教授 (平16.4)	4日
3	専任	教授	マツタニ ショウジュン 松谷 昌順 〈平成22年4月〉		芸術学士		デザイン研究3 デザイン研究4	2前 2後	4 4		1 1	京都精華大学 芸術研究科 教授 (平16.4)	4日
4	専任	教授	マルタニ アキラ 丸谷 彰 〈平成22年4月〉		高等学校		デザイン研究4	2後	4		1	京都精華大学 芸術研究科 教授 (平16.4)	4日
5	専任	准教授	ナカタ キヨシ 中田 希佳 〈平成22年4月〉		芸術学修 士		デザイン研究3	2前	4		1	京都精華大学 芸術研究科 准教授 (平17.4)	4日
6	専任	准教授	オオサコ カツマサ 大迫 克全 〈平成22年4月〉		工学修士		デザイン研究2	1後	4		1	京都精華大学 デザイン学部 准教授 (平19.4)	4日
7	専任	准教授	サウ モリヒロ 佐藤 守弘 〈平成22年4月〉		博士 (芸術 学)		プロジェクト企画演習 デザイン理論特講 デザイン研究2 デザイン研究3 デザイン研究4	1後 1前 1後 2前 2後	1 2 4 4 4		1 1 1 1 1	京都精華大学 芸術研究科 准教授 (平16.4)	4日
8	兼担	教授	サウ ケイジ 佐藤 敬之 〈平成22年4月〉		芸術学士		プロジェクトワーク演習3 デザイン理論特講	1・2後 1前	2 2		1 1	京都精華大学 芸術研究科 教授 (平21.4)	4日
9	兼担	教授	ハヤマ ツトム 葉山 勉 〈平成22年4月〉		工学修士		プロジェクトワーク演習2	1・2後	2		1	京都精華大学 副学長 (平20.12) 京都精華大学 芸術研究科 教授 (平16.4)	4日
10	兼担	教授	シマモト カン 島本 浣 〈平成22年4月〉		博士 (文学)		表現特論	1前	2		1	京都精華大学 学長 (平18.5) 京都精華大学 芸術研究科 教授 (平16.4)	4日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 〈就任(予定)年月〉	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 単 位 数	当 年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
11	兼担	教授	アンドウ クニヒロ 安藤 邦洋 〈平成22年4月〉		文学修士 ※		学術論文演習 1	1・2	前	2	1	京都精華大学 芸術研究科 教授 (平16.4)	4日
12	兼担	教授	ハマダ クニヒロ 濱田 邦裕 〈平成22年4月〉		工学修士		プロジェクト企画演習	1	後	1	1	京都精華大学 芸術研究科 教授 (平16.4)	4日
13	兼担	講師	ニシ コウイチ 西 光一 〈平成22年4月〉		修士 (デザイン学) 修士 (メディア芸術学)		プロジェクトワーク演習1	1・2	前	2	1	京都精華大学 芸術学部 講師 (平19.4)	4日
14	兼任	講師	ホムラ ヒロシ 穂村 弘 〈平成22年4月〉		文学士		知的創造特論	1	後	2	1	著述業	1日
15	兼任	講師	ニシノ マキ 西野 真希 〈平成22年4月〉		文学修士		英語プレゼンテーション演習	1	前	1	1	ニューヨーク市立大学 非常勤講師 (平20.5まで)	1日
16	兼任	講師	モモキ ツツコ 桃木 睦子 〈平成22年4月〉		理学士		原書講読1 原書講読2	1・2前 1・2後		2 2	1 1	京都精華大学 人文学研究科 非常勤講師 (平20.9)	1日
17	兼任	講師	ヨシダ ヒデミチ 吉田 秀道 〈平成22年4月〉		商学士		創造領域特講1	1・2	前	2	1	京都精華大学 芸術研究科 非常勤講師 (平16.4)	1日
18	兼任	講師	シオセ タカユキ 塩瀬 隆之 〈平成22年4月〉		工学博士		創造領域特講2	1・2	後	2	1	京都大学総合博 物館 准教授 (平20.11)	1日
19	兼任	講師	トシマ ヒデキ 豊嶋 秀樹 〈平成22年4月〉		M. A. (英国)		創造領域特講3	1・2	前	2	1	合同会社ジュー・エム・ プロジェクト 代表社員 (平21.6)	1日
20	兼任	講師	カワバタ ミキト 川端 幹人 〈平成22年4月〉		学士 (法学)		創造領域特講4	1・2	後	2	1	メディア評論家	1日

## 教 員 の 氏 名 等

(デザイン研究科 建築専攻)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 〈就任(予定)年月〉	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年 次	担 単 位 数	当 年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
21	専任	教授	アライ キヨカズ 新井 清一 〈平成22年4月〉		M. of Architec ts※ (アメリ カ)		建築研究1 先端建築技術特講	1前 2後	4 2	1 1	京都精華大学 芸術研究科 教授 (平16.4)	4日
22	専任	教授	スズキ タカユキ 鈴木 隆之 〈平成22年4月〉		工学士		建築研究4	2後	4	1	京都精華大学 芸術研究科 教授 (平17.4)	4日
23	専任	教授	タナカ アツコ 田中 充子 〈平成22年4月〉		文学士		建築研究3 建築家倫理特講	2前 1・2前	4 2	1 1	京都精華大学 デザイン学部 教授 (平19.4)	4日
24	専任	准教授	トーマス タニエル Thomas Daniell 〈平成22年4月〉		Ph. D. (オース トラリ ア)		建築研究3 建築設計監理演習	2前 1・2後	4 4	1 1	京都精華大学 芸術研究科 特任准教授 (平21.4)	4日
25	専任	准教授	カタギ ヨウジ 片木 孝治 〈平成22年4月〉		芸術学士		建築研究4 建築設計監理演習	2後 1・2後	4 4	1 1	京都精華大学 芸術研究科 特任准教授 (平21.4)	4日
7	兼任	准教授	サトウ モリヒロ 佐藤 守弘 〈平成22年4月〉		博士 (芸術 学)		プロジェクト企画演習 デザイン理論特講	1後 1前	1 2	1 1	京都精華大学 芸術研究科 准教授 (平16.4)	4日
8	専任	教授	サトウ ケイジ 佐藤 敬之 〈平成22年4月〉		芸術学士		プロジェクトワーク演習3 デザイン理論特講	1・2前 1前	2 2	1 1	京都精華大学 芸術研究科 教授 (平21.4)	4日
9	専任	教授	ハヤマ ツトム 葉山 勉 〈平成22年4月〉		工学修士		プロジェクトワーク演習2 建築研究2 建築設計特講	1・2後 1後 1・2前	2 4 2	1 1 1	京都精華大学 副学長 (平20.12) 京都精華大学 芸術研究科 教授 (平16.4)	4日
10	兼任	教授	シマモト カン 島本 浣 〈平成22年4月〉		博士 (文学)		表現特論	1前	2	1	京都精華大学 学長 (平18.5) 京都精華大学 芸術研究科 教授 (平16.4)	4日
11	兼任	教授	アンドウ ケヒロ 安藤 邦洋 〈平成22年4月〉		文学修士 ※		学術論文演習1	1・2前	2	1	京都精華大学 芸術研究科 教授 (平16.4)	4日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 単 位	当 数	年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
12	兼任	教授	ハマダ クニヒロ 濱田 邦裕 <平成22年4月>		工学修士		プロジェクト企画演習	1	後	1	1	1	京都精華大学 芸術研究科 教授 (平16.4)	4日
13	兼任	講師	ニシ コウイチ 西 光一 <平成22年4月>		修士 (デザイン学) 修士 (メディア芸術学)		プロジェクトワーク演習1	1	2	前	2	1	京都精華大学 芸術学部 講師 (平19.4)	4日
14	兼任	講師	ホムラ ヒロシ 穂村 弘 <平成22年4月>		文学士		知的創造特論	1	後	2	2	1	著述業	1日
15	兼任	講師	ニシノ マキ 西野 真希 <平成22年4月>		文学修士		英語プレゼンテーション演習	1	前	1	1	1	ニューヨーク市立大学 非常勤講師 (平20.5まで)	1日
16	兼任	講師	モモキ ムツコ 桃木 睦子 <平成22年4月>		理学士		原書講読1 原書講読2	1	2	前 後	2 2	1 1	京都精華大学 人文学研究科 非常勤講師 (平20.9)	1日
17	兼任	講師	ヨシダ ヒデミチ 吉田 秀道 <平成22年4月>		商学士		創造領域特講1	1	2	前	2	1	京都精華大学 芸術研究科 非常勤講師 (平16.4)	1日
18	兼任	講師	シオセ タカユキ 塩瀬 隆之 <平成22年4月>		工学博士		創造領域特講2	1	2	後	2	1	京都大学総合博 物館 准教授 (平20.11)	1日
19	兼任	講師	トシマ ヒデキ 豊嶋 秀樹 <平成22年4月>		M. A. (英国)		創造領域特講3	1	2	前	2	1	合同会社ソール・エム・ プロジェクト 代表社員 (平21.6)	1日
20	兼任	講師	カワバタ ミキト 川端 幹人 <平成22年4月>		学士 (法学)		創造領域特講4	1	2	後	2	1	メディア評論家	1日
26	兼任	講師	ミツダ エイスケ 満田 衛資 <平成22年4月>		修士 (工学)		建築構造演習	1	2	後	2	1	満田衛資構造計 画研究所 代表 (平18.6)	1日
27	兼任	講師	ヨシムラ ケイジ 芳村 恵司 <平成22年4月>		博士 (工学)		建築設備演習	1	2	前	2	1	京都精華大学 デザイン学部 非常勤講師 (平18.4)	1日

## 教 員 の 氏 名 等

(マンガ研究科 マンガ専攻)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 〈就任(予定)年月〉	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 単 位	当 年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
28	専任	教授 (研究 科長)	ジャクリヌ ベルント Jaqueline Berndt 〈平成22年4月〉		Ph. D. (ドイツ)		マンガ 理論特講 マンガ 領域特講1 マンガ 研究1 マンガ 研究2 マンガ 研究3 マンガ 研究4	1前 1・2前 1前 1後 2前 2後		2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1	京都精華大学 芸術研究科 教授 (平21.4)	4日
29	専任	教授	シノハラ ユキオ 篠原 幸雄 〈平成22年4月〉		教育学士		マンガ 研究1 マンガ 研究2 マンガ 研究3 マンガ 研究4	1前 1後 2前 2後		4 4 4 4	1 1 1 1	京都精華大学 マンガ学部 教授 (平18.4)	4日
30	専任	教授	タマダ キョウコ 玉田 京子 〈平成22年4月〉		短期大学 専攻科		マンガ 研究1 マンガ 研究2 マンガ 研究3 マンガ 研究4	1前 1後 2前 2後		4 4 4 4	1 1 1 1	京都精華大学 芸術研究科 教授 (平16.4)	4日
31	専任	教授	タケミヤ ケイコ 竹宮 恵子 〈平成22年4月〉		高等学校		マンガ 研究1 マンガ 研究2 マンガ 研究3 マンガ 研究4	1前 1後 2前 2後		4 4 4 4	1 1 1 1	京都精華大学 芸術研究科 教授 (平17.4)	4日
32	専任	教授	イタバシ ヒデノリ 板橋 秀法 〈平成22年4月〉		芸術学士		マンガ 研究1 マンガ 研究2 マンガ 研究3 マンガ 研究4	1前 1後 2前 2後		4 4 4 4	1 1 1 1	京都精華大学 マンガ学部 教授 (平20.4)	4日
33	専任	准教授	ヨシムラ カズマ 吉村 和真 〈平成22年4月〉		修士※ (文学)		マンガ 研究1 マンガ 研究2 マンガ 研究3 マンガ 研究4	1前 1後 2前 2後		4 4 4 4	1 1 1 1	京都精華大学 芸術研究科 准教授 (平20.4)	4日
34	専任	准教授	ツガタ ノブユキ 津堅 信之 〈平成22年4月〉		農学士		マンガ 領域特講2	1・2後		2	1	京都精華大学 マンガ学部 准教授 (平21.4)	4日
35	専任	教授	タケクマ ケンタロウ 竹熊 健太郎 〈平成22年4月〉		高等学校		マンガ 領域特講3	1・2前		2	1	京都精華大学 マンガ学部 教授 (平21.4)	4日
36	専任	講師	コイズミ マリヨ 小泉 真理子 〈平成22年4月〉		修士 (工学) 博士 (環境 学)		マンガ 領域特講4	1・2後		2	1	京都精華大学 マンガ学部 講師 (平21.4)	4日
7	兼担	教授	サトウ ケイジ 佐藤 敬之 〈平成22年4月〉		芸術学士		プロジェクトワーク演習3	1・2前		2	1	京都精華大学 芸術研究科 教授 (平21.4)	4日

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 〈就任(予定)年月〉	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週あたり平均日数
8	兼任	准教授	サトウ モリヒロ 佐藤 守弘 〈平成22年4月〉		博士(芸術学)		プロジェクト企画演習	1後	1	1	京都精華大学 芸術研究科 准教授 (平16.4)	4日
9	兼任	教授	ハヤマ ツトム 葉山 勉 〈平成22年4月〉		工学修士		プロジェクトワーク演習2	1・2後	2	1	京都精華大学 副学長 (平20.12) 京都精華大学 芸術研究科 教授 (平16.4)	4日
10	兼任	教授	シマモト カン 島本 浣 〈平成22年4月〉		博士(文学)		表現特論	1前	2	1	京都精華大学 学長 (平18.5) 京都精華大学 芸術研究科 教授 (平16.4)	4日
11	兼任	教授	アンドウ クニヒロ 安藤 邦洋 〈平成22年4月〉		文学修士 ※		学術論文演習 1	1・2前	2	1	京都精華大学 芸術研究科 教授 (平16.4)	4日
12	兼任	教授	ハマダ クニヒロ 濱田 邦裕 〈平成22年4月〉		工学修士		プロジェクト企画演習	1後	1	1	京都精華大学 芸術研究科 教授 (平16.4)	4日
13	兼任	講師	ニシ コウイチ 西 光一 〈平成22年4月〉		修士(デザイン学) 修士(メディア芸術学)		プロジェクトワーク演習1	1・2前	2	1	京都精華大学 芸術学部 講師 (平19.4)	4日
14	兼任	講師	ホムラ ヒロシ 穂村 弘 〈平成22年4月〉		文学士		知的創造特論	1後	2	1	著述業	1日
15	兼任	講師	ニシノ マキ 西野 真希 〈平成22年4月〉		文学修士		英語プレゼンテーション演習	1前	1	1	ニューヨーク市立大学 非常勤講師 (平20.5まで)	1日
16	兼任	講師	モモキ ムツコ 桃木 睦子 〈平成22年4月〉		理学士		原書講読1 原書講読2	1・2前 1・2後	2 2	1 1	京都精華大学 人文学研究科 非常勤講師 (平20.9)	1日